

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 563 集

こまいた
駒板 3 遺跡発掘調査報告書

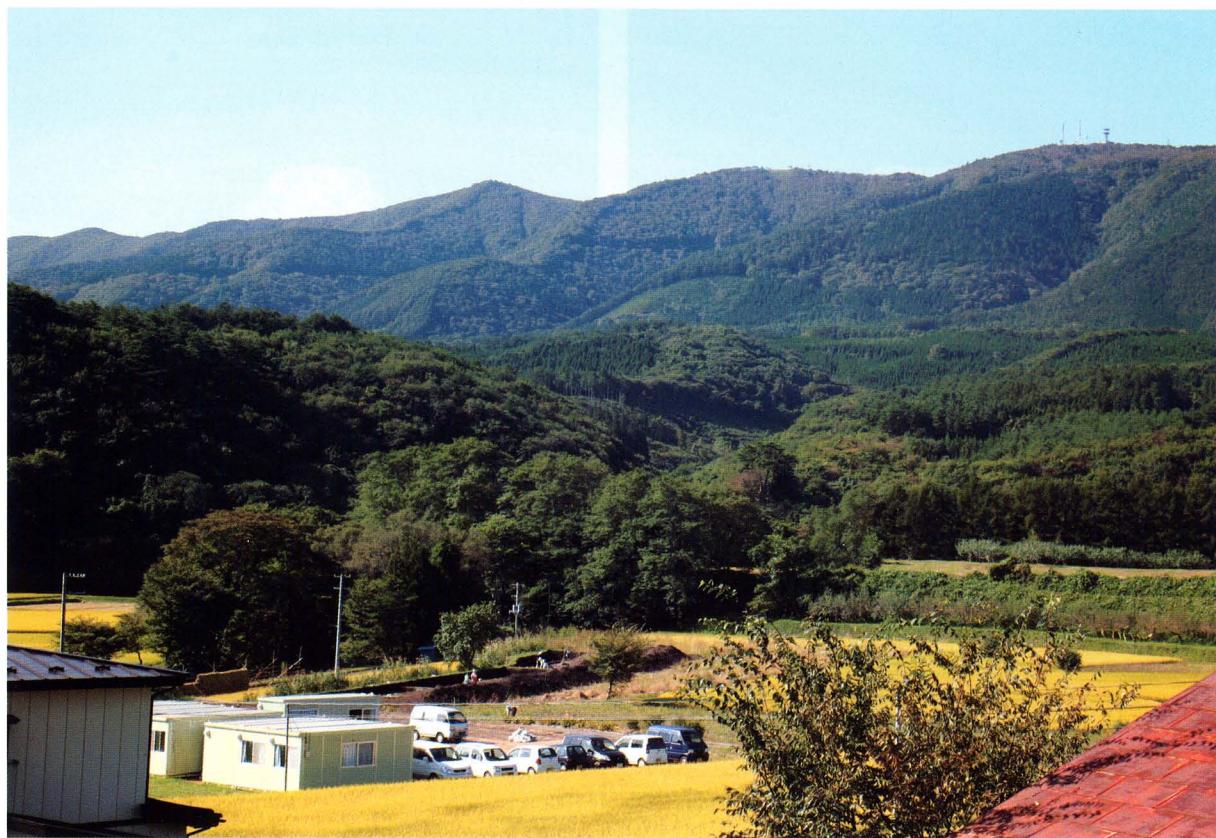
中山間地域総合整備事業(大清水地区)関連遺跡発掘調査

2009

岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室
(財)岩手県文化振興事業団

駒板3遺跡発掘調査報告書

中山間地域総合整備事業(大清水地区)関連遺跡発掘調査



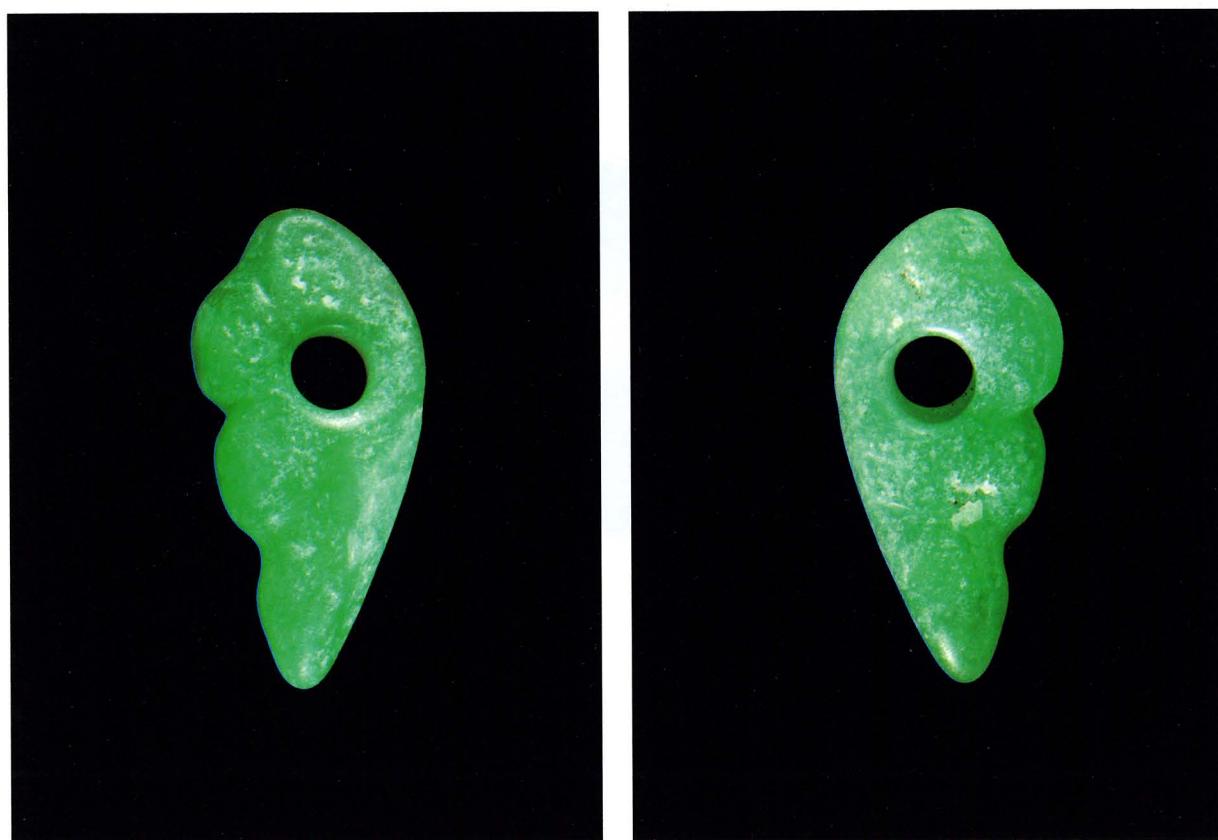
調査区と折爪岳



住居跡から出土した土器



人面付香炉形土器



ヒスイ石製品

序

岩手県には旧石器時代から連綿と続く数多くの遺跡が残されております。先人達が創造してきたこれらの貴重な文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、私達県民に課せられた責務であるといえましょう。一方、広大な面積を有し、その大部分が山地である本県にあっては地域開発による社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発との調和は今日的な課題であり、当(財)岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもと、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、中山間地域総合整備事業(大清水地区)関連遺跡発掘調査に関連して平成20年度に発掘調査を行った九戸郡軽米町大字山内に所在する駒板3遺跡の調査結果をまとめたものであります。

発掘調査によって、この地域に縄文時代後期後葉の集落跡が存在していたことが明らかになりました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財行政に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御協力を賜りました岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室をはじめとする関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成21年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 武田牧雄

例　　言

- 1 本報告書は、岩手県九戸郡軽米町大字山内第1地割64-1ほかに所在する駒板3遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
- 2 本遺跡の調査は、中山間地域総合整備事業大清水地区に関わる事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課と岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが委託を受け、受託事業として実施した。
- 3 本遺跡の調査成果は、すでに『平成20年度発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第546集)において発表しているが、内容については本書が優先する。
- 4 岩手県遺跡登録台帳に登録されている本遺跡の遺跡番号と遺跡略号は次の通りである。
遺跡番号 I F 92 - 1057 / 遺跡略号 K I 3 - 08
- 5 野外調査の面積・期間・担当者は、次の通りである。
調査面積 1,587 m²
調査期間 平成20年9月1日～11月18日
調査担当者 溜浩二郎・菅野紀子
- 6 室内整理の期間・担当者は、次の通りである。
整理期間 平成20年11月4日～平成21年3月31日
整理担当者 溜浩二郎・菅野紀子
- 7 遺物の鑑定は、次の機関に依頼した。
石材鑑定：花崗岩協会
炭化種子同定・・・(株)古環境研究所
ヒスイ原石産地同定・・・(株)第四紀地質研究所
- 8 基準点測量は、有限会社下斗米測量設計に委託した。
- 9 野外調査にあたっては、岩手県二戸地方振興局をはじめ地元の方々の御協力をいただいた。
- 10 本報告書の編集については、溜浩二郎が行った。各章の執筆については第I章「調査に至る経過」が岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室、それ以外の章は溜浩二郎が執筆した。
- 11 本遺跡の調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真(データ含む)・遺構実測図・遺物実測図などは岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の地理的環境	
1 遺跡の位置	1
2 遺跡周辺の地理的環境	2
3 基本土層	2
4 遺跡周辺の歴史的環境	7
III 調査の経過と方法	
1 野外調査の経緯	11
2 野外調査の方法	11
3 室内整理の手順と方法	13
IV 検出遺構と出土遺物	
1 遺構	17
2 遺物	36
V まとめ	
1 調査区	74
2 遺構	74
3 遺物	75
4 総括	76
VI 分析・鑑定	
1 炭化種実同定	77
2 ヒスイ石製品産地同定	79
報告書抄録	124

表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表	5	第4表 石器観察表	71
第2表 土器観察表	65	第5表 石製品観察表	73
第3表 土製品観察表	70		

図版目次

第 1 図 遺跡の位置	2	第 27 図 1号溝	35
第 2 図 周辺の地形と調査範囲	3	第 28 図 遺構内出土土器(1)	41
第 3 図 地形分類図	4	第 29 図 遺構内出土土器(2)	42
第 4 図 基本土層	7	第 30 図 遺構内出土土器(3)	43
第 5 図 周辺の遺跡分布図	10	第 31 図 遺構内出土土器(4)	44
第 6 図 グリッド配置図	12	第 32 図 遺構内出土土器(5)	45
第 7 図 凡例図	14	第 33 図 遺構内出土土器(6)	46
第 8 図 遺構配置図	15	第 34 図 遺構内出土土器(7)	47
第 9 図 1号住居跡	17	第 35 図 遺構内出土土器(8)	48
第 10 図 2号住居跡	18	第 36 図 遺構内出土土器(9)	49
第 11 図 3号住居跡(1)	19	第 37 図 遺構内出土土器(10)	50
第 12 図 3号住居跡(2)	20	第 38 図 遺構内出土土器(11)	51
第 13 図 4号住居跡	21	第 39 図 遺構外出土土器(1)	52
第 14 図 5号住居跡(1)	22	第 40 図 遺構外出土土器(2)	53
第 15 図 5号住居跡(2)	23	第 41 図 遺構外出土土器(3)	54
第 16 図 6号住居跡(1)	24	第 42 図 土製品	55
第 17 図 6号住居跡(2)	25	第 43 図 石器(1)	56
第 18 図 7号住居跡(1)	26	第 44 図 石器(2)	57
第 19 図 7号住居跡(2)	27	第 45 図 石器(3)	58
第 20 図 8号住居跡(1)	28	第 46 図 石器(4)	59
第 21 図 8号住居跡(2)	29	第 47 図 石器(5)	60
第 22 図 9号住居跡	30	第 48 図 石器(6)	61
第 23 図 10号住居跡(1)	31	第 49 図 石器(7)	62
第 24 図 10号住居跡(2)	32	第 50 図 石器(8)	63
第 25 図 1号炉	33	第 51 図 石器(9)、石製品	64
第 26 図 1・2号土坑	34		

写真図版目次

写真図版 1 航空写真	87	写真図版 20 遺構内出土土器(2)	106
写真図版 2 調査区	88	写真図版 21 遺構内出土土器(3)	107
写真図版 3 基本土層	89	写真図版 22 遺構内出土土器(4)	108
写真図版 4 1・2号住居跡	90	写真図版 23 遺構内出土土器(5)	109
写真図版 5 2号住居跡	91	写真図版 24 遺構内出土土器(6)	110
写真図版 6 3号住居跡	92	写真図版 25 遺構内出土土器(7)	111
写真図版 7 4号住居跡	93	写真図版 26 遺構内出土土器(8)	112
写真図版 8 5号住居跡	94	写真図版 27 遺構内出土土器(9)	113
写真図版 9 5号住居跡	95	写真図版 28 遺構外出土土器(1)	114
写真図版 10 6号住居跡	96	写真図版 29 遺構外出土土器(2)	115
写真図版 11 6号住居跡	97	写真図版 30 遺構外出土土器(3)、土製品	116
写真図版 12 7号住居跡	98	写真図版 31 石器(1)	117
写真図版 13 8号住居跡	99	写真図版 32 石器(2)	118
写真図版 14 8号住居跡	100	写真図版 33 石器(3)	119
写真図版 15 9号住居跡	101	写真図版 34 石器(4)	120
写真図版 16 9・10号住居跡	102	写真図版 35 石器(5)	121
写真図版 17 1号炉	103	写真図版 36 石器(6)	122
写真図版 18 1号溝、1・2号土坑	104	写真図版 37 石器(7)、石製品	123
写真図版 19 遺構内出土土器(1)	105		

I 調査に至る経過

駒板3遺跡は、中山間地域総合整備事業大清水地区（以下、大清水地区）の施行に伴い、その事業区域内に位置することから、工事施行前に発掘調査を実施することとなったものである。

大清水地区は九戸郡軽米町南西部に位置し、南北に走る国道340号線を中心に瀬月内川やその支流に沿って分散した集落によって形成されている。農地の現況は、未整備の水田（5～10a/枚）で、なおかつ幅員狭小な農道であることから作業効率が悪く、また用排水兼用の土側溝のため、排水不良等の原因により湿田となっている。このため、大清水地区は、ほ場整備の実施により、水田の汎用化と農作業の効率化等を図り、農業経営の安定化及び集落営農の促進に資することを目的として、平成19年度に事業着手したものである。

大清水地区の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、二戸地方振興局農政部農村整備室から平成19年10月22日付二地農（整）第104-1号「中山間地域総合整備事業計画における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行い、依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成19年10月30日に試掘調査を実施し、工事に着手するには駒板3遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成19年11月30日付教生第1018号「中山間地域総合整備事業計画における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により回答してきた。この回答を受け、平成20年2月14日付二地農（整）第104-7号「埋蔵文化財試掘調査に係る工法協議について」により、盛土工法による保存箇所と発掘調査による記録保存箇所について岩手県教育委員会と協議を行った。

その結果を踏まえ、岩手県教育委員会の調整を受けて平成20年7月25日付けで財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施したものである。

（岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室）

II 遺跡の地理的環境

1 遺跡の位置

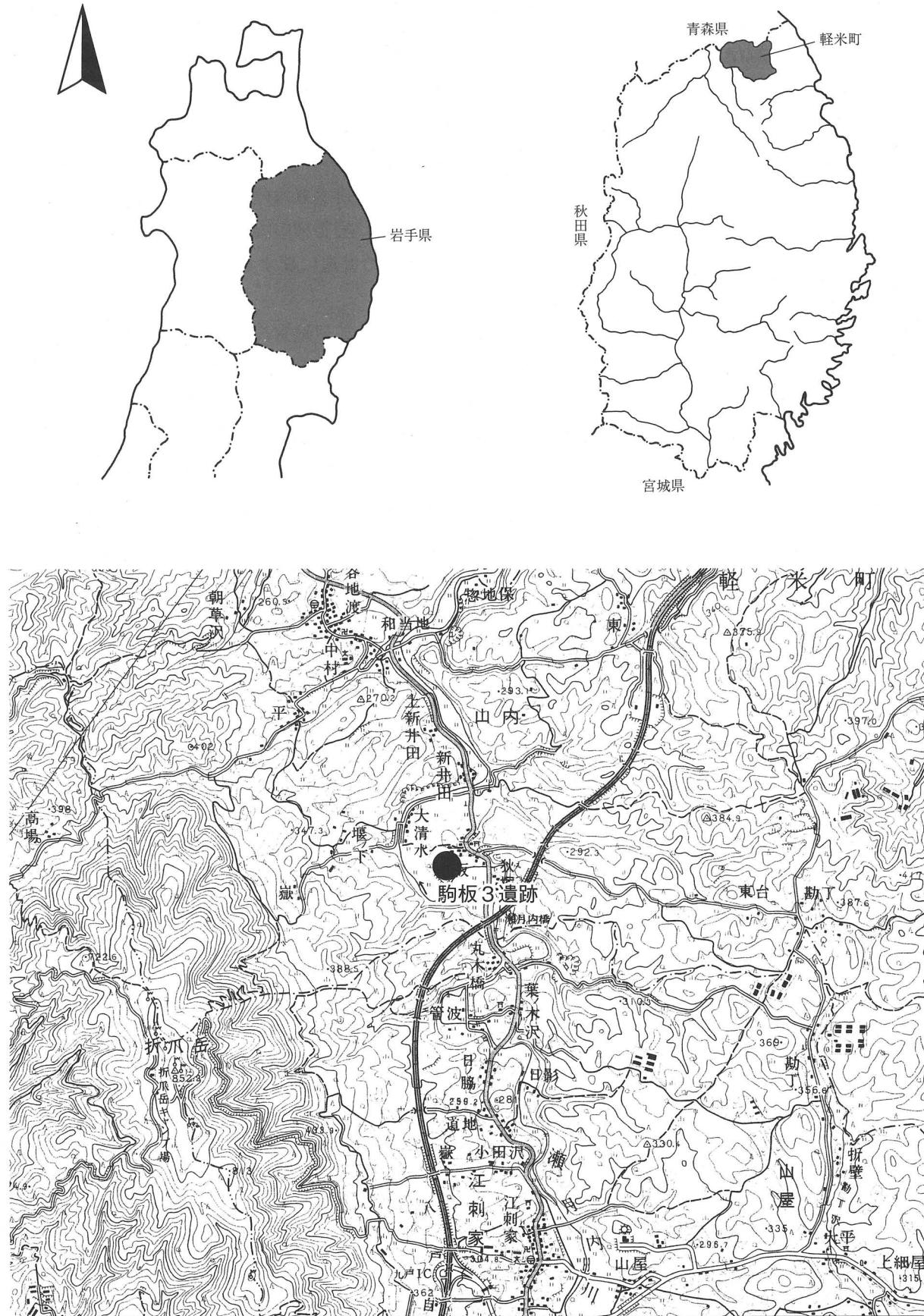
駒板3遺跡が所在する軽米町は岩手県の北端部に位置し、県都盛岡市から北東約73kmの距離にあり、総面積は約246km²で、北は青森県南部町・八戸市南郷区・階上町、南は九戸村、久慈市、西は二戸市、東は洋野町に接する。

遺跡は九戸郡軽米町大字山内第1地割64-1ほかに所在し、軽米町南西部の軽米町と九戸村の町村境のおよそ北緯40度17分10秒、東経141度24分16秒の地点に位置し、地形図上では国土地理院発行の5万分の1地形図「一戸」NJ-54-18-11（九戸11号）の図幅に含まれる。

2 遺跡周辺の地理的環境

軽米町は北上山地の北端部に位置し、地勢の多くは山地・丘陵地である。遺跡の西側には折爪岳（852m）を頂点とし、小倉岳（652m）、名久井岳（615m）が南北に連なる山地で占められる。これに対して、北から北東側には標高200m～400m前後のなだらかな丘陵や小起伏山地が広がり、周辺の高い所としては、東に久慈平岳（760m）・階上丘（740m）・蛇石山（525m）・姫ヶ森（498m）などが見ら

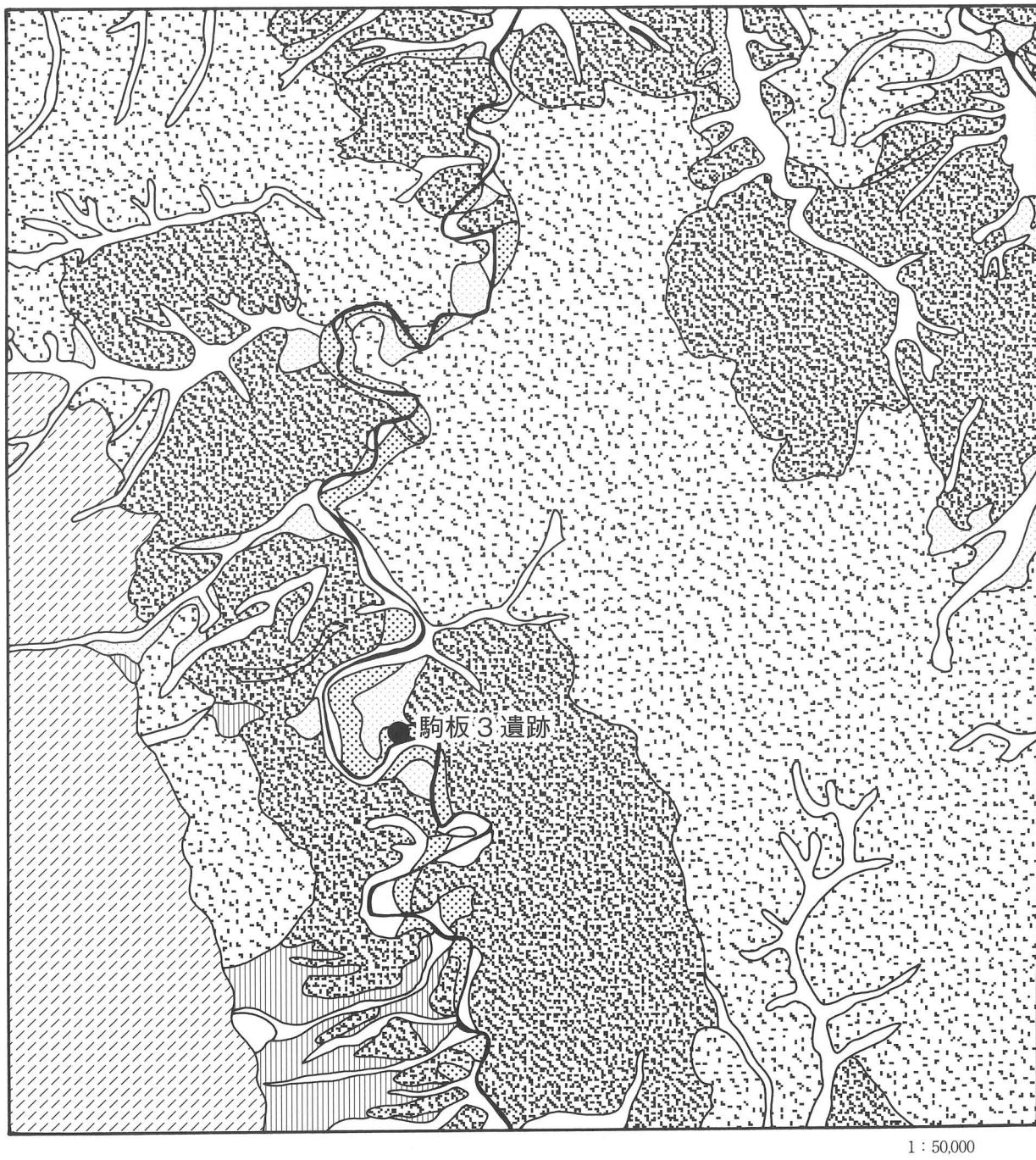
1 遺跡の位置



第1図 遺跡の位置



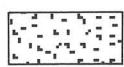
第2図 周辺の地形と調査範囲



1 : 50,000



山地



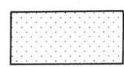
丘陵地 A



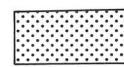
丘陵地 B



扇状地



砂礫段丘 A



砂礫段丘 B

第3図 地形分類図

れるだけである。これらの丘陵・山地は、久慈市山形村明神岳を源泉として折爪岳の東山麓を蛇行して北流する瀬月内川や九戸村雪谷地区周辺を源泉とする雪谷川、およびこれらの支流によって開析されている。また、瀬月内川と雪谷川は軽米町大鳥付近で合流し、水吉をすぎて青森県に入り、その名を新井田川と変え、八戸市で太平洋に注ぐ。瀬月内川と雪谷川およびこれらの支流は流域周辺の丘陵・山地を開析しながら、所々に小規模な沖積地や段丘を形成しているが、谷底平野や段丘の発達も悪く、小規模で地形区分に不明な点が多いのが現状である。本遺跡周辺を見ると、瀬月内川の西方は折爪岳山麓の崖錐扇状地が開析を受けて丘陵地状を呈する地形となっており、これは瀬月内川の開析による平地（瀬月内川地溝帯）とは明瞭に異なる段丘で中位段丘に相当する。一方で瀬月内川東方には北上山地の古い隆起準平原を起源とする起伏の小さな山地が広がっている。これらに挟まれた瀬月内川流域にはこれに注ぐ大小の沢によって開析された沖積地が形成され、今回調査を行った駒板3遺跡も瀬月内川の流れによって形成された低位の段丘面上にある。

中～古生代の軽米町付近の地質は、北部北上山地の西半部を含む葛巻～釜石帯の延長上にあり、先第三系が分布する。主に頁岩・砂岩・チャートなどからなり、火山岩・凝灰岩類・石灰岩を伴い、石灰岩・チャートには石炭～ジュラ紀の化石を含む。その上位は十和田・八甲田系の火山碎屑物に覆われ、古い順に洪積世では天狗袋火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層、沖積世では二ノ倉火山灰層、南部浮石層、十和田中振浮石層、十和田b降下火山灰層、十和田a降下火山灰層となる。

遺跡周辺の地質を見ると瀬月内川西方は折爪岳起源の丘陵地東部先端にあたり、表土の下には古生層の粘板岩・チャートによって作られる崖錐性堆積物が厚く堆積しているの対し、瀬月内川東方は表土の下にローム（黒ボク）があり、遺跡付近は駒板統と呼ばれる黒ボク土壌である。

<参考文献>

岩手県企画開発室（北上山系開発） 1976 『北上山系開発地域 土地分類基本調査 一戸』

3 基 本 土 層

今回の調査区は、瀬月内川の影響を受けた沖積段丘面に立地する。調査区幅は東西間 175 m、南北間 188 mで調査区北側の I C グリッドと南西側の II A・III A 区は湿地状の地形であった。このうち II A・III A 区は耕作土下から古代の溝跡の一部が検出され、埋土中や周辺からは縄文土器が散布的な出土を確認したものの、溝の検出面から約 1 m 下の礫層間までは酸化鉄を含む褐灰色粘土を主体とする層で遺構・遺物はみつからなかった。調査の主体となった遺構検出箇所にもっとも準じている II B 14 j グリッドを基本層序のメインセクションとしたが、遺跡全体に見られる層序をすべて確認できる箇所はなく、欠落した層序については III 層は堆積が確認できた補点 4 より南西側に位置する II B 19 f グリッドの基本層序 3 層、補 4 より北東側で堆積が確認できる VII 層を調査区北側 I C 9 i の基本層序 7 層よりそれぞれ補完した。なお、補 1 に隣接する調査区のトレンチで十和田 a 降下火山灰の堆積が II 層・III 層間で確認されたが、遺構・遺物は全くなかった。また、湿地状で水の湧く地点でもあり、農業用道路として日常的に使用され、早急に埋め戻しを行わなければならない状況であったため図化は行わず、写真のみの記録に留めたため、基本土層図面に該当する層は含まれていない。

今回の調査で遺構・遺物が確認されたのは IV 層・V 層で、IV 層は後期後半、V 層は後期前半の遺物を包含する。

基本土層 (II B 14 j) <メインセクション>

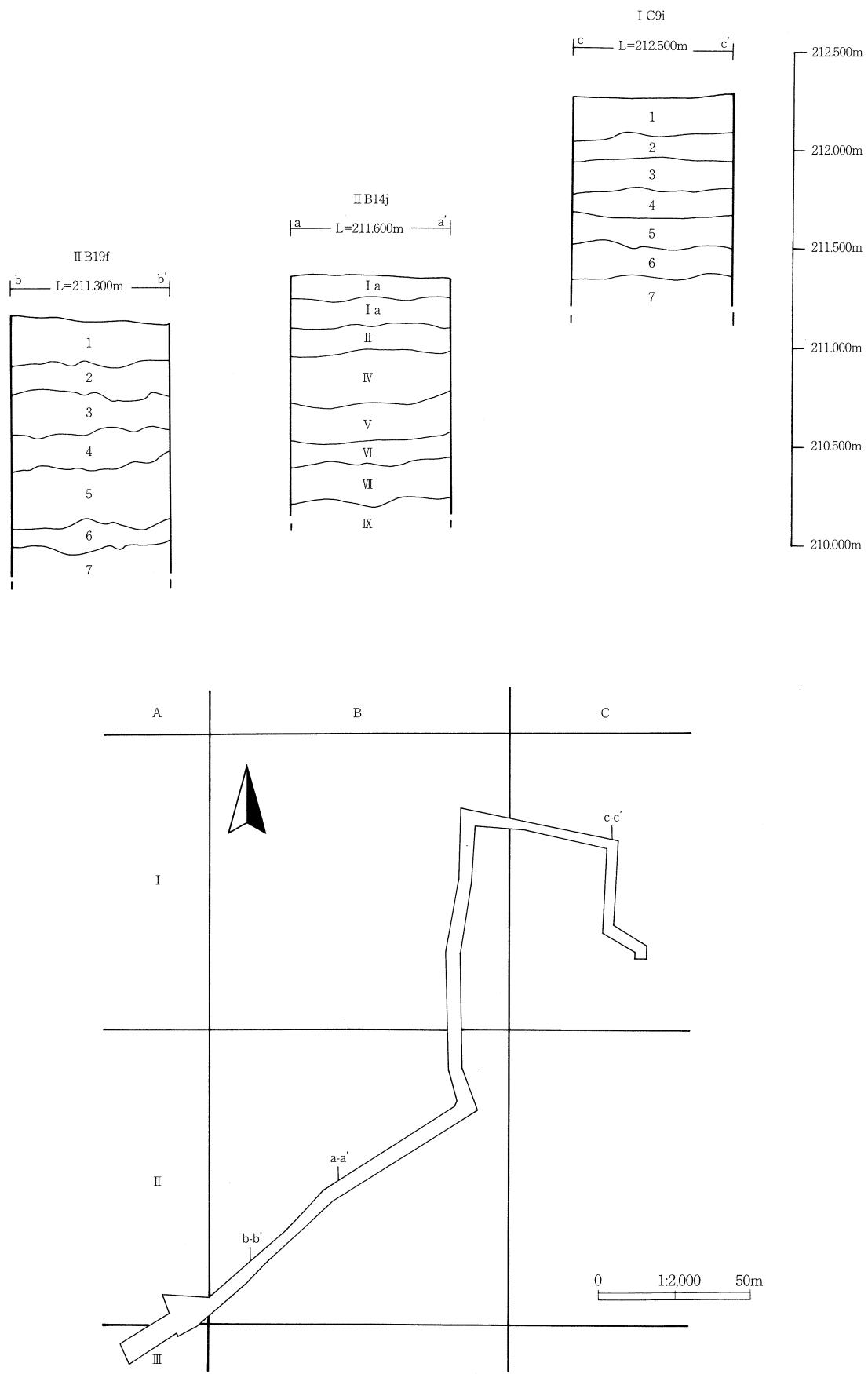
- I 10YR2/2 黒褐色土 旧耕作土。2層 (a、b層) に分層される。層厚各 25 cm。
- II 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 層厚 10 ~ 20 cm。旧耕作土ないし、整地層の可能性あり。
下に酸化鉄層確認できる箇所あり (この場合、酸化鉄層を II b 層と区別した)
- III 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりややあり 十和田 b 降下火山灰 (ϕ 1 ~ 3 mm) 7%混入 (※
土器含む)。補 4 より南西側の調査区の一部で堆積を確認。
- IV 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 径 1 mm の中揮浮石粒微量 (1 %未満) 含む。縄文
後期後半の遺構検出・遺物出土。
- V 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり 径 1 mm の中揮浮石粒 3 ~ 5 % 含む。縄文後期前半の遺物
出土。
- VI 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりあり にぶい黄燈色砂 (10YR6/4) 20%、中揮浮石粒 3 % 含む。
- VII 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 径 1 ~ 3 cm の礫 10%混入。
- VIII 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性あり しまりあり 補 4 より北東側の調査区で堆積を確認。湿地状で
ない箇所については土色は 10YR4/3 ~ 10YR4/4 である。
- IX 砂礫層。

基本土層 (I C 9 i)

- 1 10YR4/1 灰褐色土 現耕作土。
- 2 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり 1 ~ 2 mm の中揮浮石粒 1 % 未満含む。IV層に相当
- 3 10YR2/1 黒色土 粘性ややあり しまりあり 1 ~ 2 mm の中揮浮石粒 3 % 未満含む。V層に相当
- 4 10YR2/2 黒褐色土 粘性ややあり しまりあり 1 ~ 2 mm の中揮浮石粒 5 % 未満含む。3層が 10%
混合。VI層に相当
- 5 10YR4/4 褐色砂 粘性なし しまりあり 1 ~ 2 mm の中揮浮石粒 20 ~ 25% 含む。VI層に相当
- 6 10YR2/1 黒色土 粘性あり しまりあり VII層に相当
- 7 10YR4/2 灰黄褐色土 粘性あり しまりあり VIII層に相当

基本土層 (II B 19 f)

- 1 10YR3/2 黒褐色土 粘性なし しまりあり 十和田 b 降下火山灰 (ϕ 1 ~ 2 mm) 3 %、中揮浮
石粒 (ϕ 1 mm) 1 %、炭化物粒 (ϕ 1 mm) 1 %混入 (※旧耕作土) I層に相当
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性なし しまりややあり 十和田 b 降下火山灰 (ϕ 1 mm) 2 %混入 II層
に相当 To-a 15% ブロックで混入
- 3 10YR2/1 黒色土 粘性なし しまりややあり 十和田 b 降下火山灰 (ϕ 1 ~ 3 mm) 7 %混入 (※
土器含む) III層に相当
- 4 10YR3/1~3/2 黒褐色砂質土 粘性なし しまりややあり 酸化鉄 10%混入 IV層に相当
- 5 10YR3/2 黒褐色砂質土 粘性ややあり しまりややあり 酸化鉄 7 %、中揮浮石粒 5 % (下部
に多い) 混入 V層に相当
- 6 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 粘性ややあり しまりややあり 酸化鉄 3 %、中揮浮石粒 10%混入
VI層に相当
- 7 10YR4/1 褐灰色粘土 粘性あり しまりあり 酸化鉄 5 %混入 VII層に相当



第4図 基本土層

4 遺跡周辺の歴史的環境

(1) 軽米町の遺跡

軽米町の遺跡は、平成19年12月31日現在、岩手県教育委員会が作成した『岩手県遺跡情報検索システム（二戸・久慈地方振興局管内）』によれば、520箇所が登録されている。時代別の内訳をみると112遺跡は時代が複合しているため重複するが、縄文時代410、弥生時代24、古墳時代1、奈良・平安時代116、中世33、近世48で旧石器時代の遺跡は確認されていない。縄文時代の遺跡が全体の約78%で最も多く、次いで古代が28%であるが、古代の遺跡は、縄文時代の遺跡と複合するものが90遺跡と圧倒的に多い。中世・近世の遺跡はそれぞれ全体の1割に満たないが、中世はいずれも城館跡、近世は観音林の一里塚以外はすべて製鉄関連遺跡である。遺跡の分布傾向としては縄文時代～古代が瀬月内川・雪谷川とその支流一帯に多く、特に瀬月内川西側の段丘に集中する傾向がある。近世の製鉄関連遺跡は、軽米町東方の山間部に集中する。

(2) 周辺の遺跡

軽米町の遺跡は、前述のように520箇所が登録されているが、このうち駒板3遺跡が所在する山内地区には85箇所の遺跡が周知されている。時代別の遺跡数は縄文時代が77(複合遺跡を含む)で最も多く、約93%を占める。古代は5であるが複合遺跡を含めると26あり遺跡数の28%を占める。他は弥生時代2、中世3、近世1となっている。遺跡の立地状況をみると、折爪岳の東山麓の丘陵地や段丘面に多く、瀬月内川左岸に偏って分布する傾向を示し、隣接する九戸村江刺家にある遺跡でも同様であるが、これは開発による遺跡の分布調査が瀬月内川左岸に多いことも影響していると考えられる。

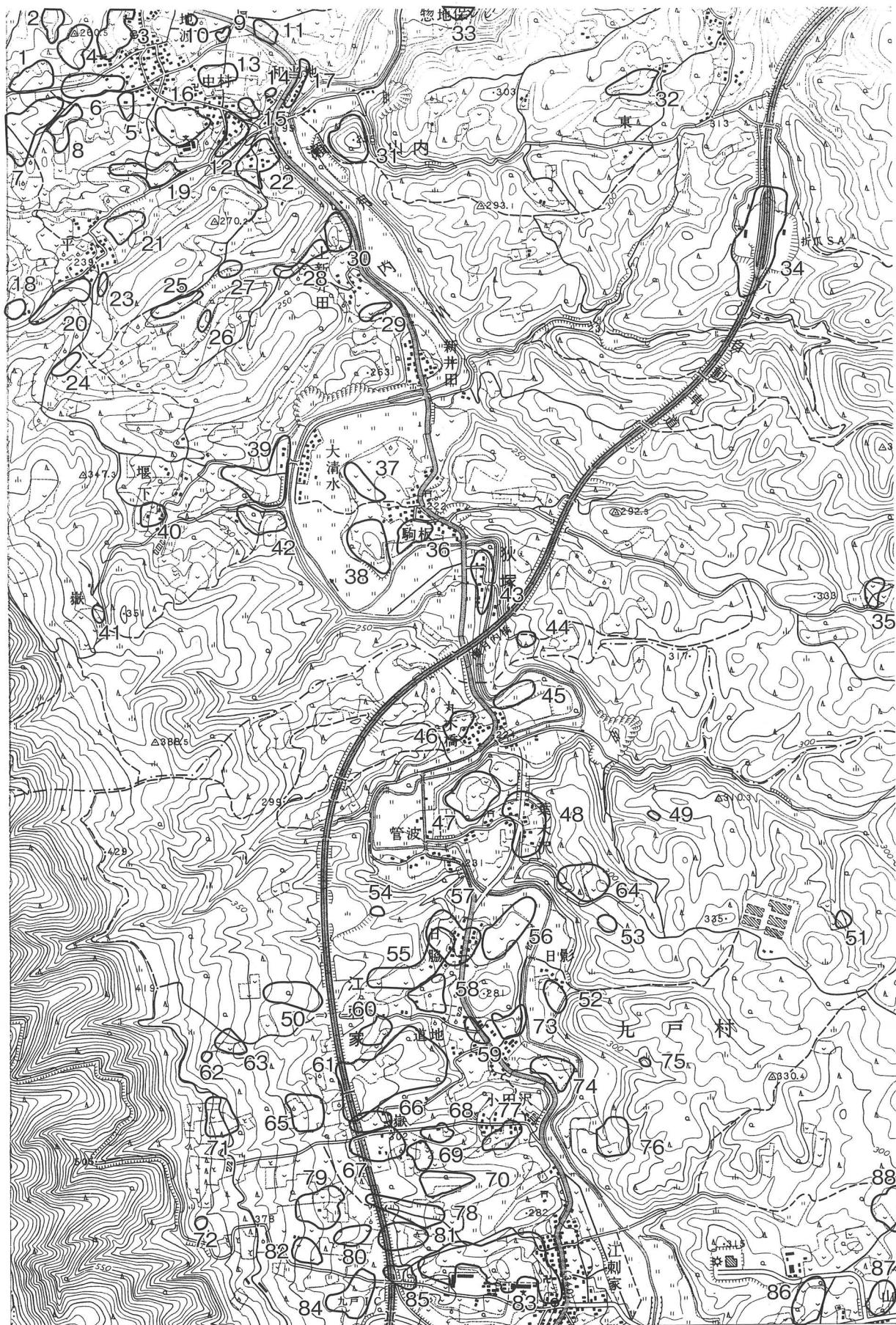
過去に周辺で調査された遺跡としては、昭和57・58年に東北縦貫自動車道八戸線建設に関連して行われた駒板遺跡があげられる。駒板遺跡は今回調査を行った駒板3遺跡から北東方向約2kmの丘陵地上に立地する遺跡であり、縄文時代の住居跡や陥し穴状遺構、奈良時代の住居跡、近世の密銭鑄造跡や炭窯などがみつかっている。また、平成7年には県北農業研究センターの建設に関連して和当地I遺跡の調査が行われ、縄文時代の住居跡や陥し穴状遺構、弥生時代の住居跡等が見つかっている。

また、隣接する九戸村でも開発に伴い、多くの調査が実施されており、昭和56・57年には東北縦貫自動車道八戸線建設に関連して道地II・道地III・嶽I・嶽II・江刺家IV・江刺家V・滝谷IIIなどの各遺跡が調査されている。昭和63年～平成3年には国道340号の改良工事に関連して丸木橋遺跡・管波I遺跡・葉ノ木沢遺跡が調査されている。平成2～4年には農免農道整備事業に関連して田代IV・田代VI遺跡の調査が実施され、田代IV遺跡では縄文時代中期の配石遺構・陥し穴状遺構、田代VI遺跡では縄文時代中期の住居跡が検出されている。

第1表 周辺の遺跡一覧表

NO	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物
1	大久保頭	おおくぼがしら	散布地	縄文、古代	縄文土器（晩期）、土師器
2	大久保頭3	おおくぼがしら3	散布地	縄文	縄文土器
3	谷地渡1	やちわたり1	集落跡	縄文	縄文土器
4	谷地渡2	やちわたり2	散布地	縄文	縄文土器
5	谷地渡5	やちわたり5	散布地	縄文	縄文土器
6	上平1	かみたい1	散布地	縄文、古代	縄文土器（後期・晩期）、土師器
7	上平2	かみたい2	集落跡	縄文、古代	縄文土器（後期・晩期）、土師器
8	上平5	かみたい5	散布地	縄文	縄文土器
9	大久保尻	おおくぼじり	散布地	縄文	縄文土器（後期・晩期）
10	大久保尻2	おおくぼじり2	散布地	縄文	縄文土器
11	和当地I	わどうちI	集落跡	縄文～古代	縄文土器ほか
12	和当地3	わどうち3	集落跡	縄文	縄文土器
13	円館	えんだて	城館跡	中世	平場

NO	遺跡名	よみがな	種別	時代	遺構・遺物
14	山内中村1	さんないなかむら1	散布地	縄文、古代	縄文土器（後期・晚期）、土師器
15	山内中村2	さんないなかむら2	散布地	縄文、古代	縄文土器（後期）、土師器
16	山内中村3	さんないなかむら3	散布地	縄文	縄文土器
17	権現林	ごんげんばやし	散布地	縄文、古代	縄文土器（前期）、土師器
18	平2	たいら2	散布地	縄文	縄文土器（後期・晚期）
19	平3	たいら3	散布地	縄文	縄文土器（後期・晚期）
20	平沢1	たいらざわ1	散布地	縄文	縄文土器（中期・後記）
21	平沢2	たいらざわ2	集落跡	縄文	縄文土器（後期・晚期）
22	小屋沢1	こやざわ1	散布地	縄文	縄文土器（前期・中期）
23	小屋沢2	こやざわ2	散布地	縄文	縄文土器（後期・晚期）
24	小屋沢3	こやざわ3	散布地	縄文	縄文土器（後期・晚期）
25	小屋沢4	こやざわ4	集落跡	縄文	縄文土器（前期・後期・晚期）
26	小屋沢5	こやざわ5	散布地	縄文	縄文土器（前期・後期・晚期）
27	小屋沢6	こやざわ6	散布地	縄文	縄文土器
28	上新井田	かみにいだ	散布地	縄文	縄文土器（前期・後期・晚期）
29	下新井田	しもにいだ	散布地	縄文	縄文土器（後期・晚期）
30	和井田館	わいだたて	城館跡	中世	堀、平場
31	古山	こやま	城館跡	中世	堀、単郭
32	和堂地向1	わどうちむかい1	集落跡	縄文、古代	縄文土器（後期・晚期）、土師器
33	和堂地向3	わどうちむかい3	散布地	縄文、古代	縄文土器（後期・晚期）、土師器
34	駒板	こまいた	集落跡、銅錢場跡	縄文～近世	縄文土器ほか
35	駒板2	こまいた2	散布地	縄文	縄文土器（後期）
36	駒板3	こまいた3	集落跡	縄文、古代	縄文後期（竪穴住居跡、土坑、炉）、土器、石器
37	駒板4	こまいた4	散布地	縄文、古代	縄文（後晩期）、土師器
38	まつっこ	まつっこ	散布地	縄文、古代	縄文土器（後期・晚期）、土師器
39	堰ノ下1	せきのした1	集落跡	縄文	縄文土器（前期・後期・晚期）
40	堰ノ下2	せきのした2	散布地	縄文、古代	縄文土器（後期・晚期）、土師器
41	堰ノ下3	せきのした3	散布地	縄文	縄文土器（後期・晚期）
42	堰ノ下4	せきのした4	集落跡	縄文	縄文土器（前期・後期・晚期）
43	上狹塚	かみいづか	集落跡	縄文、古代	縄文土器（後期）、土師器
44	川向	かわむかい	散布地	縄文	縄文土器（後期）
45	丸木橋	まるきばし	散布地	縄文	縄文土器
46	丸木橋II	まるきばしII	散布地	縄文	縄文土器
47	高見館	たかみだて	城館跡	中世	
48	葉ノ木沢	はのきざわ	散布地	縄文、古代	縄文土器、土師器
49	葉ノ木沢II	はのきざわII	製鉄関連	不明	坩堝、鉄滓
50	葉ノ木沢III	はのきざわIII	散布地	縄文、奈良、平安	縄文土器、土師器
51	葉ノ木沢IV	はのきざわIV	製鉄関連	不明	坩堝、鉄滓
52	日影	ひかけ	散布地	縄文	縄文土器
53	日影II	ひかけII	製鉄関連	不明	坩堝、鉄滓
54	日ノ脇I	ひのわきI	製鉄関連	不明	坩堝、鉄滓
55	日ノ脇II	ひのわきII	散布地	縄文、奈良、平安	縄文土器、土師器
56	日の脇III	ひのわきIII	散布地	縄文、奈良、平安	縄文土器、土師器
57	管波I	くだなみI	集落地	縄文	縄文土器（晚期）
58	管波II	くだなみII	集落地	縄文、平安	縄文土器（晚期）、土師器
59	道地I	どうちI	散布地	縄文	石棒、石斧、石匙
60	道地II	どうちII	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
61	道地III	どうちIII	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
62	道地IV	どうちIV	製鉄関連	不明	坩堝、鉄滓
63	道地V	どうちV	散布地	縄文	縄文土器
64	道地VI	どうちVI	散布地	縄文	縄文土器
65	道地VII	どうちVII	散布地	縄文	縄文土器
66	嶽I	だけI	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
67	嶽II	だけII	散布地	縄文	縄文土器
68	嶽III	だけIII	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
69	嶽IV	だけIV	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
70	嶽V	だけV	集落跡	縄文	縄文土器（後・晚期）
71	嶽V	だけV	散布地	縄文	縄文土器
72	嶽VI	だけVI	製鉄関連	不明	坩堝
73	築場I		散布地	縄文、奈良、平安	縄文土器、土師器
74	築場II		散布地	縄文、奈良、平安	縄文土器、土師器
75	高見館I		製鉄関連	不明	坩堝、鉄滓
76	高見館II		散布地	縄文	縄文土器
77	小田沢		散布地	縄文	縄文土器
78	江刺家I	えさしかI	集落跡	縄文、古代	縄文土器（晚期）、土師器
79	江刺家II	えさしかII	集落跡	縄文	縄文土器（後・晚期）
80	江刺家III	えさしかIII	集落跡	縄文	縄文土器（中・晚期）
81	江刺家IV	えさしかIV	集落跡	縄文	縄文土器（中・後・晚期）
82	江刺家V	えさしかV	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
83	江刺家館	えさしかだて	城館跡	中世	堀、土壘、平場
84	若宮I	わかみやI	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
85	若宮II	わかみやII	集落跡	縄文	縄文土器（晚期）
86	山屋I	やまやI	散布地	古代	土師器
87	山屋II	やまやII	散布地	古代	土師器
88	山屋IV	やまやIV	散布地	縄文	縄文土器



第5図 周辺の遺跡分布図

III 調査の経過と方法

1 野外調査の経緯

(1) 作業経過

今回の調査は中山間整備事業に伴う排水路、パイプライン、揚水機場の設置とこれに伴う工事用（未舗装）道路の建設のため、調査の対象となる水田・畑・農道を対象に調査を行った。揚水機場用地の調査については当初の調査予定にはなかったが、境界である調査区西端部で縄文時代の遺物と古代の溝跡が検出されたため、岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室と岩手県教育委員会の協議を経て、追加となったものである。

9月1日 調査開始。現場設営・環境整備。

9月8日 基準点設置。

9月8日 未舗装道路の一部（本・確認調査区分）の調査を行った。

9月26日 未舗装道路の残り部分（確認調査区分）の調査をトレーニングにて行った。

10月14日 調査区北部の水田部分の調査を開始した。

10月20日 追加調査区分の調査に着手した。

10月23日 航空写真撮影を実施した。

10月29日 現地公開を実施した。参加者22名。

11月11日 調査終了確認。

11月14日 野外調査終了（埋め戻し含む）。一部資材搬出。

11月17日～11月18日 プレハブ用地内にて遺物水洗を行った。資材搬出完了（11/18）。

（＊終了確認はいずれも委託者・岩手県教育委員会・埋文センターの3者による）

2 野外調査の方法

(1) グリッドの設定

平面直角座標第X系のX = 31,900.000、Y = 48,360.000を原点として100 × 100 mの大グリッドを設定し、これを25等分し、4 × 4 mの小グリッドとしている。大グリッドの呼称は原点を起点に南方向へI～Ⅲ、東方向へA～C、小グリッドの呼称は南方向へ1～25、東方向へa～yとしている。小グリッドの呼称はIA1aとなる。

(2) 基準点の設定

遺構の実測に利用するため調査区内に基準点および補助点を有限会社下斗米測量設計に委託して打設した。各基準点および補助点の成果値と杭高は以下のとおりである。これらはいずれも世界測地系によるものである。

基準点1 X = 31,768.000、Y = 48,524.000、H = 211.593 m

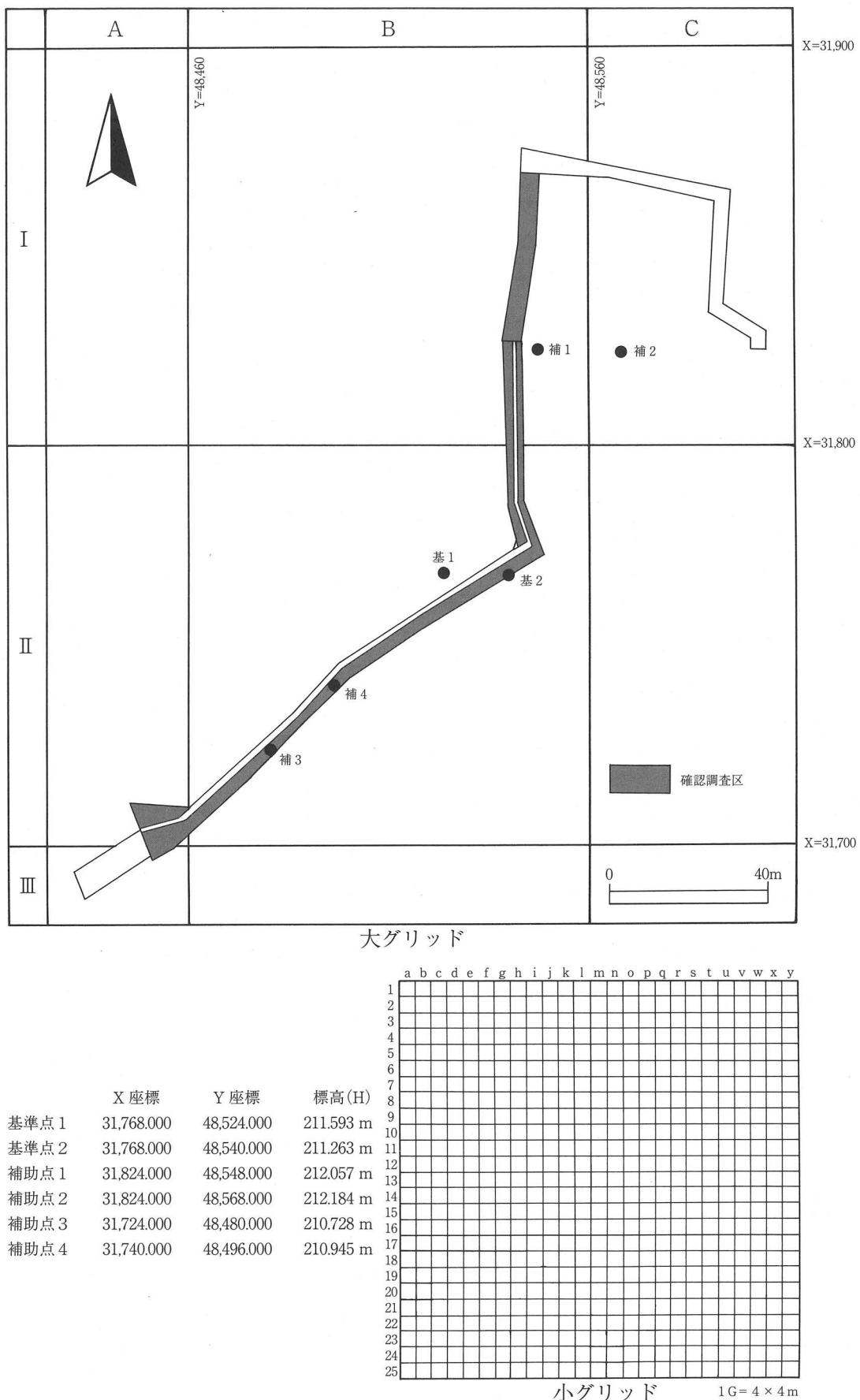
基準点2 X = 31,768.000、Y = 48,540.000、H = 211.263 m

補助点1 X = 31,824.000、Y = 48,548.000、H = 212.057 m

補助点2 X = 31,824.000、Y = 48,568.000、H = 212.184 m

補助点3 X = 31,724.000、Y = 48,480.000、H = 210.728 m

補助点4 X = 31,740.000、Y = 48,496.000、H = 210.945 m



第6図 グリッド配置図

(3) 表土除去と遺構の検出

各遺跡の調査に先立って、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による事前の試掘調査が実施されている。この試掘により調査対象区内の水田・畑・未舗装道路などに過去の造成工事による盛土・耕作土が厚く堆積し、その下に縄文時代の遺構・遺物が包蔵されている層が確認されたため、盛土・耕作土の除去は重機で行い、その後人力による遺構検出を行った。また、古代の面（十和田a降下火山灰）が残存している箇所については一度この面で検出を行い、遺構・遺物の有無を確認した後、さらに重機で下層まで掘り下げ、縄文時代の遺構・遺物の有無を確認した。

(4) 遺構の精査と実測

調査で検出された遺構は、以下の手順で調査を進めた。竪穴住居跡は4分法で土坑は2分法で行い、埋土の堆積状況の確認を行いながら掘り下げた。

(5) 遺物の取り上げ方

遺物の取り上げは遺構内と遺構外に大別し、遺構内出土遺物については遺構名と相対的層位（検出面・上位・中位・下位・底面）を記し、遺構外出土遺物についてはグリッドおよび出土層位を記して取り上げたが、この際、グリッドをまたいで取り上げたものについてはグリッド名を複数記した。また、取り上げに際しては事前に必要に応じて出土地点の座標値の測量および写真撮影を行っている。

(6) 写 真 撮 影

調査記録用に35mmモノクロームとデジタルカメラを使用した。撮影にあたって、整理時の混乱を防ぐため撮影内容を記入した撮影カードを対象遺構撮影前に撮影している。その他、調査期間中にセスナ機による航空写真撮影を実施した。

3 室内整理の手順と方法

(1) 作 業 経 過

各遺跡の室内整理期間は前述の例言のとおりで、整理作業は出土遺物の洗浄と遺物の仕分けは野外調査と平行して現地および室内で行った。また、土器の接合・復元・実測図作成・拓影作成などの作業は室内で行った。整理担当者はこれらの作業の確認・点検と平行して図面合成・原稿執筆・各種観察表の作成等の作業を実施した。

(2) 遺 物

現場で洗浄した遺物の注記作業から開始し、続いて接合・復元を行った。その過程で本書に掲載するものを抽出し、それらの実測図を作成、トレースした。抽出にあたっては遺構内のものについては小破片でもなるべく掲載するようにした。遺構外のものについては出土地点・層位などを考慮して選別した。実測と平行して、これらを撮影し、合わせて登録作業を行った。

(3) 遺 構

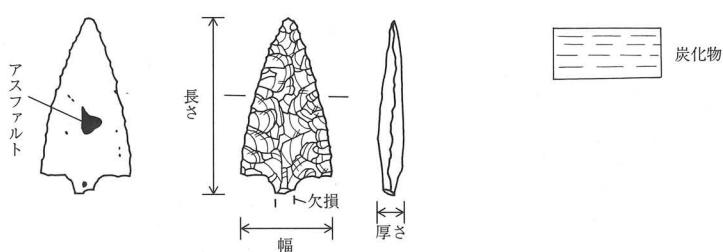
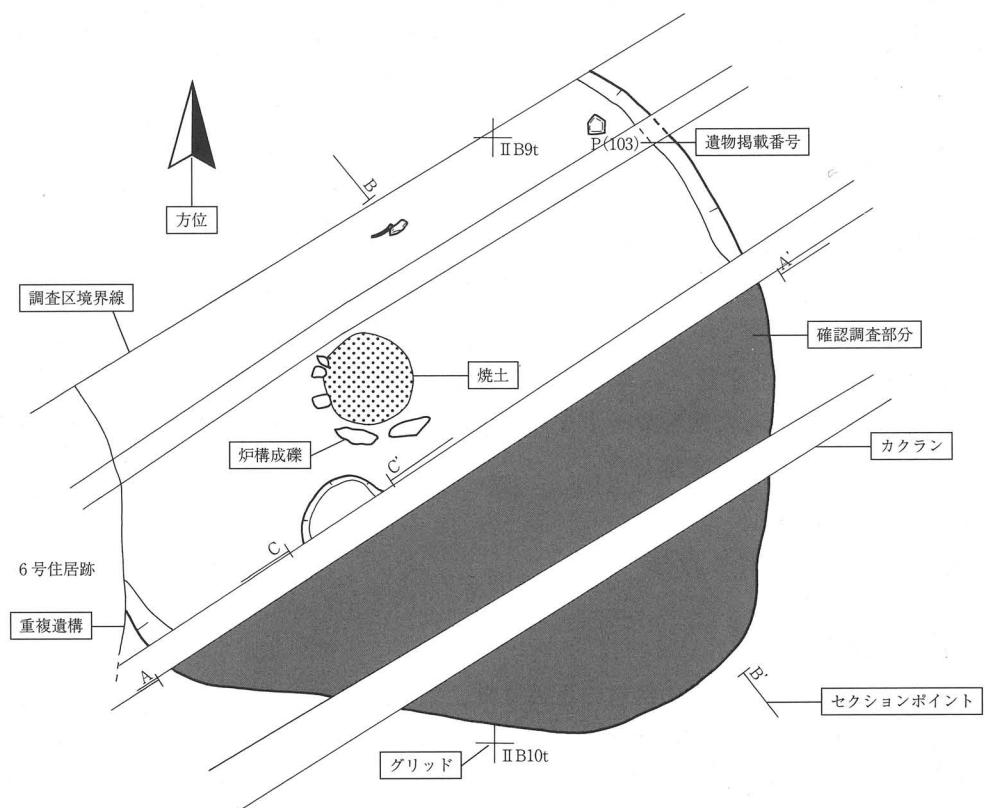
実測図を点検・合成しながら遺構の検討を行った。その後、第2原図を作成し、そのトレースを行った。また、野外調査で撮影した遺構の写真も整理し、台帳登録をしている。その後、掲載するものを抽出し、写真図版とした。

(4) 掲 載 図

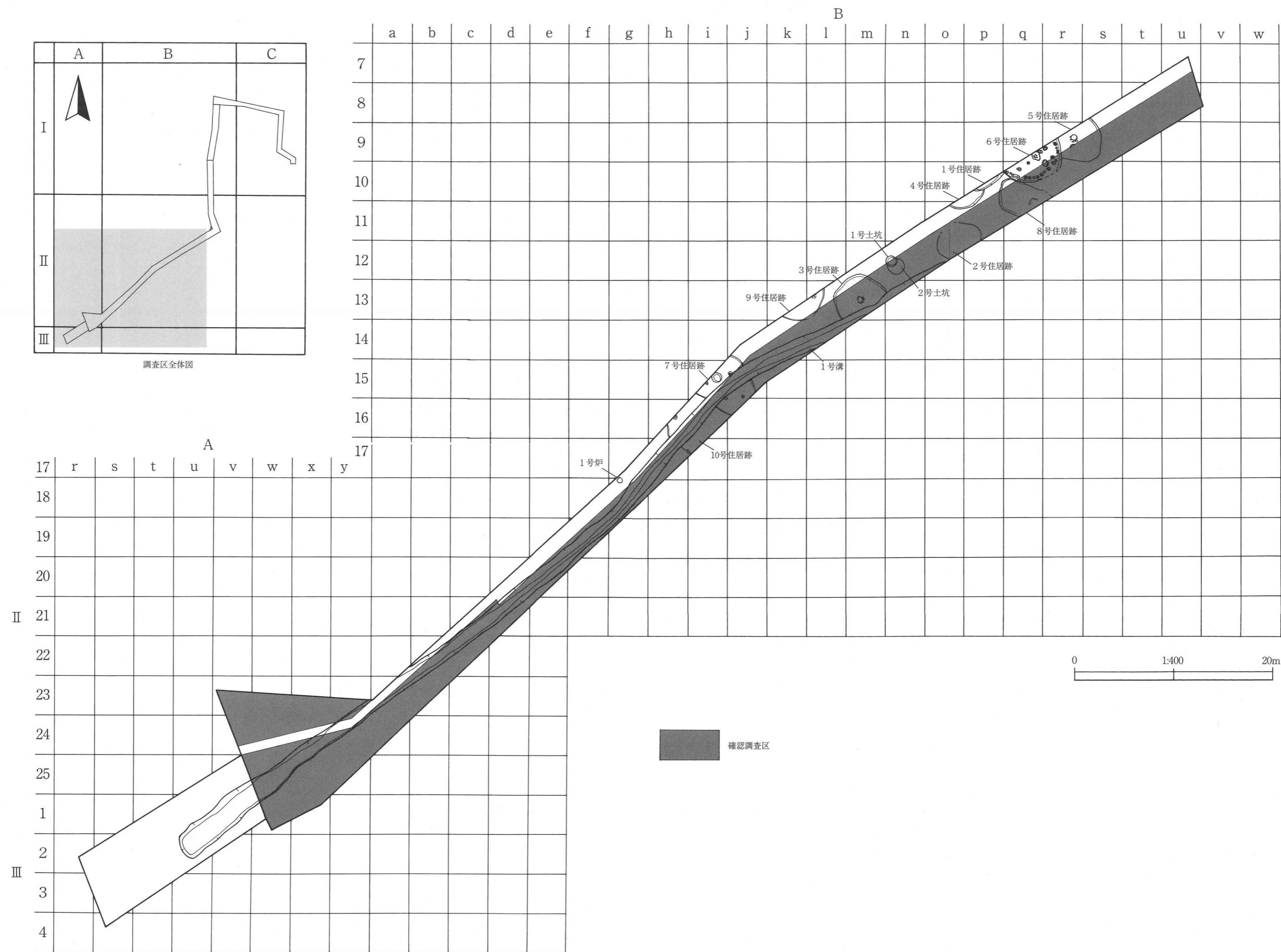
掲載している遺構の縮尺は平面図・断面図ともに竪穴住居跡が1/50、住居内炉が1/25、土坑・焼土が平面図・断面図とともに1/40、溝跡が平面図1/400、断面図1/40とした。また、土器は深鉢形土器の一部が1/4・他が1/3、剥片石器が1/2、礫石器が1/3～1/4を基本とした。ただし、一部異なる

3 室内整理の手順と方法

るものもあるため、各図にスケールおよび縮尺を付した。また、図中において土坑類は「p p」、土器は「p」、石器・礫は「s」と表記し、図中の掲載遺物については遺物番号を付けた。スクリーントーンの使用は凡例図（第7図）のとおりであるが、これ以外の使用については使用箇所に用例を表記した。また、遺構が本調査区と確認調査区を跨ぐものは一部、確認調査部分をスクリーントーンで示した。なお写真図版については掲載図に準ずる縮尺を基本とした。各遺構の計測値表記については、確認できた範囲内での長軸方向×短軸方向の計測値である。



第7図 凡例図



第8図 遺構配置図

IV 検出遺構と出土遺物

1 遺構

今回の調査で検出した遺構は、堅穴住居跡10棟、炉1基、土坑2基、溝跡1条である。時期は、溝跡が古代で他は遺構検出面や出土した遺物から縄文時代後期後葉～末葉である。

1号住居跡

遺構（第9図、写真図版4）

[位置・検出状況] II B 10 p グリッドの本調査区内に位置し、IV層面で検出した。地表から遺構検出面までの深さは約30～40cmである。検出した遺構の大半が調査区外である。

[重複関係] 4・6号住居跡と重複し、これらを切る。

[形状・規模] 遺構の一部の調査のため、形状や全体の規模は不明であるが、調査区内で確認できた遺構の規模は南西～北東間372cm、北西～南東間52cmである。

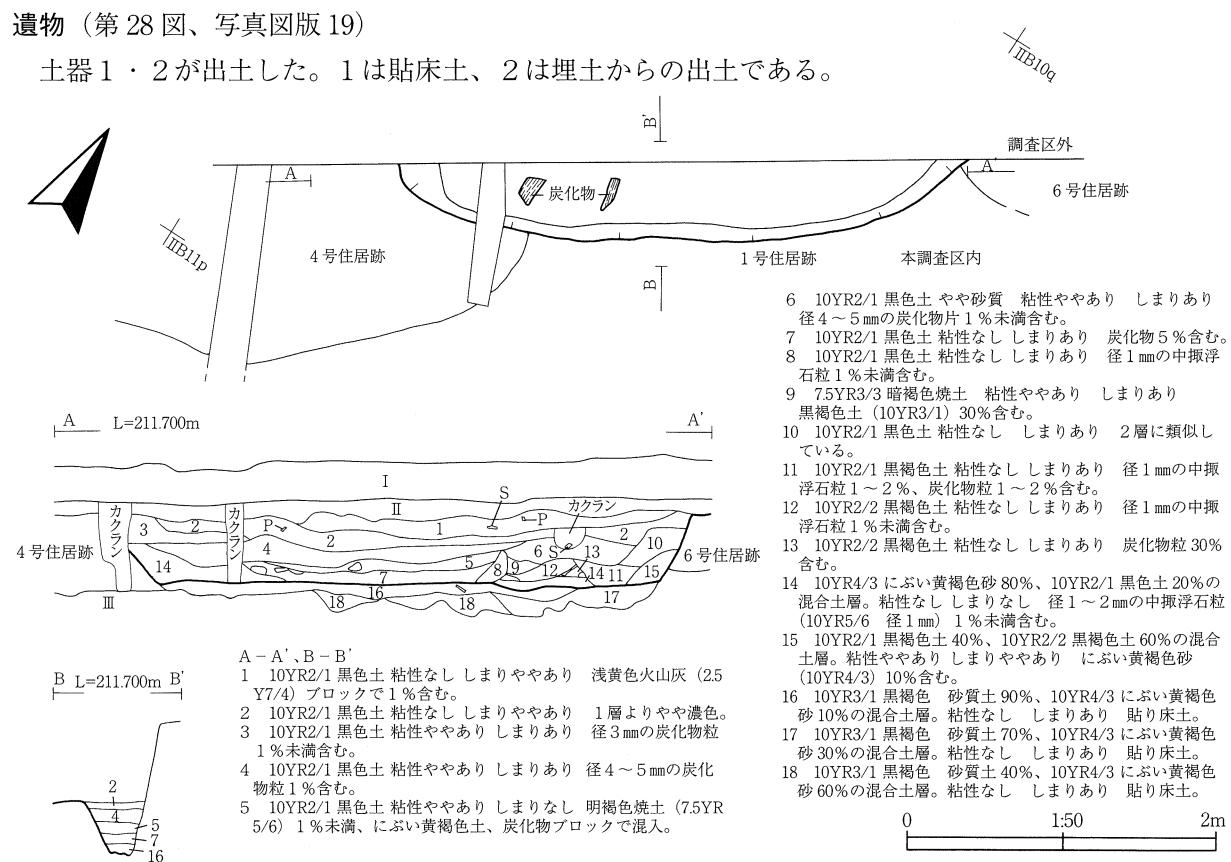
[壁・床面] 壁面はやや内湾気味に立ち上がる。床面は一部を除きほぼ平坦でⅦ層まで掘り下げた後に貼り床が10～24cmの厚さで施されている。検出面から床面までの深さは46～50cmである。

[埋土] 18層に細分した。検出面の1層上位には十和田a降下火山灰がブロックで混入している。9層は暗褐色焼土含む層。また埋土中～下位には炭化物が多量混入し、特に床面に近い5・7・12・13層から多く出土する。14層はⅦ層を主体とする層。16～18層は貼床土。

[炉] 調査した範囲では見つかっていないが、9層に暗褐色焼土層が確認されたので、隣接する調査区外の遺構内に炉が存在する可能性が高い。

遺物（第28図、写真図版19）

土器1・2が出土した。1は貼床土、2は埋土からの出土である。



第9図 1号住居跡

2号住居跡

遺構（第10図、写真図版4・5）

[位置・検出状況] II B 11 o · 11 p · 12 o · 12 p グリッドの確認調査区内に位置し、IV層面で検出した。地表面から遺構検出面までの深さは約30cmである。検出した遺構の一部は調査区外にある。また、遺構壁面の一部が搅乱の影響を受けている。調査方法は遺構が確認調査区であるため、埋土・遺構範囲を確認するために行ったトレンチ調査のみである。

[重複関係] 重複する遺構はない。

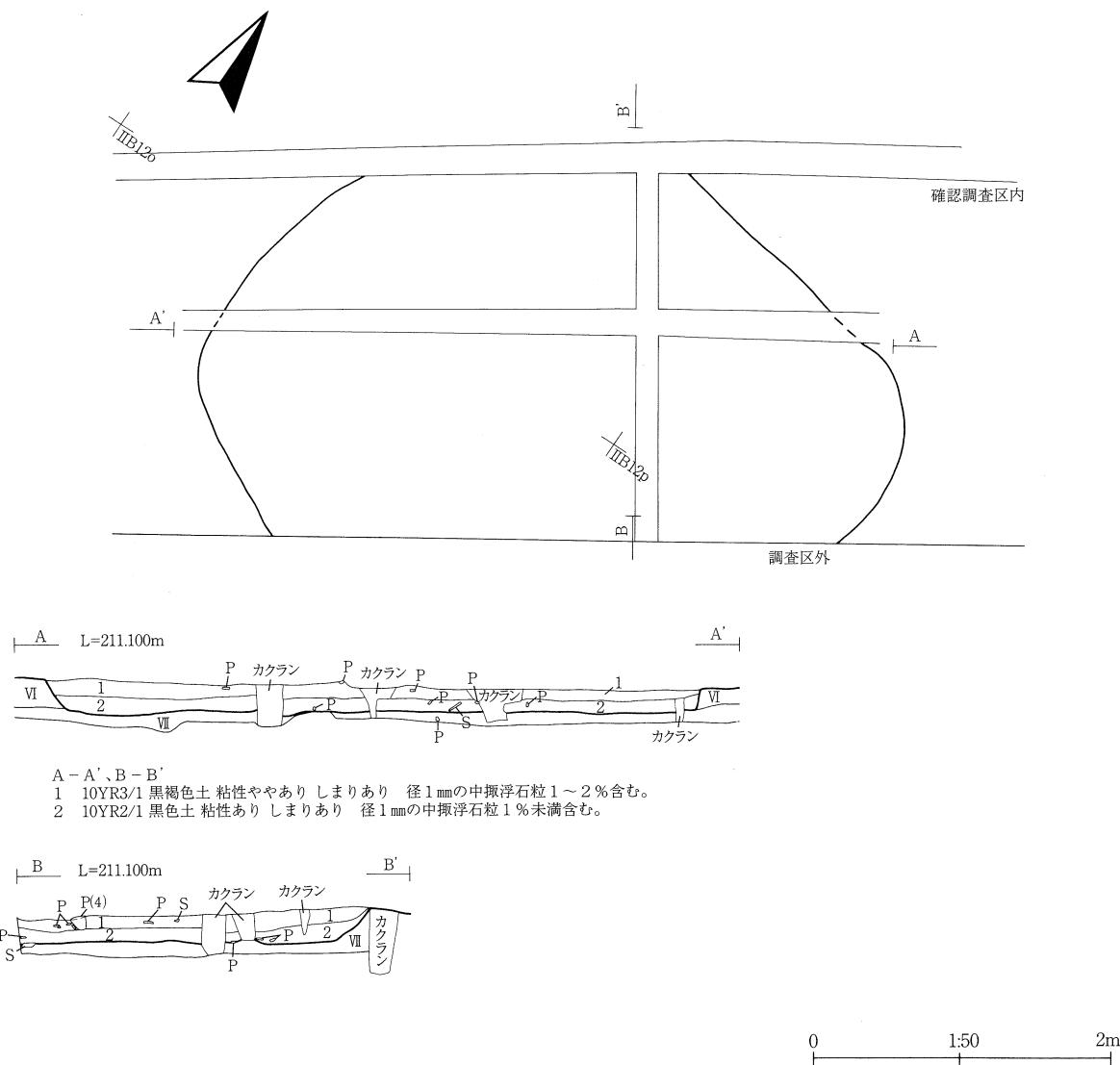
[形状・規模] 遺構の一部の検出であるが、形状は橢円形と推定される。規模は長軸が420cmである。

[埋土] 2層確認した。検出面にあたる埋土1層は基本土層のIV層と類似した色調で遺物を多く含む。下位は黒色土であり、いずれにも中揮浮石粒が微量混入する。床面はVII層であるが、トレンチ調査のため床面の硬化状況は把握できなかった。

[炉] 検出のみの調査で炉の有無は確認していない。

遺物（第28・43・44図、写真図版19・30・31）

検出面および確認トレンチ内から土器3~7、石錐1点（186）、土偶1点（150）が出土している。



第10図 2号住居跡

3号住居跡

遺構（第11・12図、写真図版6）

[調査方法・経過] 調査は当初、本調査区箇所のみ行ったが、検出による遺構の範囲確認が困難であったことから、確認調査区部分も追加して調査を行うこととなった。

[位置・検出状況] II B 12 1・13 1・13 mグリッドに跨って位置し、IV層面で検出された。遺構は本調査区・確認調査区に跨る。また、北側壁面と炉の一部が搅乱を受けている。

[重複関係] 1号溝と重複し、遺構南側がこれに切られる。

[形状・規模] 遺構の一部の検出であるが、形状は円形基調を呈すると推定される。規模は 528 × 324 cm である。

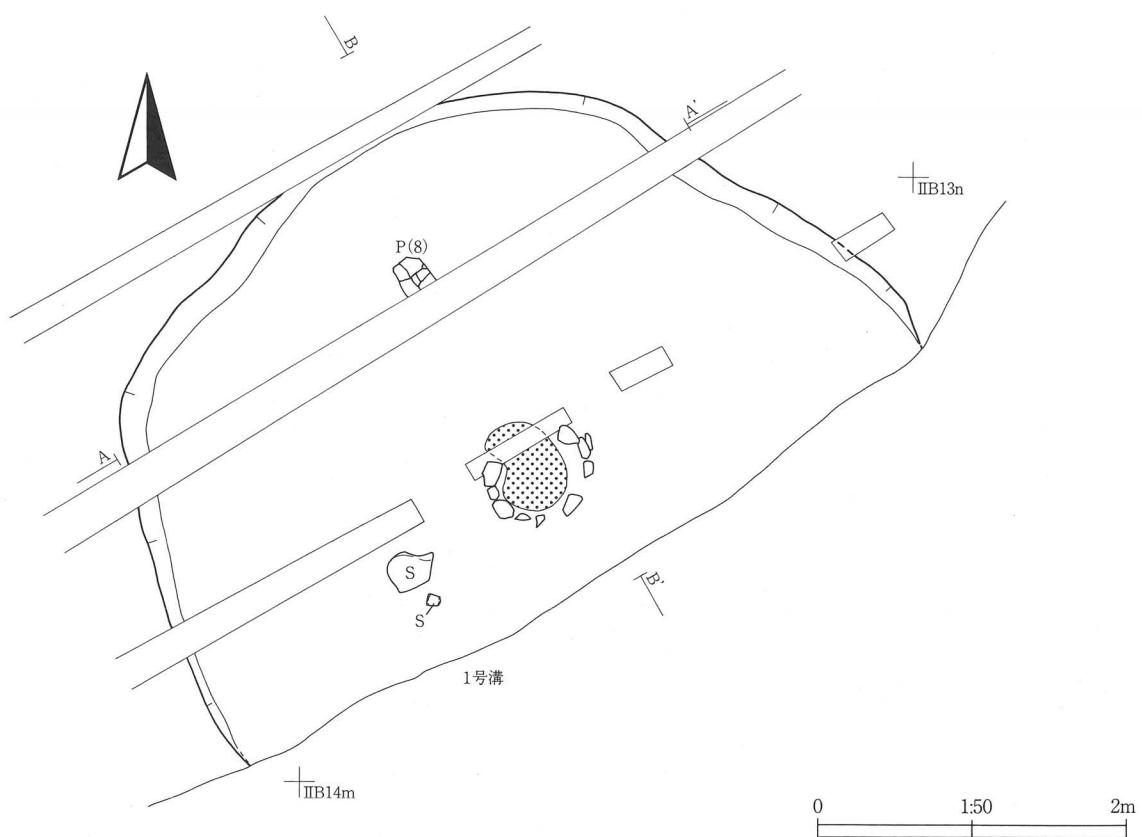
[埋土] 6層確認した。検出面にあたる1層はプランの中央部分に拡がり、基本土層のIV層と区別の付く黒色土であるが、2層はIV層と類似する。埋土中～下位の3～6層は黒褐色土を主体とする色調で、4層には中摺浮石粒が微量混入する。

[壁・床面] 壁面はやや外傾～内湾気味に立ち上がる。床面は一部を除きほぼ平坦でVI層を床面としている。

[炉] 炉は10 cm前後の自然礫を並べた石囲炉で北側の石を欠く。焼土範囲は約 63 × 46 cm。焼土層は約 5 cm である。

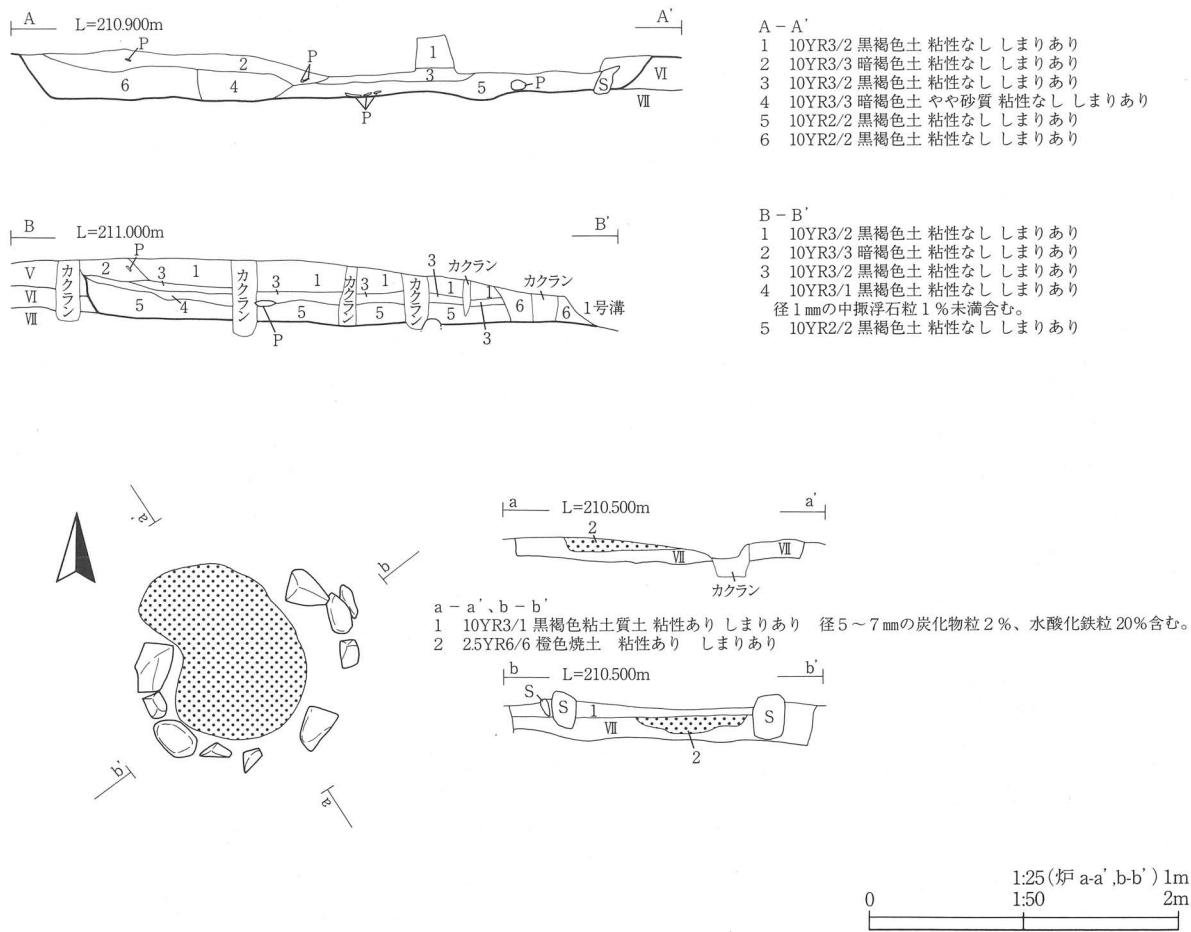
遺物（第28・29・42・43・47図、写真図版19・20・30・31・33）

土器は8～17が出土した。8～11は床面、他は埋土からの出土である。石器は石鏃1点(168)、石皿3点(218～220)で168と220は床面、218・219は炉の構成礫である。他に土製耳飾りが1点(152)出土している。



第11図 3号住居跡（1）

1 遺構



第 12 図 3 号住居跡 (2)

4号住居跡

遺構 (第 13 図、写真図版 7)

[位置・検出状況] II B 10 o · 10 p · 11 o · 11 p グリッドに跨る本調査区の第IV層で検出された。遺構の北側は調査区外へ延びる。検出した遺構の 1/3 ~ 1/4 は畑耕作時の搅乱の影響を受けている。

[重複関係] 遺構の北東側にある 1 号住居跡と重複し、これに切られる。

[形状・規模] 遺構の一部のみの調査であるが、形状は円形および橢円形と推定される。調査した範囲内での遺構規模は北西 - 南東間 130 cm、北東 - 南西間 384 cm である。

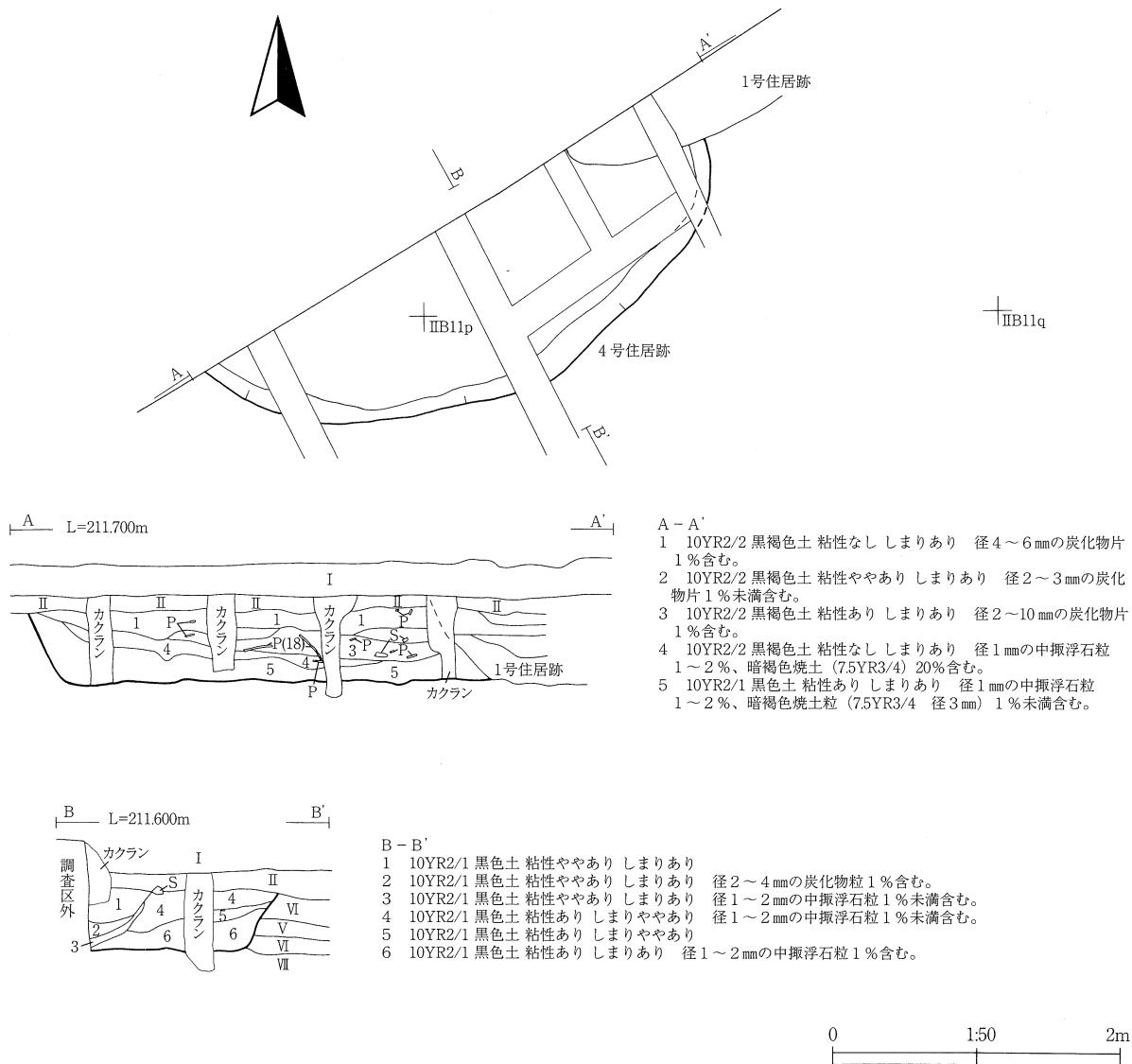
[埋土] 6 層確認した。埋土は黒～黒褐色土を主体とした堆積であるが、3・4 層に土器片が多く混入する。また 4 層には暗褐色焼土が多く混入し、炭化物粒も多く含まれる。埋土 5・6 層には中振浮石粒が微量含まれるが、遺物は少ない。

[床面] VII 層を床面とし、硬化面はない。床面に小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

[炉] 調査した範囲内に炉はない。

遺物 (第 29・30 図、写真図版 20)

土器は 18 ~ 24 が出土した。18 は埋土 3 層、他は埋土上位～中位で、床面からの出土はない。



第13図 4号住居跡

5号住居跡

遺構（第14・15図、写真図版8・9）

[調査方法・経過] 本調査区・確認調査区に跨った遺構であるため、本調査区箇所は床面下まで調査を行ったが、南東側の確認調査区箇所については埋土の状況と遺構範囲を確認するために最小幅のトレンチを掘り断面を確認したのみである。

[位置・検出状況] II B 9 r・9 s グリッドに跨り、IV層～V層面で検出された。本調査区と確認調査区に跨る。遺構壁面を含む一部が畑耕作時の搅乱の影響を受けている。

[重複関係] 遺構の南西端が6号住居跡と重複し、これに切られる。

[形状・規模] 遺構の一部の検出であるため形状は不明であるが、円形または橢円形の形状と考えられる。調査した範囲での計測規模は 462 × 382 cmである。

[埋土] 2層確認した。埋土は黒色土が主体で中～下位には明黄褐色土が混入している。また、炉周

1 遺構

辺の埋土には炭化材・炭化種実が含まれている。

[床面] VII層を床面とし、暗褐色土が少量混入している。床面はほぼ平坦で硬化面はない。

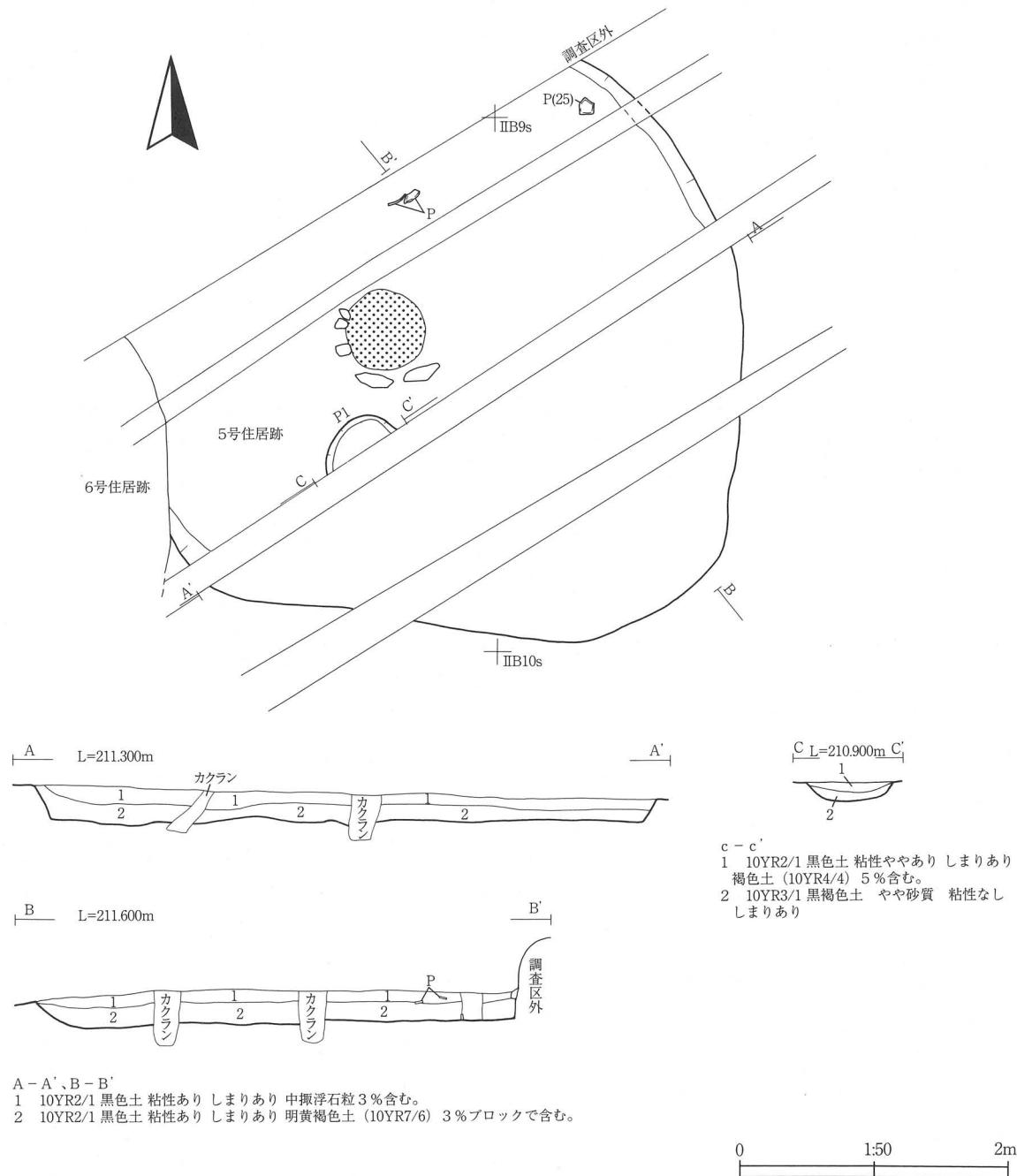
[炉] 遺構中央～やや西側で検出した。炉は長さ約30cmの細長い礫2個と10cm前後の礫3個で構成される。焼土は約60×60cmの範囲で炉の内面に広がる。焼土の厚さは約8cmである。

[土坑] 床面より1基検出した。遺構の一部は搅乱の影響でなくなっているため、規模は不明である。

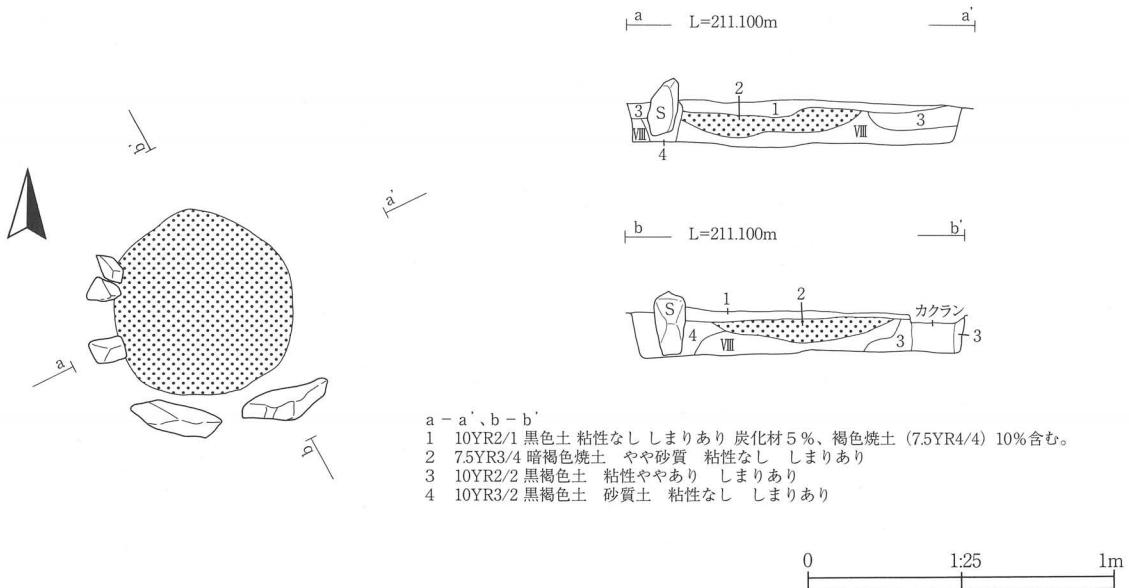
深さは14cmで、埋土から深鉢の口縁部破片(27)が出土している。

遺物(第30・31・44図、写真図版20・21・32)

出土した土器は25～36で、25・26は床面、27は土坑(PP1)の埋土、他は住居埋土からの出土である。石器は床面より石匙(201)が1点出土した。他に炉付近から炭化したクリ2点、オニグルミ1点が出土した。



第14図 5号住居跡 (1)



第15図 5号住居跡（2）

6号住居跡

遺構（第16・17図、写真図版10・11）

[調査方法・経過] 本調査区・確認調査区に跨った遺構であり、当初は本調査区側のみを掘り下げたが、掘り下げ後まもなく、埋土中から大きさ約20～50cmの礫が多数出土したため、配石遺構や住居に付属する何らかの施設に関連するものである可能性が高いと考えられた。これらを含めた遺構全体の性格をより詳細に把握するには確認調査区側の範囲も併せて調査をする必要があるとの認識から県教委の確認を経て遺構の全てを精査することとなった。

[位置・検出状況] II B 9 r・10 r グリッドに跨り、IV層面で検出された。本調査区と確認調査区に跨り、遺構の北側は調査区外へ延びる。検出した遺構の南壁を含む遺構の一部が畑耕作時の搅乱の影響を受けている。

[重複関係] 1・5号住居跡と重複する。1号住居跡より古く、5号住居跡より新しい。

[形状・規模] 遺構の一部の調査であるが、調査した範囲から形状は円形を呈すると推測される。規模は南西-北東間625cm、南東壁から北西の調査区内まで254cmを測る。

[埋土] 自然堆積を呈し、埋土は11層に細分される。埋土上位は黒色土で十和田b火山灰が混入する。埋土中～下位は西側が黒色土、東側が黒褐色土を主体とする層が堆積している。

[床面] 基本層序のVII層を床面とする。床面には凹凸があり、凹みからは土器片が出土している。

[用途不明遺構] 北壁よりの床面で検出した（PP1）。長さ約10cm前後の礫を円形に配置した遺構で石を含む外径は約40×38cmである。石組み部分の内径は約15cmほどで、全体の形状は石囲炉に類似するが、これらを含む約88×82cmの範囲が土坑状を呈する窪みになっている。土坑断面（a-a'）は住居床面から石組み方向に向かって緩やかに下がり、石組みの直下でさらに一段下がる。炭化物や焼土粒などは混入していない。（柱穴の断面に類似？）

[土坑] 1基検出した（PP2）。規模は64×56cmで深さは38cm、底面は凸凹である。

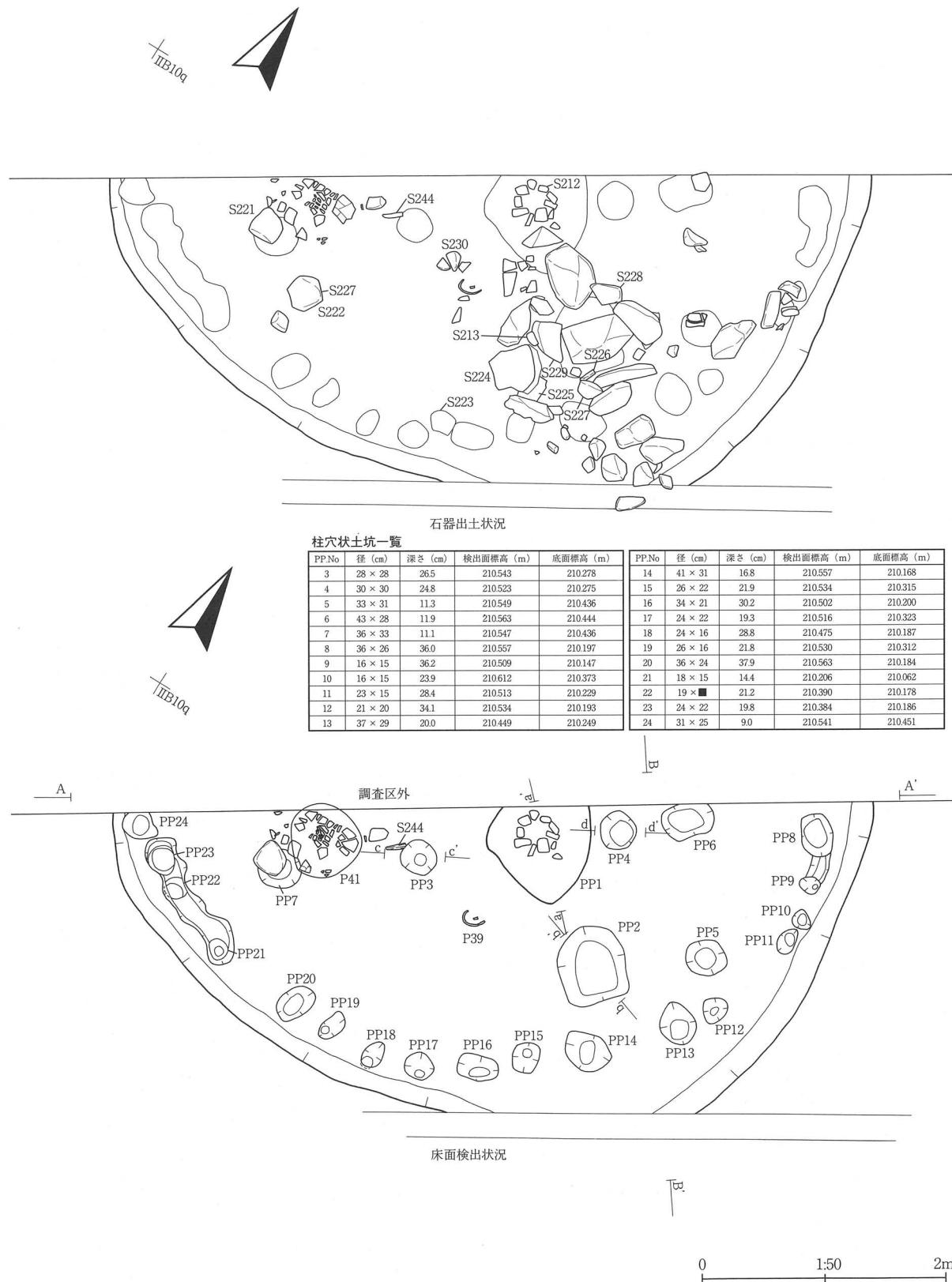
[柱穴] 22個検出し、うち17個は壁面沿いにある。規模等については計測表に記した。

遺物（第31・32・42・43・45・46～49・51図、写真図版21・22・30～35・37）

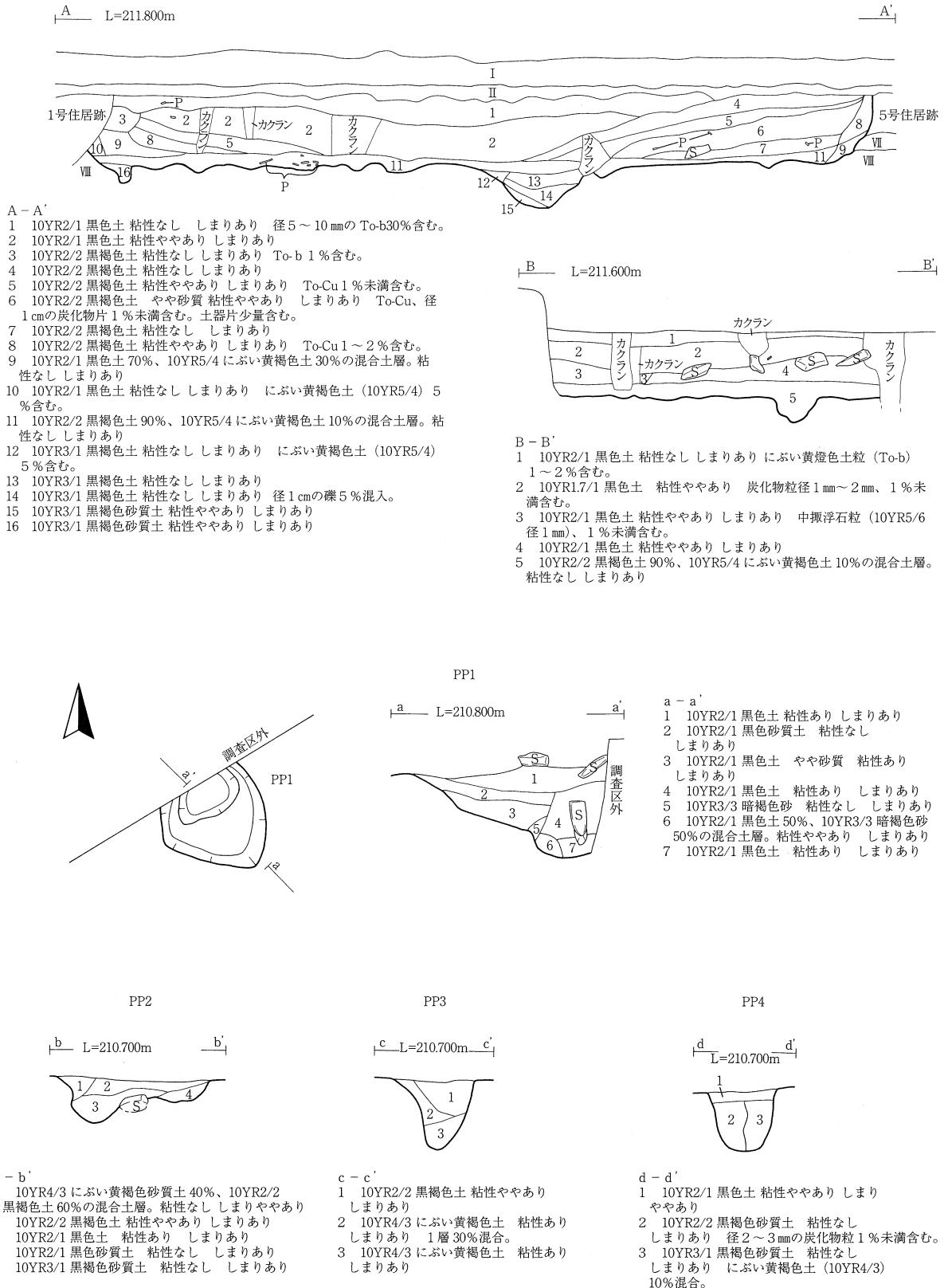
出土遺物は土器37～44、土製品は6点（153～158）でいずれも耳飾りの一部破片、石器は石鏃（169

1 遺構

～171)、石皿類(221～231)、石錐(181・187・188)、磨石類(207・212・213)、石製品は石棒1点(244)である。このうち37～41・153～155・169が床面、212はP1上面の構成礫である。また、石皿221～231はすべて埋土からの出土であり、住居廃絶後に廃棄されたものと考えられる。



第16図 6号住居跡 (1)



1:25(a-a')
1:50
0 1m 2m

第17図 6号住居跡 (2)

7号住居跡

遺構（第18・19図、写真図版12）

[調査経過] 本調査区・確認調査区に跨った遺構である。本調査区内の精査では遺構の一部を除き、検出面が不明であったことと、埋土と床面の区別がつかなかったことから南東側の確認調査区部分も追加して調査を行った。

[位置・検出状況] II B 14 i · 15 i · 15 j · 16 i · 16 j グリッドに跨り、IV層面で検出された。本調査区と確認調査区に跨り、遺構の南北端はそれぞれ調査区外へと延びる。検出した遺構の埋土と床面の一部が畑耕作時の搅乱の影響を受けている。

[重複関係] 10号住居跡と重複し、これを切る。また、遺構の中央部分が1号溝に切られる。

[形状・規模] 調査した部分から形状は楕円形を呈すると推測される。規模は南西－北東間 534 cm、南東壁から北西の調査区境までは 438 cm である。

[埋土] 床面までの堆積は自然堆積を呈し、3層に細分される。埋土上位は暗褐色土、中～下位は黒褐色土を主体とし、炭化物粒・中振浮石粒が2～3%混入している。

[床面] 床面はVI層が湿地状の地形により酸化し、硬化・変色したもので、炭化物粒・中振浮石粒を含む黒褐色土でほぼ平坦である。

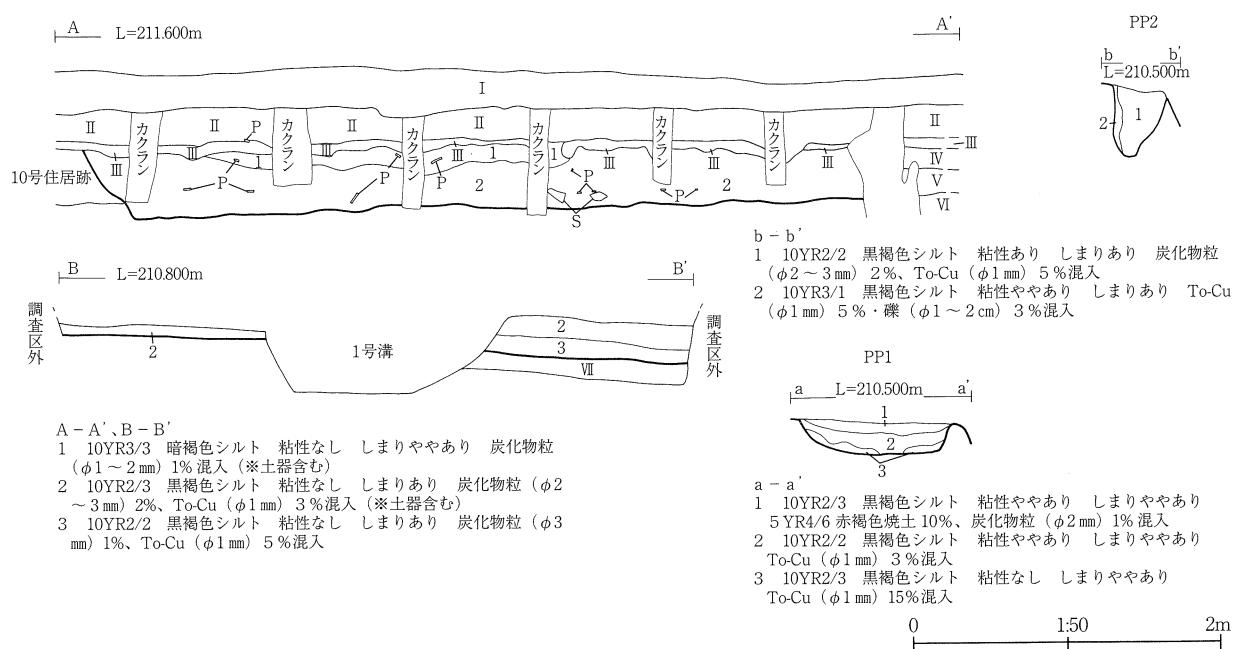
[土坑] 床面で1基検出した。形状は円形で、規模は径 102 cm、深さ 20 cm である。1号溝に近い部分の埋土には赤褐色焼土・炭化物粒が混入する。

[柱穴] 床面で3個（PP2～PP4）検出した。規模等については計測表に記した。

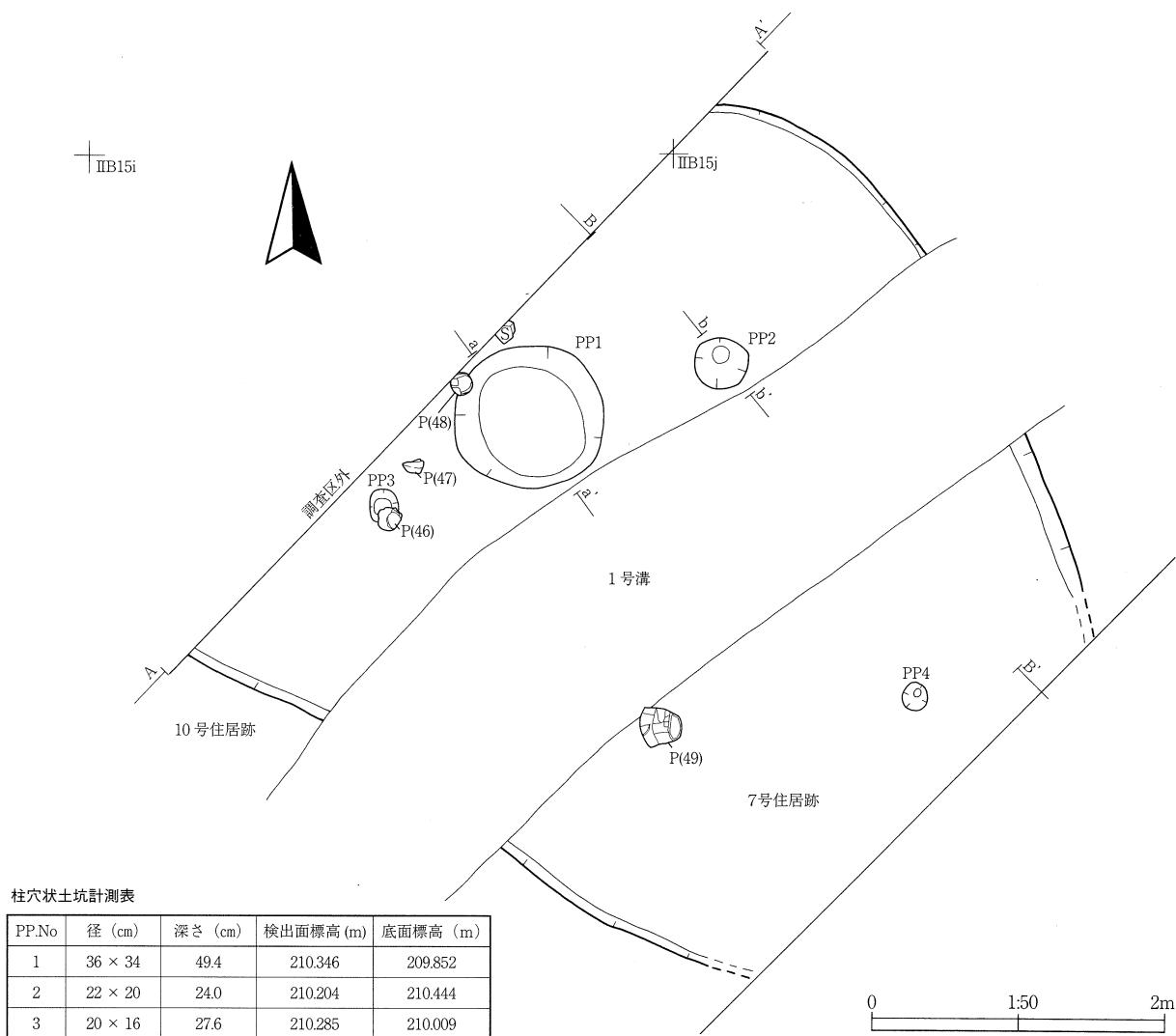
[時期] 出土した土器の特徴から縄文時代後期後葉に属する。

遺物（第32・33図、写真図版22・23）

土器 45～57 が出土した。45～50 は床面、他は埋土から出土した。



第18図 7号住居跡（1）



第19図 7号住居跡（2）

8号住居跡

遺構（第20・21図、写真図版13・14）

[調査経過] 本遺構の調査は当初、本調査区箇所を全掘調査し、確認調査区箇所については範囲確認のみで埋め戻し作業を重機で行う際に破損する可能性のある表面に露出している遺物については取り上げを行うこととした。しかし取り上げに際しては大形の破片が多いことや接合可能な破片が多く、深く掘り下げないとそれらを取り上げることが困難であったため、県教委の確認を経て、遺物の取り上げを目的に床面まで掘り下げるうこととなった。よってその課程で検出した炉は検出段階までで、精査は行っていない。

[位置・検出状況] IIB 10 p・10 q・10 r・11 p・11 q・11 r グリッドに跨り、IV層面で検出された。本調査区と確認調査区に跨り、遺構の南側は調査区外へ延びる。検出した遺構の一部が畑耕作時の搅乱の影響を受けている。

[重複関係] 6号住居跡と接するため、重複している可能性が考えられるが明確な重複関係は不明である。また、8号住居跡の一部を含む東側（6号住居の南側）に別な遺構（住居跡？）があった可能性もあるが、確認調査区にあるため掘り下げることができなかつたため詳細は不明である。

[形状・規模] 確認した部分は細長く、不整な形状を呈する。規模は北西－南東間 360 cm、北東－南西間 344 cmである。

[埋土] 自然堆積を呈し、2層に細分される。全体に黒褐色土を主体とする堆積であるが、2層がより濃色である。中揮浮石粒が微量混入する。

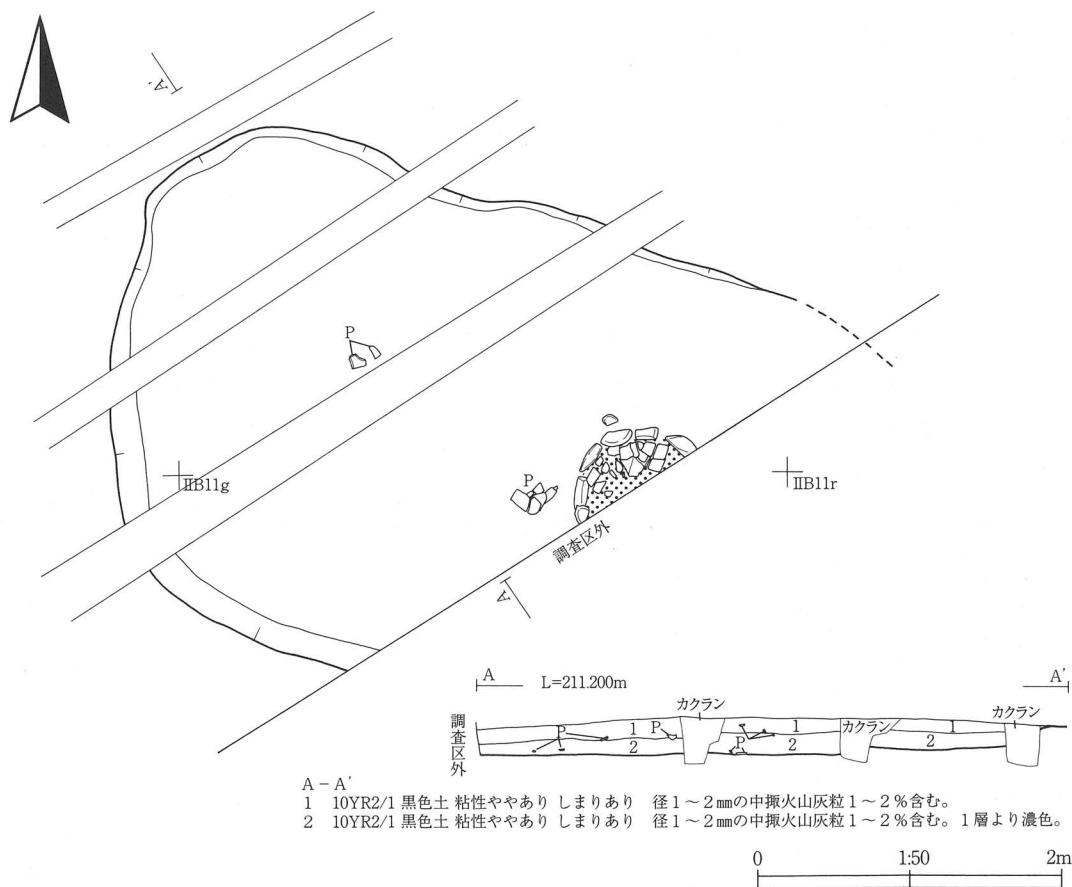
[床面] VI層が床面であるが、硬化面や貼り床は調査した範囲では確認されていない。

[炉] 調査区南東端で検出した。確認調査区のため検出のみである。大きさ 12～20 cmの礫を円形に並べた石圓炉で、炉の半分は調査区外にある。

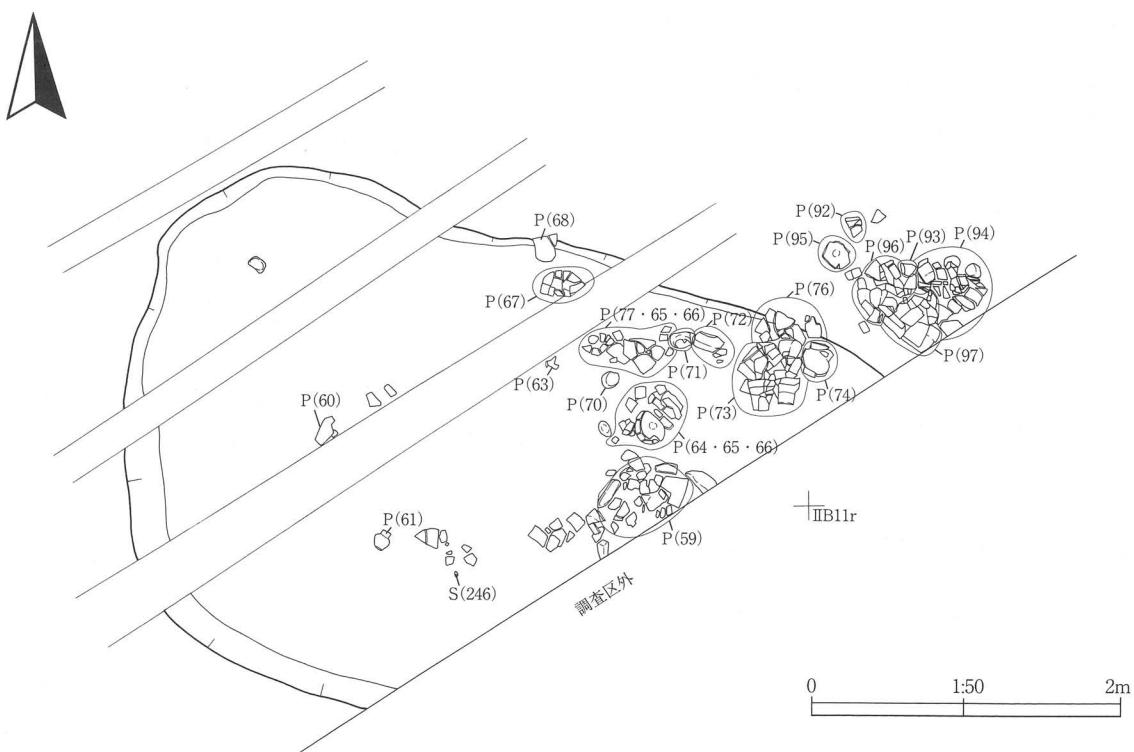
遺物（第 33～37・43～45・50・51 図、写真図版 23～27・31・32・36・37）

炉を含む確認調査区側の住居埋土とその隣接地から住居に廃棄したと思われる土器が出土した。前述の調査過程により、炉が調査の最終段階で見つかったことや床面であるVI層と住居の埋土2層との区別が付かないこともあり、炉の周辺以外は正確な床面が分からなかったことから、本遺構に伴うもの（床面に残っていたもの）か、住居使用後に廃棄されたものかの区別がつかないものがほとんどであったため、グリッド出土の遺物も含めて一括した。

土器は 58 が床面、59 が炉の覆土、60～91 が埋土、92～97 が遺構周辺からの出土である。石器は石鎌（172・173）、石匙（198・199・202）、磨石類（208）、石皿（232・233）が埋土からそれぞれ出土している。石製品は埋土下位より 1 点出土した（246）。



第 20 図 8 号住居跡 (1)



第21図 8号住居跡（2）

9号住居跡

遺構（第22図、写真図版15・16）

[調査方法・経過] 調査可能な範囲はすべて本調査区内での検出であったが、本来の遺構検出面では埋土と自然堆積層との区別がつかなかったことから、壁面を含む埋土の大半を掘り下げ、除去した後の精査となってしまった。

[位置・検出状況] 本調査区のII B 13 k・13 l グリッドに跨り、IV層面で検出された。遺構の一部は調査区外にある。また、遺構の南側壁面を含む一部が畑耕作時の搅乱の影響を受けている。

[重複関係] 重複している遺構はない。

[形状・規模] 遺構の一部のみの検出であるが形状は円形・橢円形と推測される。調査で確認できた遺構規模は南西-北東 504 cm、北西-南東 270 cmである。

[埋土] 埋土は7層で、上位が黒色土、中～下位は黒・黒褐色を基調とした層の堆積である。

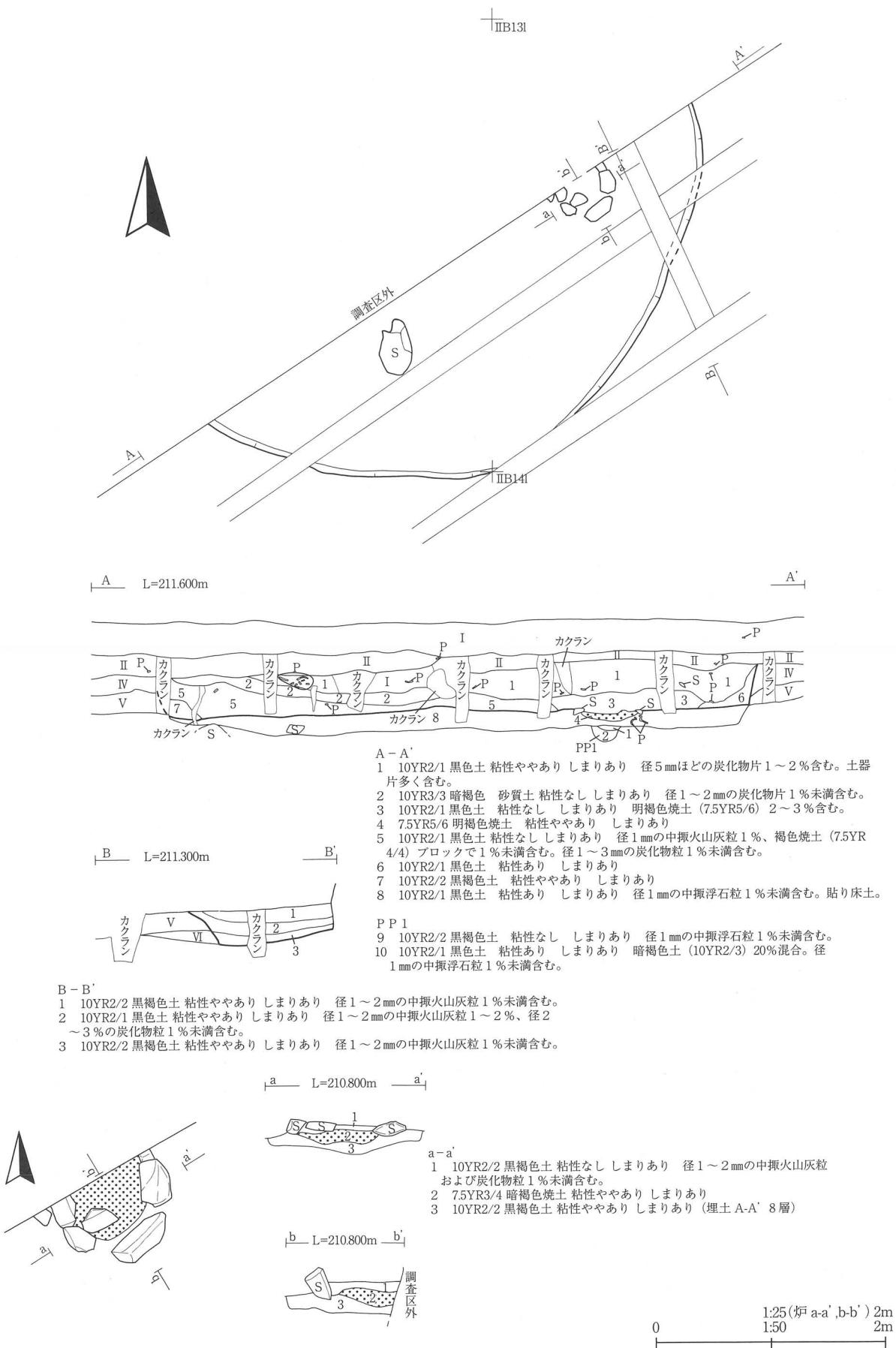
[床面] 床面は基本土層VI層まで掘り下げ、その後に黒褐色土（埋土8層）が貼られている。床面は固く締まっている。

[炉] 北東壁際の本調査区で検出した。長さ約15～28 cmの礫5個で構成される。焼土の色調は暗褐色で約26×46 cmの範囲まで確認できるが調査区外へと広がる。焼土の厚さは最大で6 cmである。

[柱穴] 8層下の炉の直下に位置する調査区境で1基検出した。

遺物（第38図、写真図版27）

土器98～104が出土した。98は床面、99・100は貼床土からの出土で、炉の構成礫より下から出土した。他は埋土からの出土である。石器は磨石類（209）が炉の構成礫、磨製石斧（206）が埋土から出土した。



第22図 9号住居跡

10号住居跡

遺構（第23・24図、写真図版16）

[調査方法・経過] 遺構にあたる箇所を掘り下げている段階で何らかのプランが存在することは予想されたが、北東に隣接する7号住居跡を含めたプラン全体が不明瞭であり、これと併せて調査区境の壁面も土層観察したが、畑耕作時の細長い搅乱が密にあったため遺構の立ち上がりがつかめなかった。よって本遺構よりも一部でもプランが判別できる7号住居跡の調査を優先して行い、その経過を観て調査に着手することとした。調査途中で7号住居の方が新しい時期に属するもので、10号住居跡の壁面を切っている状況であることが確認されたため、7号住居の調査終了後に本遺構の精査に着手した。

[位置・検出状況] 本調査区のII B 15 i・16 h・16 i・17 h・17 iグリッドに跨り、IV層面で検出された。遺構の一部は調査区外にある。

[重複関係] 1号溝・7号住居と重複し、これらに切られる。

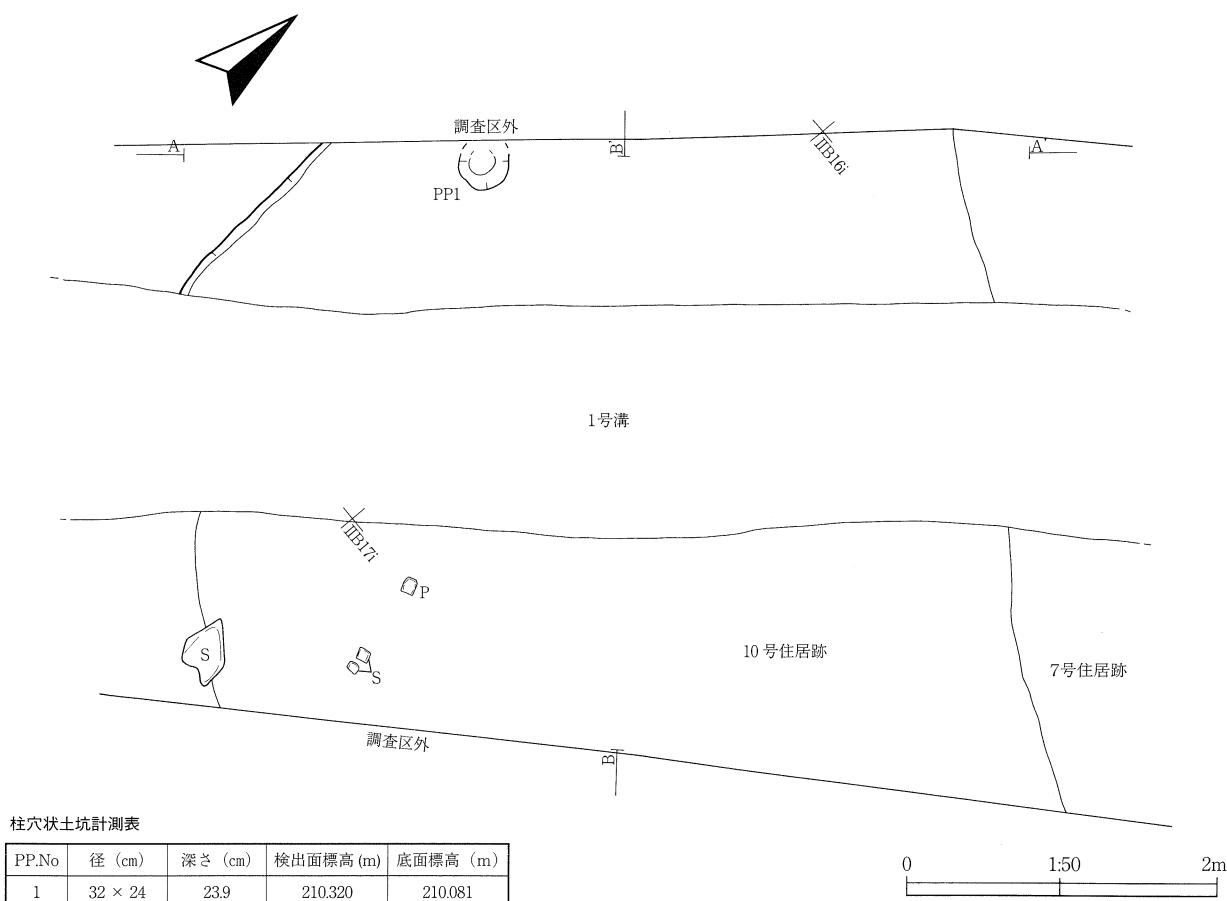
[形状・規模] 遺構の一部の調査であるため形状・規模の詳細は不明であるが、遺構の南北端は調査区外へと延びることから、規模は大きい。

[埋土] 3層確認した。全体に黒褐色土を主体とした色調で上位は十和田b降下火山灰を含む層で、基本土層Ⅲ層に類似する。中～下位は炭化物粒・中摺浮石粒を含むが下層ほど含有量が多い。

[壁] 検出面から床面までの深さは30～40cmで、壁面は外傾して立ち上がる。

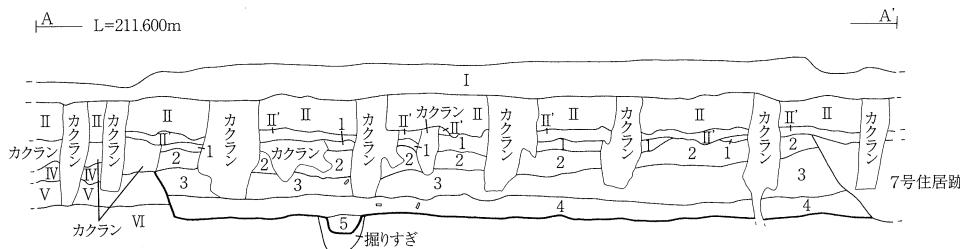
[床面] 床面は基本土層VI層まで掘り下げ、その後に黒褐色土（埋土4層）が貼られている。床面はほぼ平坦であるが、小さな凹凸がある。

[柱穴] 北西壁際の埋土4層下から1基検出した。形状は円形で北西側は調査区外へと延びる。



第23図 10号住居跡 (1)

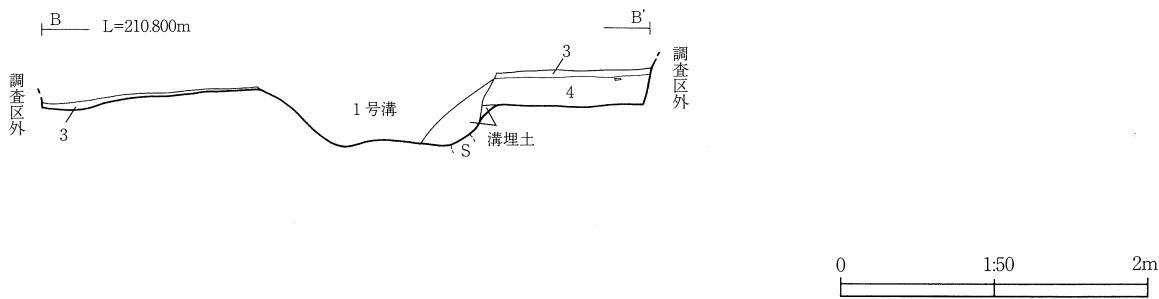
1 遺構



A = A'、B = B' 时， $\Delta_{\text{AB}} = \Delta_{\text{A'B'}} = \Delta_{\text{B'A'}}$ ，即热力学第一定律成立。

10YR2/3 黒褐色シルトルート
10VR2/3 紫褐色シルトルート
粘性なし
粘性なし
しまりややあり $Ta-Cu_1$ ($\phi 1\text{ mm}$) 1%、炭化物粒 ($\phi 1\text{ mm}$) 2.2% 混入
しまりややあり $Ta-Cu_1$ ($\phi 1\text{ mm}$) 2%、炭化物粒 ($\phi 1\sim 5\text{ mm}$) 3% 混入

4
5 10TR2/5 黒褐色シルート
10YR2/2 黑褐
粘性ややあり
透水性あり
To-Cu (ϕ 1 mm) 5 %、炭化物粒 (ϕ 1 mm) 1 % 混入 (※ P P1 埋土)



第24図 10号住居跡（2）

[炉] 調査した範囲で炉は見つかっていない。

遺物（第38図、写真図版27）

土器 105～107 で、105 は床面、106・107 は埋土から出土した。他に 118・122・135 も遺構外で取り上げ掲載したが、本遺構に伴う可能性がある。

1号炉

遺構 (第 25 図、写真図版 17)

〔調査方法・経過〕 検出・精査段階で住居跡に伴う炉かどうかの判別はつかなかったが、精査後に北側に隣接する壁面の土層観察を行ったところ、竪穴状の遺構が確認された。検出面の層位やレベルから本遺構に関連するものである可能性が高いことから壁面断面図を付した。

[位置・検出状況] 本調査区のⅡ B 17 g グリッドに位置し、IV層面で検出された。

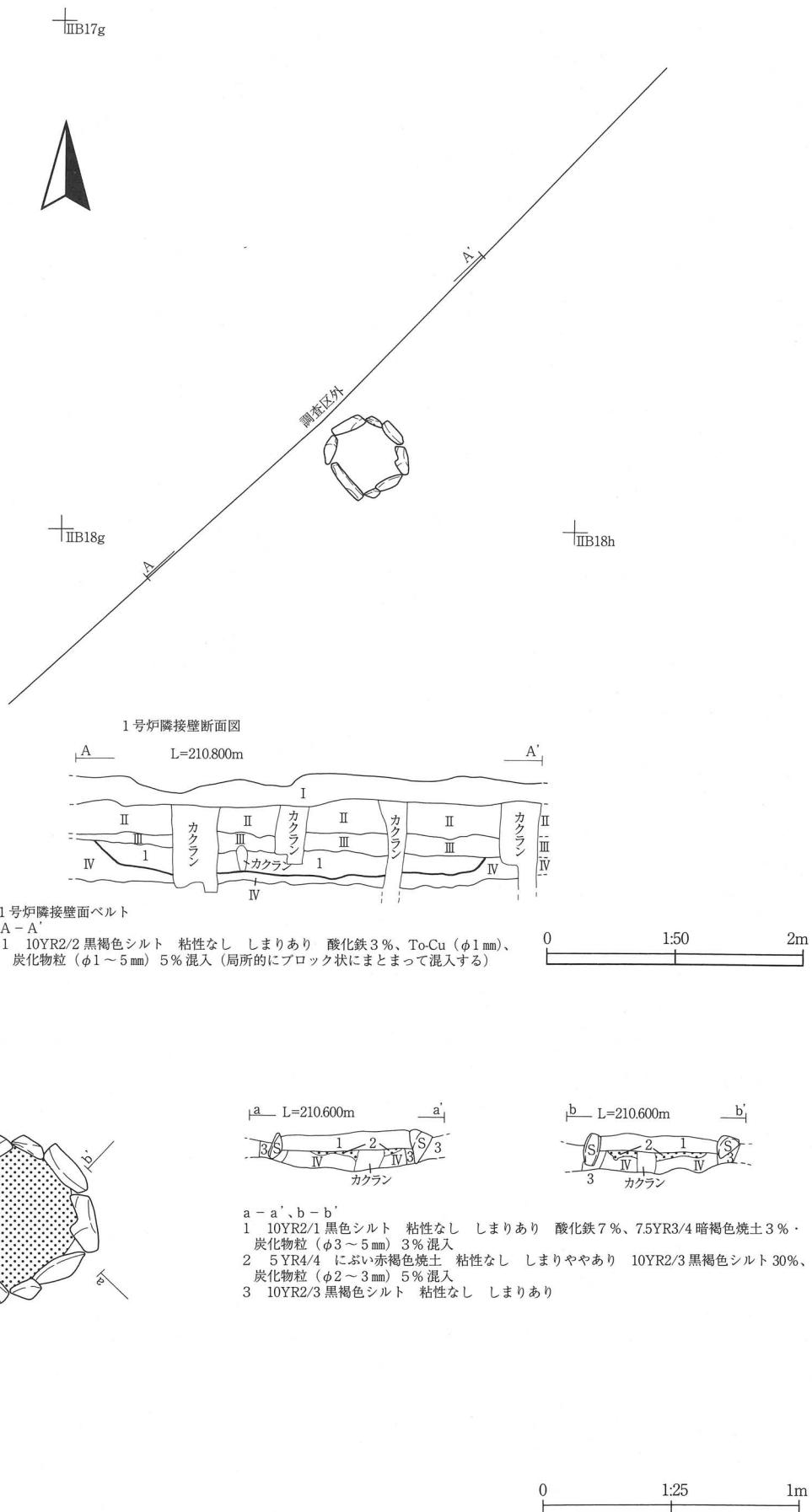
「重複関係」 重複する構造はない。

[形状・規模・構造] 長さ 10～30 cm の細長い礫を使用し、円形に配置している。炉の規模は約 65 × 60 cm である。

「焼土」 焚の内面全体に赤褐色焼土が確認された。焼土層は最大で約3cm堆積している。

遺物 (第 50 図、写真図版 36)

炬の構成礎に石皿（234・235）が使用されている。



第25図 1号炉

1号土坑

遺構（第26図、写真図版18）

[位置・検出状況] 本調査区のII B 12 o グリッドに位置し、IV層面で検出された。

[重複関係] 2号土坑と重複し、これを切る。

[形状・規模] 形状は円形を呈し、規模は開口部径106cm、底径88cm、深さ60cmである。

遺物（第38・50図、写真図版27・36）

土器108、石器236・237が埋土から出土した。

2号土坑

遺構（第26図、写真図版18）

[位置・検出状況] II B 12 o グリッドの本調査区・確認調査区に跨って位置する。IV層面で検出された。

[重複関係] 1号土坑と重複し、これに切られる。

[形状・規模] 検出段階での形状は円形を呈し、規模は開口部径174×160cm、深さ24cmを測る。

1号溝

遺構（第27図、写真図版18）

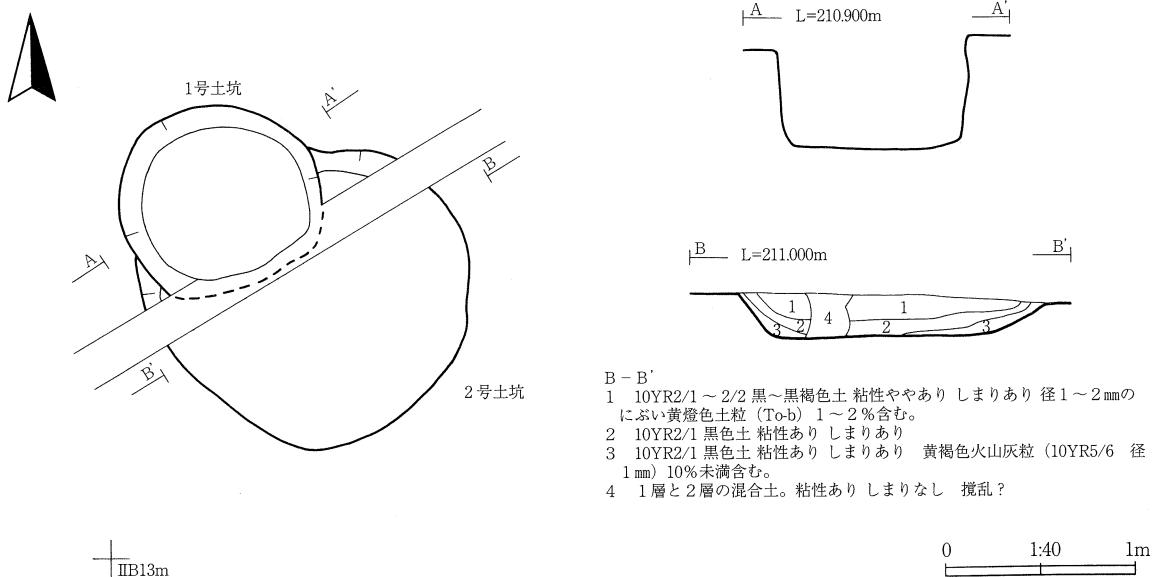
[位置・検出状況] 調査区南西部のII A・II B・III A グリッドに跨り、II層除去後にIII層以下の面で検出された。また、遺構の北東端部は調査区外へと延びている。

[重複関係] 3・7・10号住居跡と重複し、これらを切る。

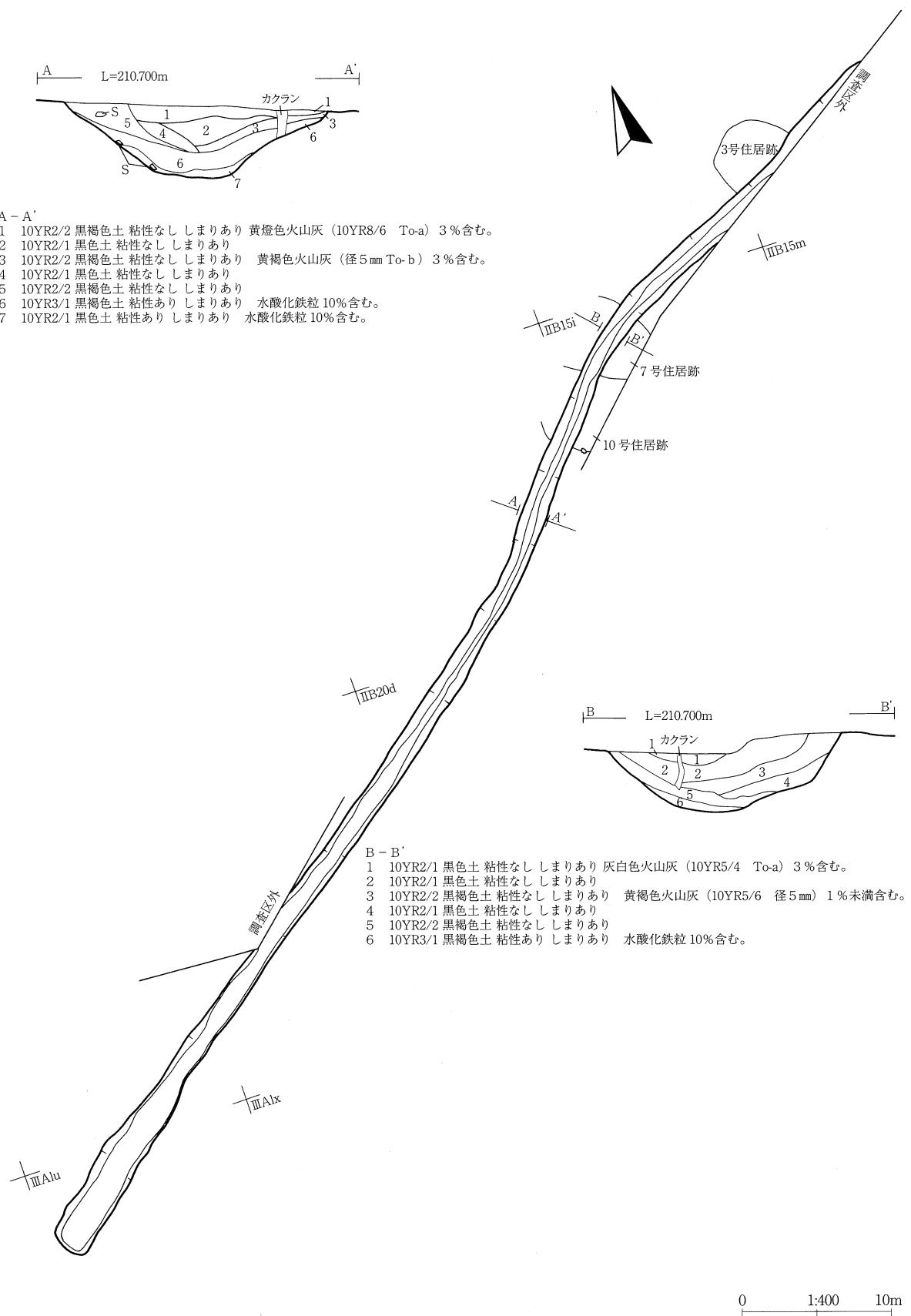
[埋土] 埋土最上位に古代の火山灰（十和田a降下火山灰）が堆積する。壁面は外傾して立ち上がるが、南側の壁面の一部は底面近く以外ではなくなっている状況であった。

[規模] 検出した規模は長さ80mで、北東から南西へと傾斜する。北東端から南西方向26m地点までは緩やかに蛇行し、そこから54mは真っ直ぐ南西方向に向かっている。南西端部は次第に広がつて立ち上がりが浅くなる。

遺物 埋土からは周辺からの流入と思われる縄文時代の遺物が出土したが、遺構外出土遺物として扱った。古代の遺物はみつかっていない。



第26図 1・2号土坑



第27図 1号溝

2 遺 物

(1) 土 器

本遺跡から出土した土器は大コンテナで約11箱分である。時期は縄文時代後期、特に後半のものが中心で、晚期は中葉の土器が調査区南西端部の湿地状地形になっている箇所から少量出土している。出土した土器の大半は住居を中心とする遺構の埋土とその周辺から、遺構外のグリッドで取り上げた土器については遺構の認識が遅れたために本来、遺構検出面～遺構埋土上位に含まれていた可能性があるものもある。出土した土器は時期により、第Ⅰ群～第Ⅳ群に分類した。

第Ⅰ群土器・・・縄文時代後期前半の土器。

第Ⅱ群土器・・・縄文時代後期後半の土器。

第Ⅲ群土器・・・縄文時代晚期中葉の土器。

第Ⅳ群土器・・・古代の土器。

第Ⅰ群土器（109～117）

縄文時代後期前半期に位置づけられる土器群で、調査区南西部の湿地状地形にあるⅡ B 19 e・20 d・21 c・22 c グリッドのV層を中心に出土した。器種は深鉢、鉢、壺などで109～111は口縁部・胴部上位に沈線による文様が展開する。112・113は体部上位に膨らみをもつ粗製の深鉢の破片で口縁・胴部間に原体圧痕が施されている。114は平行沈線を横位・斜方向に展開し、それぞれが接する箇所に刺突文が施されている。

第Ⅱ群土器

今回の調査で最も多く出土した縄文時代後期後葉～末葉の土器群である。該当する土器形式としては十腰内IV・V式、瘤付土器第Ⅰ～Ⅳ段階である。大半は住居を中心とする遺構内からの出土で、器種は深鉢・鉢・台付鉢・台付浅鉢・壺・皿・注口土器・香炉形土器などである。破片が多いことから個体全体の器形や文様構成が確認できないものが大半であるが、さらに時期を細分することが可能であると思われる。

深鉢（2・5・6・9・10・13・15・20・21・23・27・28・30・31・37・40・42・46・49・50・52・54・55・59・64・65・70・80・82・83・85・93・94・96～99・103・105～107・118～126・128～131・136・138ほか）

深鉢は大きく分けて、装飾が施される精製土器と縄文のみが施文される粗製土器とに分けられる。精製深鉢は口縁部が波状のもの（28・31・83・103・118・119）もあるが、28以外は突起のみで全体の器形までは分からぬ。いずれも沈線文・貼瘤が施され、103は波状口縁で波状頂部下に縦位に切れ目が入り、その下に又状貼瘤が付し、口縁と平行した沈線文間には刺突文が施されている。平縁口縁のもので器形全体が分かるものは30・46・49・59で底～胴部が内湾し、頸部から上が外傾する形態である。文様構成は大きく分けて口縁端部や屈曲部に沈線区画された縄文帯・貼瘤帯を施されるものと縄文帯に代わって沈線区画内に連続した刺突文・刻目文が多用されるものとに分けられるが、前者で文様構成が確認できるのは30・46・49・59・64などで、30は口縁部の上・中・下位に平行沈線により区画された縄文帯が施されている。46・64は弧状沈線文などにより区画された縄文帯と貼瘤による文様構成であるが、縄文帯は磨消手法によって縄文を区画する沈線文がほとんど消え、縄文

帶が浮き上がっている。49・59は口縁部を区画された貼瘤縄文帯に格子目状に沈線文を施している。これ以外にも破片資料であるが5・99・107・123・124などがこれと同じ文様構成要素をもつ。比較的多く出土しているものとしては貼瘤と弧状沈線文により入組帶状文が展開するもの（20・27・37・50・52・55・80・82・106・120～122）がある。他には細い沈線による平行沈線文・弧状沈線文などが重なって施されているもの（42・54）、口縁部が平行沈線と連続弧線文で構成され、弧線による菱形文様の要所には貼瘤が施されているもの（85）なども少数であるが出土している。貼瘤・縄文帯に後続して沈線文間に連続する刺突文・刻目文が多用される土器群は10・15・21・23・98・103・125・128～131などで10は口縁部破片で口縁の文様は沈線間の連続刺突文と無文帯から成り、これを跨ぐように貼瘤が付く。23・40・128～130も口縁部破片で40・128・129の口縁部には文様のない突起があり、頸部および口縁上部に刺突が施された平行沈線文により胴部文様帯・口縁部文様帯とを区画し、口縁部に入組帶状文が施されている。23は頸部区画帯、130は入組帶状文にそれぞれ貼瘤が付いている。13は小形の深鉢で胴部に膨らみをもち、口縁部が外反する器形で、口縁部には大小の突起を有し、突起は刻みにより二分・三分されている。頸部には連結する沈線文と貼瘤、口縁部には弧状沈線文により右下がりの入組帶状文が展開している。粗製深鉢で口縁～底部まで残存するものは6・57・65・94・96・97・105・136・138で136のみ口縁部が小波状になり、これ以外はいずれも平縁である。全体の器形は底部から胴上部まで開き気味に立ち上がり、そこから内側に湾曲するもの（6・65・94・96）や底部に段があり、内面があがっているもの（6・65・97・136・138）などがある。器面にはいずれも縄文が全体に施され、羽状縄文か単節縄文が施されるもの。

注口土器（7？・11・26・35・36・43・47・48・69・79？・86・87・92・100・101・131・139～141）

鉢類について出土数が多い。全体の形状が分かるものは92と100で一部欠損するがおおよその形状が分かるものは69・141で、他はいずれも一部破片のみで全体の形状は不明である。69・92・141は口縁部・頸部・胴部の3段、100は口縁部・胴部の2段構成である。注口部分が確認できるものは11・43・87・92・100でいずれも注口先端部に括れをもち、やや外反した形態である。胴部に文様が施されているのは69・87・92・139で頸部・胴部には沈線により櫛掛け状文・入組帶状文・弧状線文、鋸歯状文が展開している。69は沈線文間を微隆帯状にやや浮き上がらせ、そこに刺突文を巡らせている。139の胴部の屈曲部付近には尖銳貼瘤が付される。141は注口部分を欠くが口縁部～胴部で無文であるが、口縁部・頸部間、頸部・胴部間に小さな貼瘤が施されている。26・35は胴部破片でともに縦に貫通する橋状把手を付す。36は胴部破片で頸部との間には平行沈線文間に押圧状刻目文が施され、胴部は屈曲部付近を平行沈線文間に貼瘤を充填し、区画帯とし、区画内には弧状線文・貼瘤により文様が施され、要衝に縦に貫通する円形の貼瘤が貼付されている。

壺（14・32・39・61・62・72・73・102・142・143）

14・32・61は完形品で14・61は無文、32は頸部・胴部に平行沈線による貼瘤帯が施されている。39は口縁～胴部破片で胴部には弧状の沈線により文様が施され、頸部に沈線文と縦位の橋状把手が付く。73は器体外面全体、62・72は胴部文様が縄文のみで、73は口縁部・頸部・胴部の3段構成である。62は口縁部が欠損した胴部破片で肩部がくの字に内湾する形状を呈し、胴部は無文である。102は口縁部が無文で胴部のみ縄文が施されているが、頸部4箇所に縦位の橋状把手が付き、胎土にやや大きめの砂粒が含まれている。142は口縁～胴部上位の破片で頸部の上下段に押圧状の刻目文が巡り、縦位の橋状把手が付く。143は口縁部破片で口縁部上端に橋状の突起が付くが、全体の形状が

分からぬいため、注口土器の可能性もある。

台付鉢（4・12・19・56・75・104）

台部を含む全体の形状が確認できたのは4・19・56で4は貼瘤帶縄文が口縁端部以下、胴部屈曲部などに施されている。19は台部が全体の約2/3を占め、頸部・口縁部・体部は沈線により区画され、体部は沈線や透かし技法により、三角形・菱形・円形の文様を展開し、要衝にやや先端の尖った貼瘤が付く。56は台より上は半球状の形状を呈し、無文で口縁端部に縦方向の貫通孔をもつ貼瘤が付く。12・75・104は台部は欠損しているが台付鉢である可能性が高い。75は頸部に沈線区画の貼瘤帶が巡り、胴部には沈線による連結帶状文が施文されている。104は胴部は無文で1条の沈線文と横位の連続する刺突文で胴部と口縁部とを区画している。

皿（45）

7号住居の床面から1点出土した。口縁部は浅い沈線文によって区画され、胴部に対してやや肥厚している。

香炉形土器（16・22・63・81・93・145）

63はいわゆる人面付の香炉形土器で、頂部の摘み部分が欠損するが、それ以外はほぼ残存している。方形の透かしのある2面と刺突文により人面が表現されている2面が交互にある4面構造で、人面は2～3段の刺突列で輪郭や鼻など（片面）を、円形の透かしで目・口をそれぞれ表現している。また片面の鼻は貼り付けられたもので、鼻孔も刺突によって表現されている。93は2段の連続刺突文、貼瘤、沈線文、円形透かし文による文様構成で、胴部上部が欠ける。22は摘み部分、81は摘み～胴部上半で胴部は円形の透かしを中心に沈線文と磨り消し技法により縄文帯が区画されている。145は胴部破片である。16は孔のある部分の横は透かし状の形状を呈すると考えられ、香炉としたが、台付鉢かもしれない。

ミニチュア土器（44・89～91・146）

5点出土した。44・89・146は鉢、90は台付鉢、91は皿である。いずれも文様はなく、無文である。

器種不明の土器（78）

78は「く」の字に折れた形状で、注口土器の注口部分のように開口した形状を呈し、沈線文・貼瘤が施されているが器種は不明である。

第三群土器・・・縄文時代晩期中葉の大洞C2式に比定される土器で2点出土した。147は鉢の口縁部破片で4条の平行沈線文が施されている。148は台付鉢で口縁部上端は欠損している。体部上半には沈線により文様帯が施されている。

第四群土器（149）

1点出土した。土師器甕の口縁～胴部破片である。II B 2 u グリッドの搅乱土中からの出土である。

(2) 土 製 品

出土した土製品は土偶 2 点、耳飾り 11 点、垂れ飾り 1 点、円盤状土製品 1 点で、大半が住居の埋土かその周辺から見つかっている。土偶・耳飾りは破片である。また、耳飾りの一部と垂れ飾りには赤色顔料の付着が確認された。

土偶 (150・151)

2 点出土した。150 は 2 号住居の検出面、151 は 6 号住居検出時に出土した。いずれも肩～上腕部にかけてのもので文様は沈線文・刺突文で 151 には貼瘤が施されている。時期は縄文時代後期後葉である。

耳飾り (152～162)

11 点出土した。出土地点は 152 は 3 号住居、153～158 は 6 号住居で 159～162 は遺構外からの出土である。形態は環状の形状を呈する滑車形で、すべて 1/3 以下の破片である。160 の内面側に赤色顔料の付着が認められた。

垂れ飾り (163)

1 点出土した。形状は逆三角形で上側の両端には紐を通すための孔があり、そこから V 字状に 2 条の沈線文を巡らせ、下端部の沈線が折り返す部分は瘤状に盛り上げている。

円盤状土製品 (164)

1 点出土した。深鉢形土器の胴部破片を使用したもので、円形に形状を整えるために周囲を打ち欠いている。

(3) 石 器

石鏸 (165～180)

総数 16 点出土した。168～173 は遺構内でその他は遺構外からの出土である。石材には頁岩・珪質頁岩が使用されている。いずれも基部は有茎である。また、165・167・176 にはアスファルトと思われる付着物が確認された。

石錐 (181～196)

16 点出土した。形態は摘み部分が肥厚するもの 181～185、摘み部分の厚さが使用先端部とほとんど変わらないもの 186～196 に大きく分かれる。192 は摘み部分が肥厚するタイプの可能性もある。使用された石材は頁岩・珪質頁岩である。

石匙 (197～205)

9 点出土した。石材はすべて頁岩が使用されている。形態については摘み部の軸を垂直にしたときの形状で以下の 3 形態に大別される。

I 類 縦方向に刃部を有するもの。(197)

II 類 横方向に刃部を有するもの。(198～200)

III類 斜方向に刃部を有するもの。(201～205)

磨製石斧 (206)

9号住居の埋土から1点出土した。石材は頁岩が使用され、基部が欠損している。

磨石類 (207～217)

いわゆる磨石・凹石・敲石とよばれている石器を含むものである。12点出土したが、磨石+凹石(207～211)、磨石+敲石(217)などの併用がみられる。使用された石材は砂岩(75%)、花崗岩(17%)、安山岩(8%)で砂岩が多い。

石皿(218～242)

植物性食料の粉碎・磨り潰しなどの用途に使用されたもので25点出土した。石材は多い順に砂岩(80%)、花崗閃緑岩(8%)、安山岩(4%)、頁岩(4%)、粘板岩(4%)である。大半は自然礫をそのまま利用しているものであるが、242のように外縁に成形を施しているものや222・223のように外縁の一部に調整が施されているものもある。241は六角形の形状をしているが、石材に粘板岩が使用されており、別な用途に使用された可能性も考えられる。

砥石

1点出土した(243)。石材にはチャートが使用され、片面に幅2～3mmの縦長の研磨痕が溝状に残っている。

(4) 石 製 品

石棒(244)

6号住居埋土下位の床面近くから出土した。石材には頁岩が使用され、先端部が欠損している。出土状況はほぼ水平であった。

垂れ飾り(246)

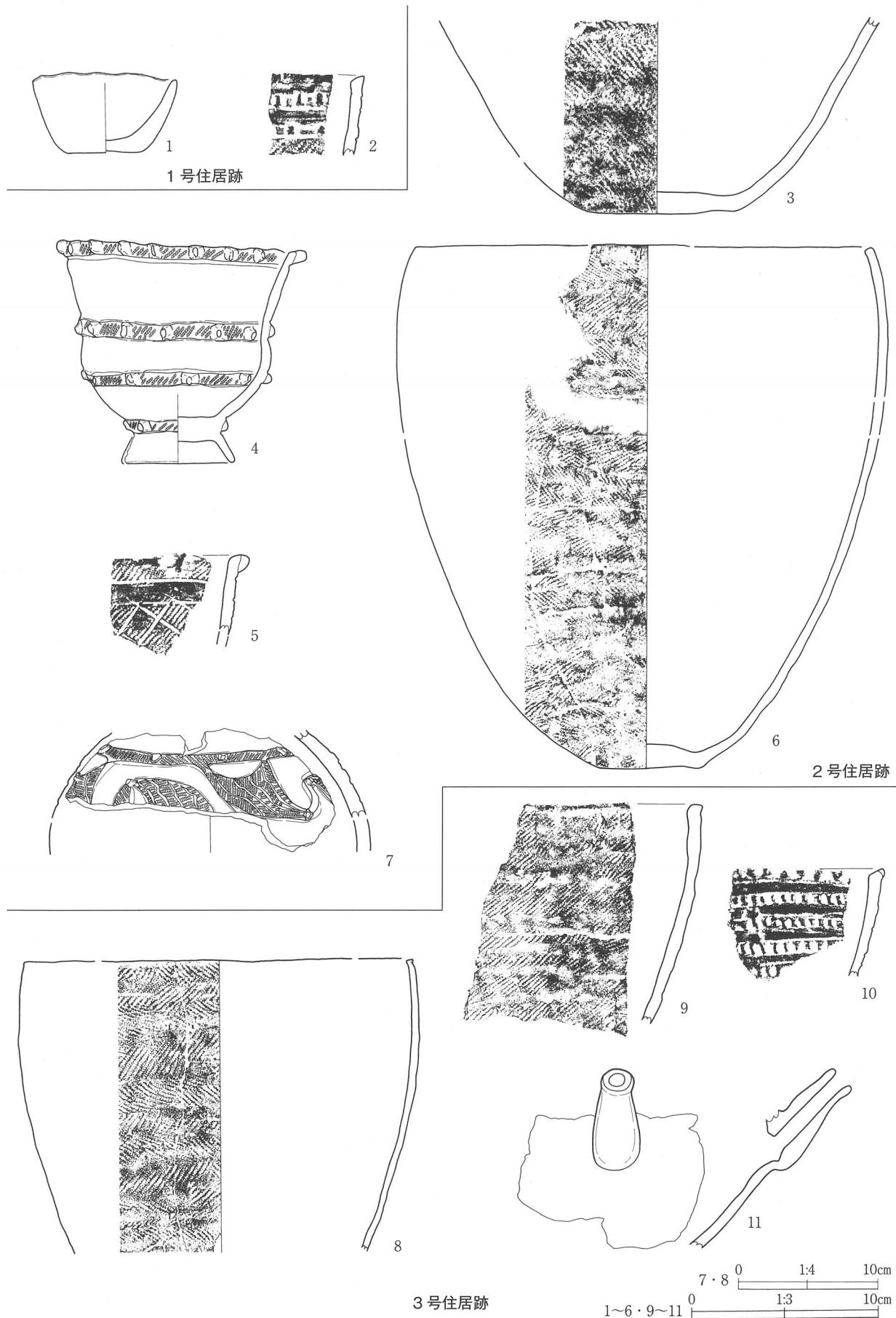
8号住居の土層観察用のベルトを除去する際に埋土2層から出土した。両面が平坦で片端部がヒダ状の形状で平坦部分には線刻が施されている。色調は緑色の濃い部分と透明感のある薄い部分に分かれる。肉眼観察で石材はヒスイ製と考えたため、原石の産地分析鑑定を依頼したが、既存の産地データとは化学組成が異なるため、産地および石質を同定するには至らなかった。(79～84頁参照)

用途不明石製品(245)

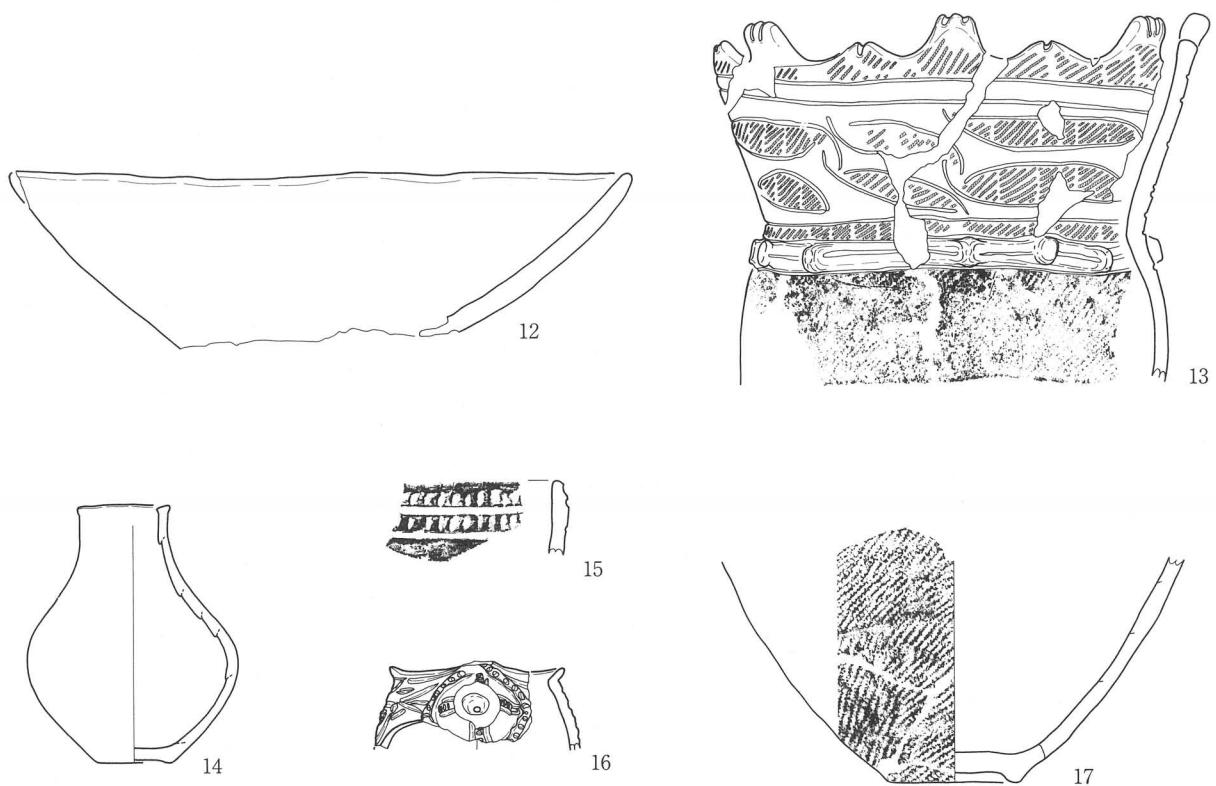
II B 18 h グリッドの第III層から出土した。形は橢円状で成形した痕跡は見られない。石材は頁岩が使用され、先端部が欠損している。欠損した部分に溝状の線刻が施されている。用途は不明である。

(5) 炭 化 種 実

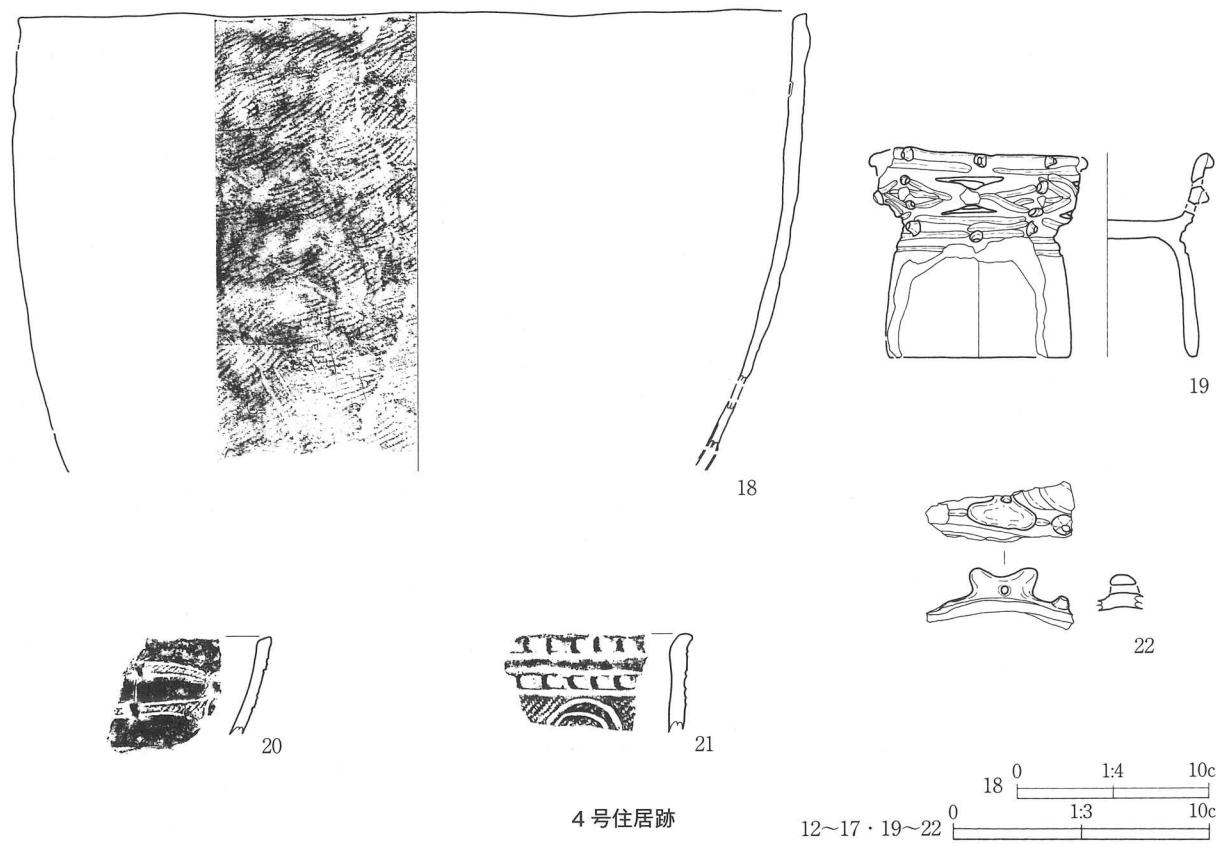
遺構内から6点出土した。採集した試料は5号住居の炉、2号住居・8号住居の埋土である。このうち5号住居から出土した1点はオニグルミで他はすべてクリであった。いずれも炭化したもので食料としたものである。詳細は分析鑑定結果にある。(77・78頁参照)



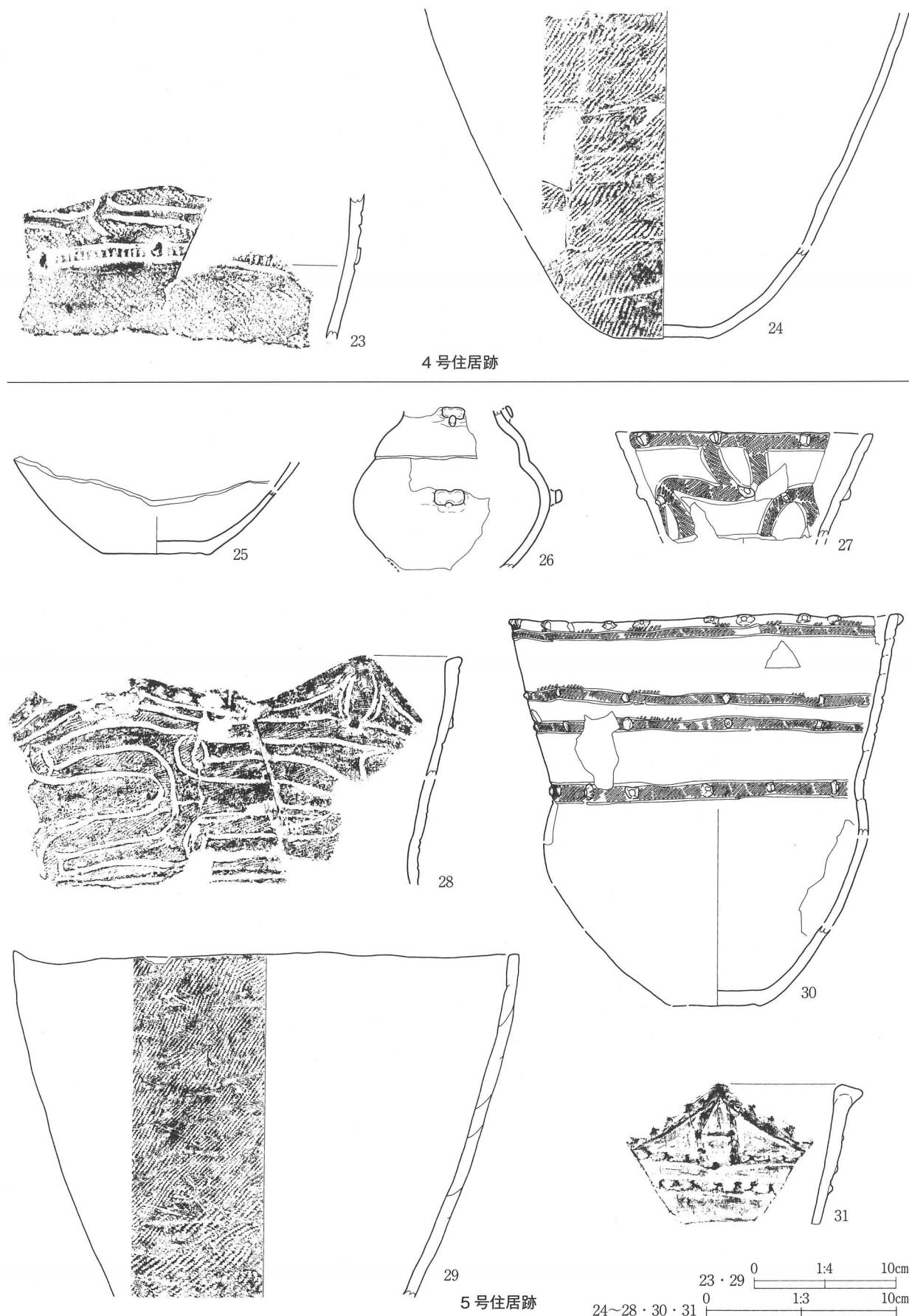
第28図 遺構内出土土器（1）



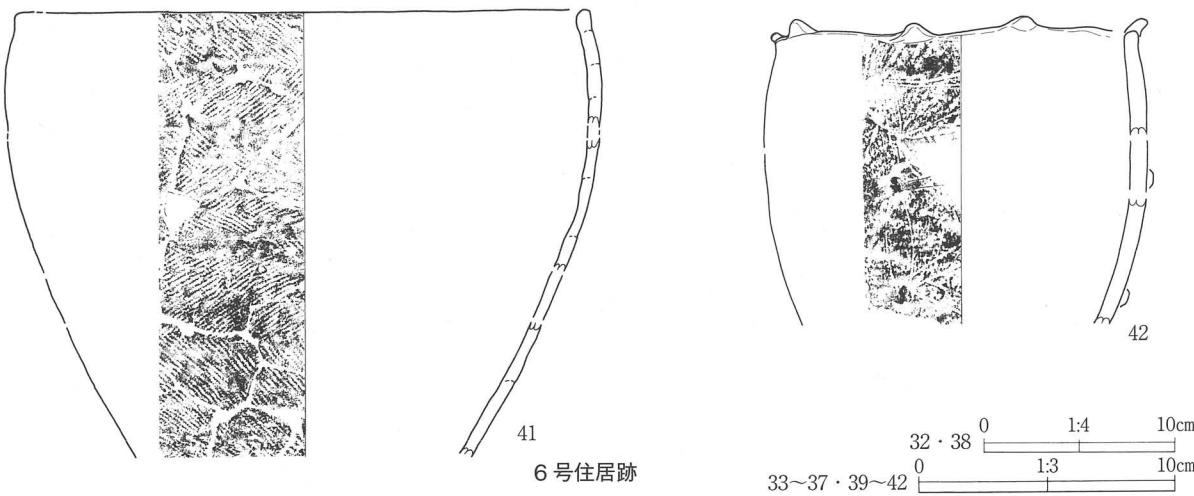
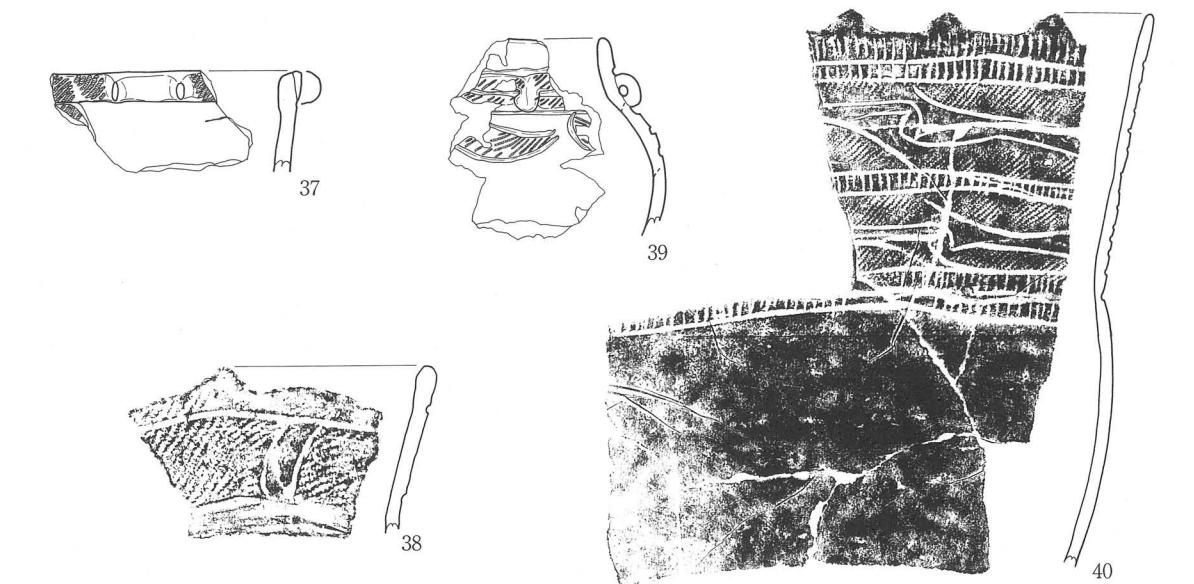
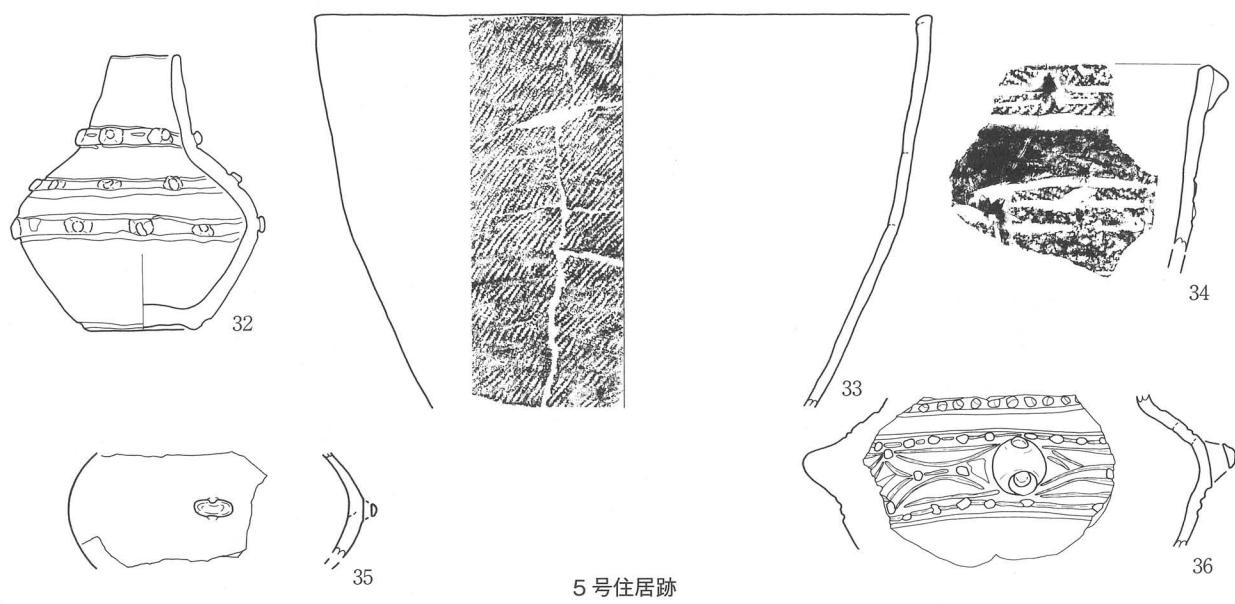
3号住居跡



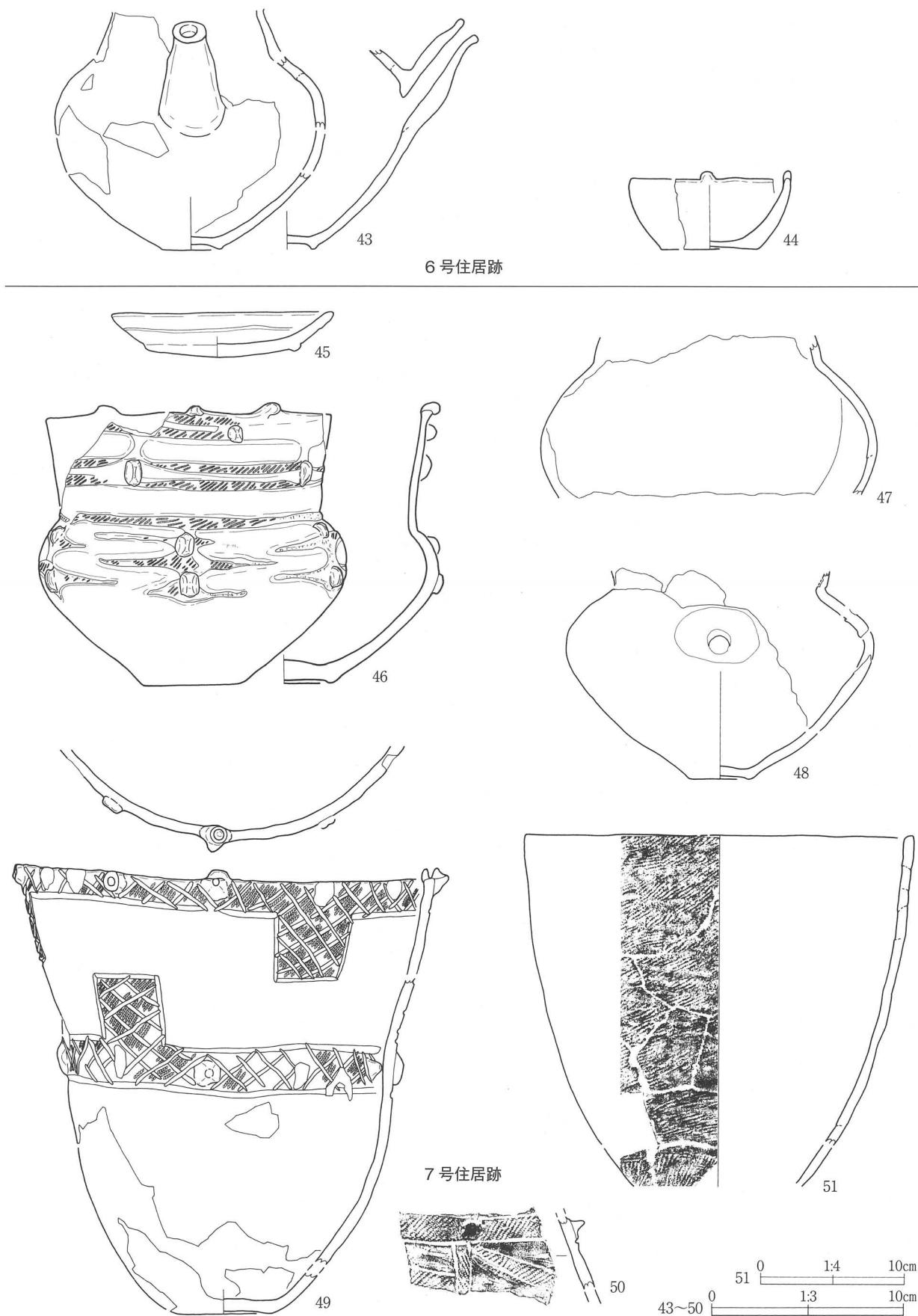
第29図 遺構内出土土器（2）



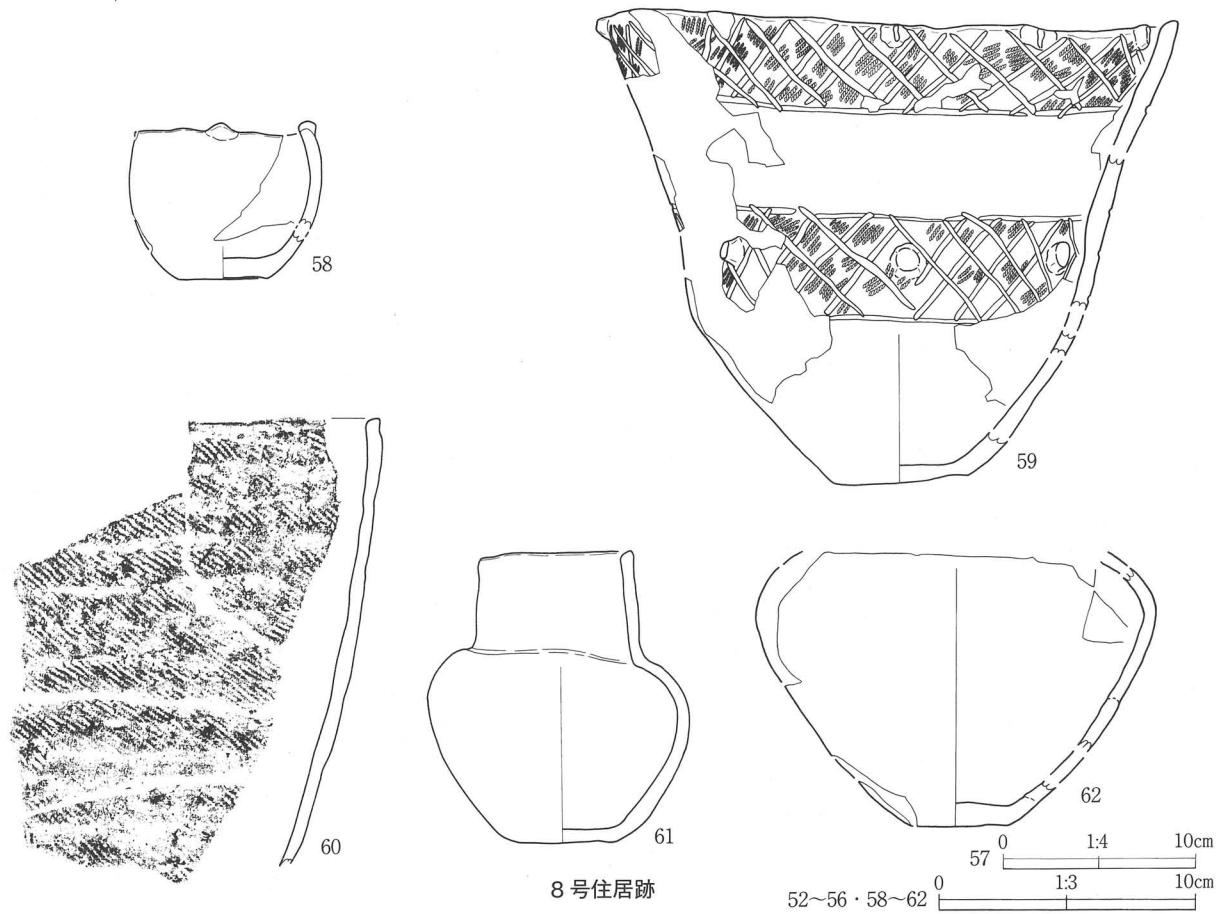
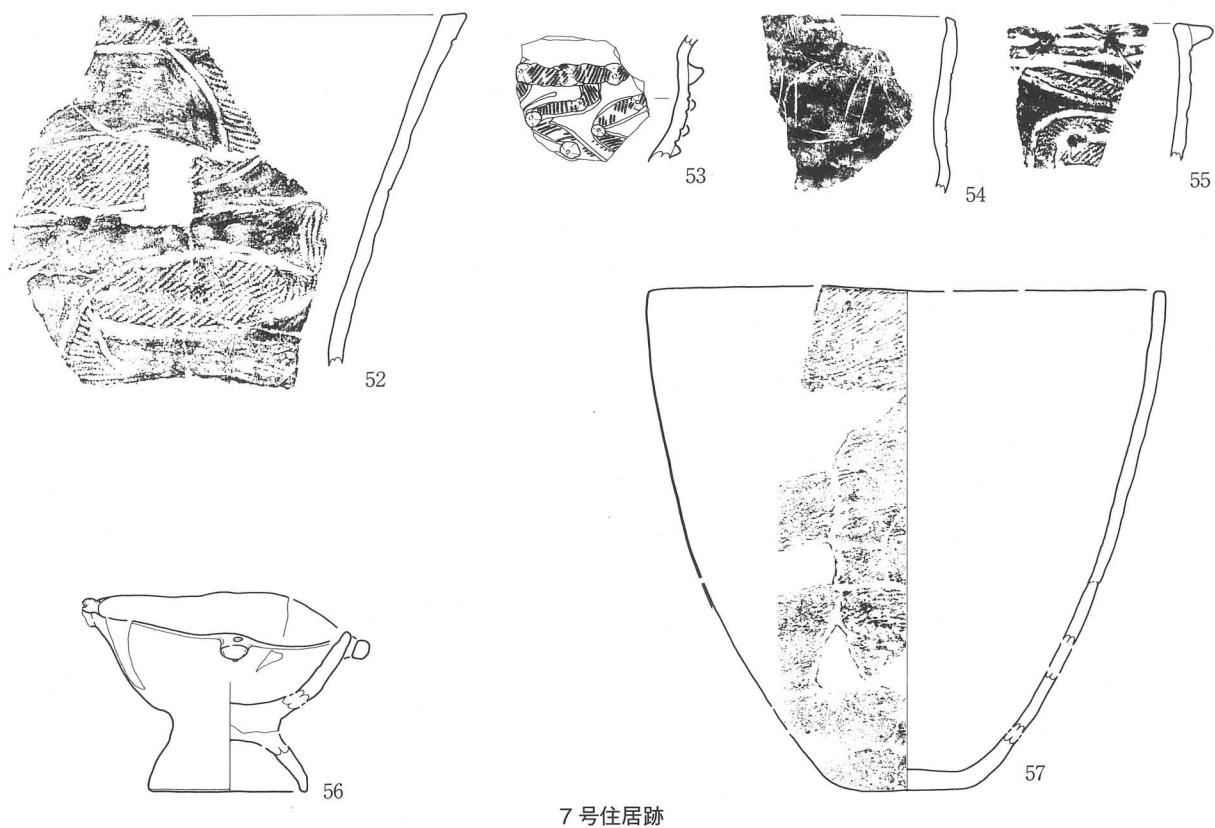
第30図 遺構内出土土器（3）



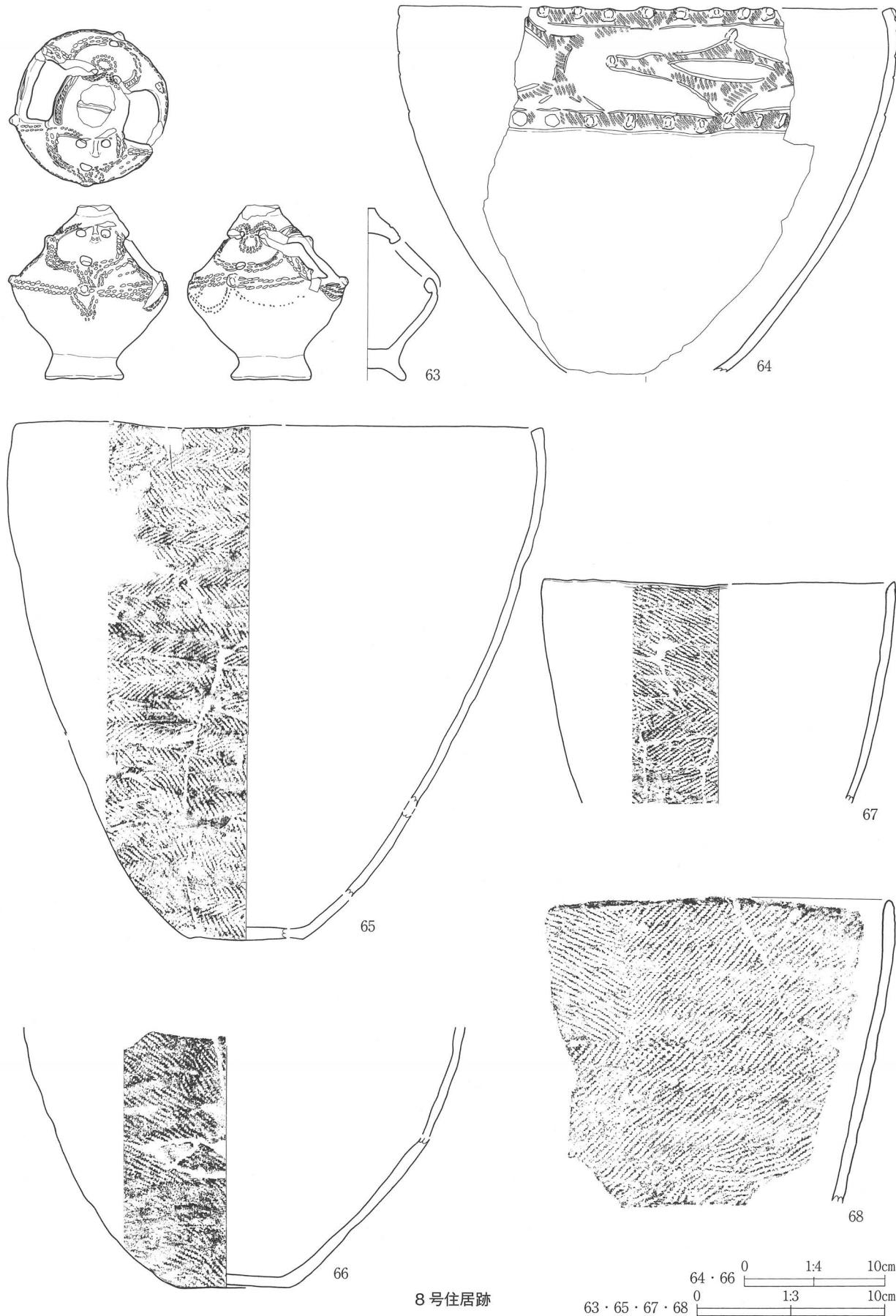
第31図 遺構内出土土器（4）



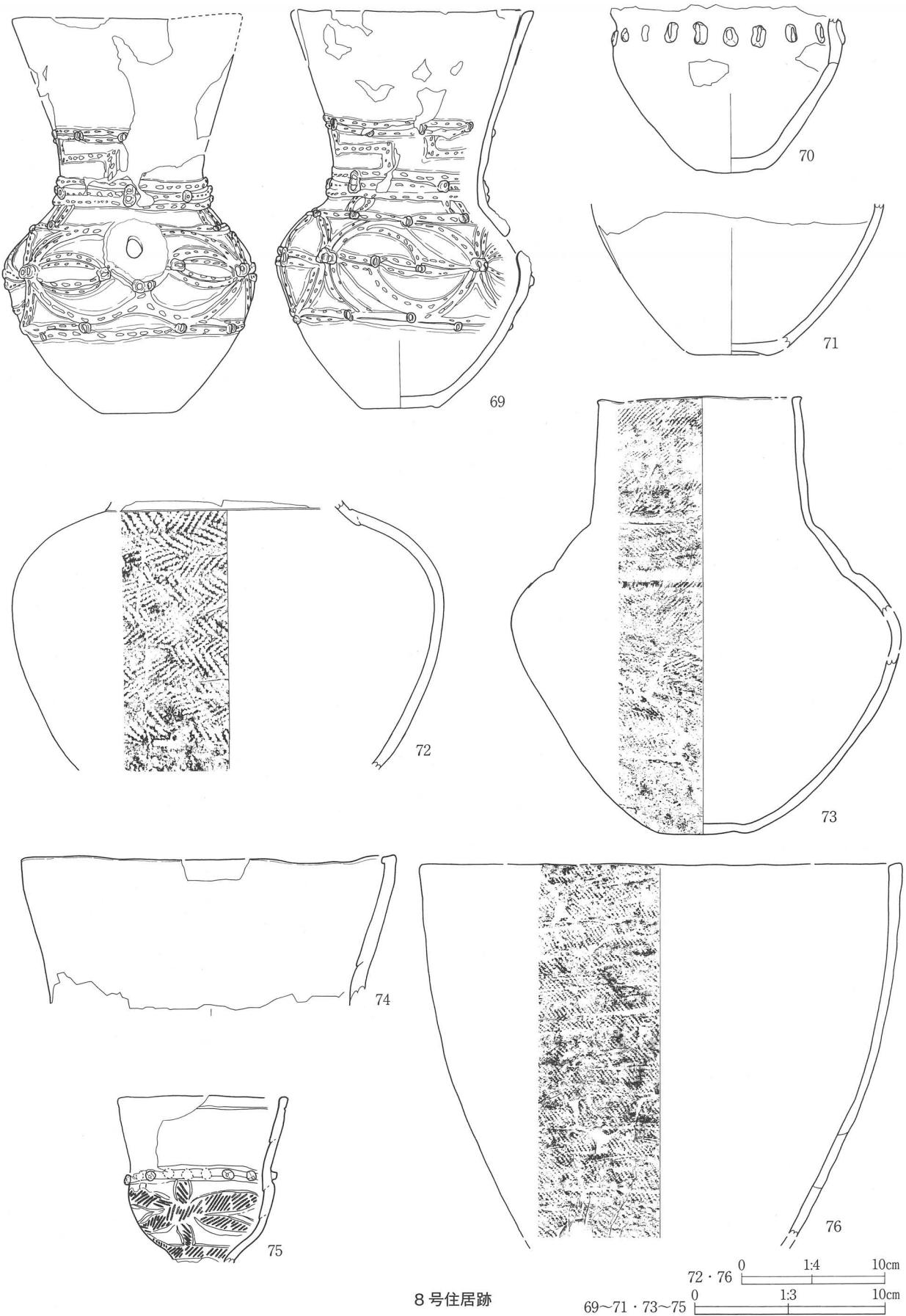
第32図 遺構内出土土器（5）



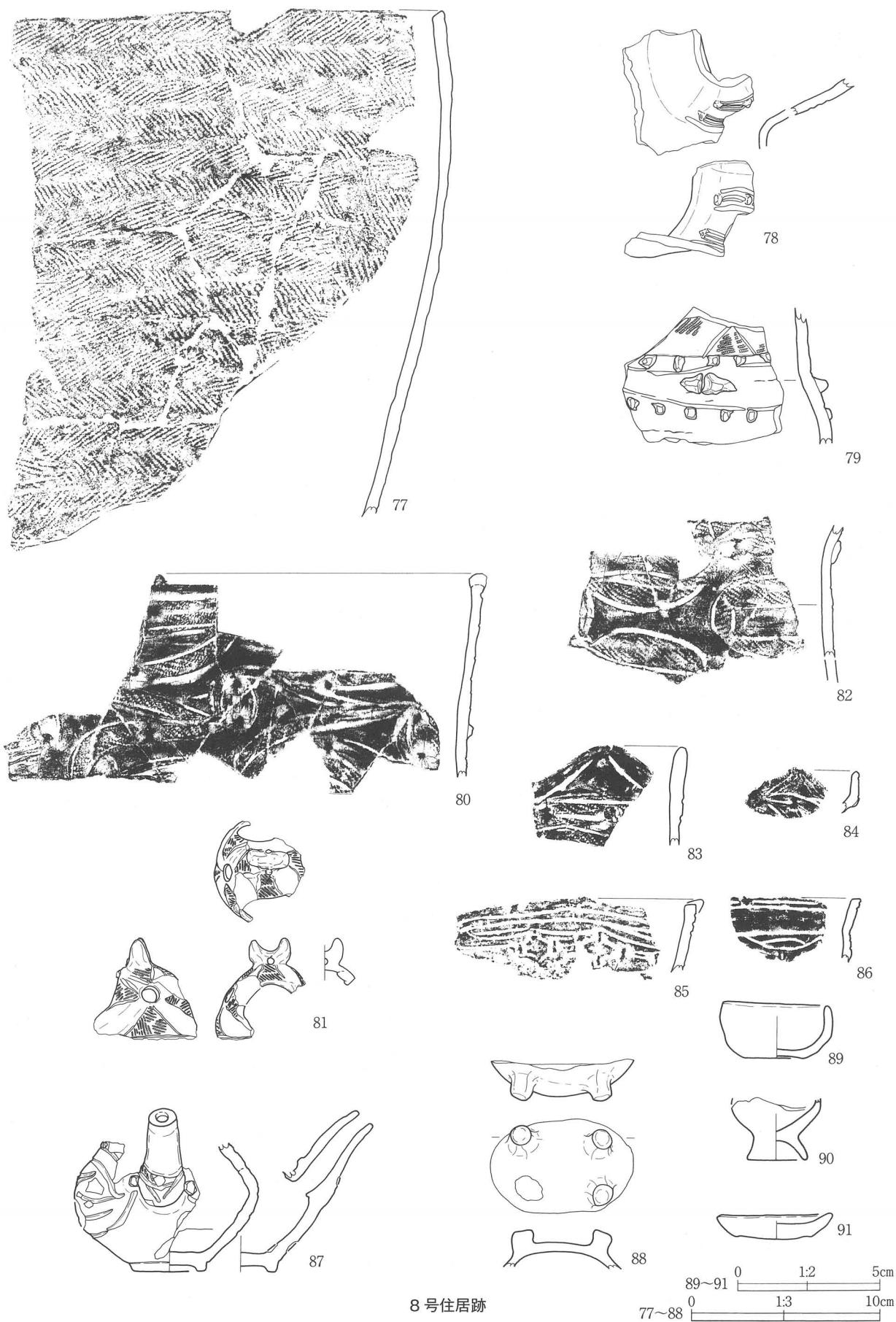
第33図 遺構内出土土器（6）



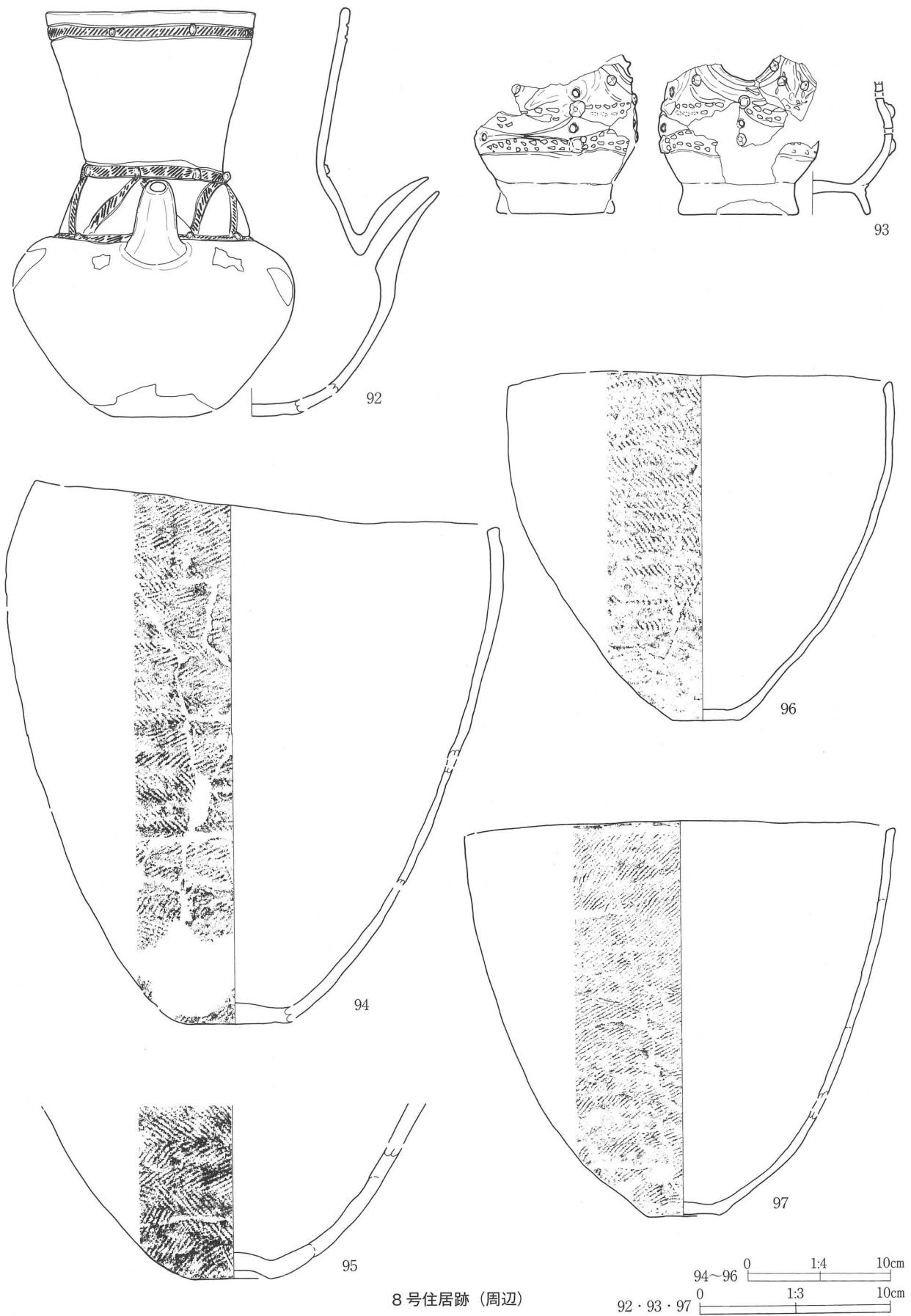
第34図 遺構内出土土器（7）



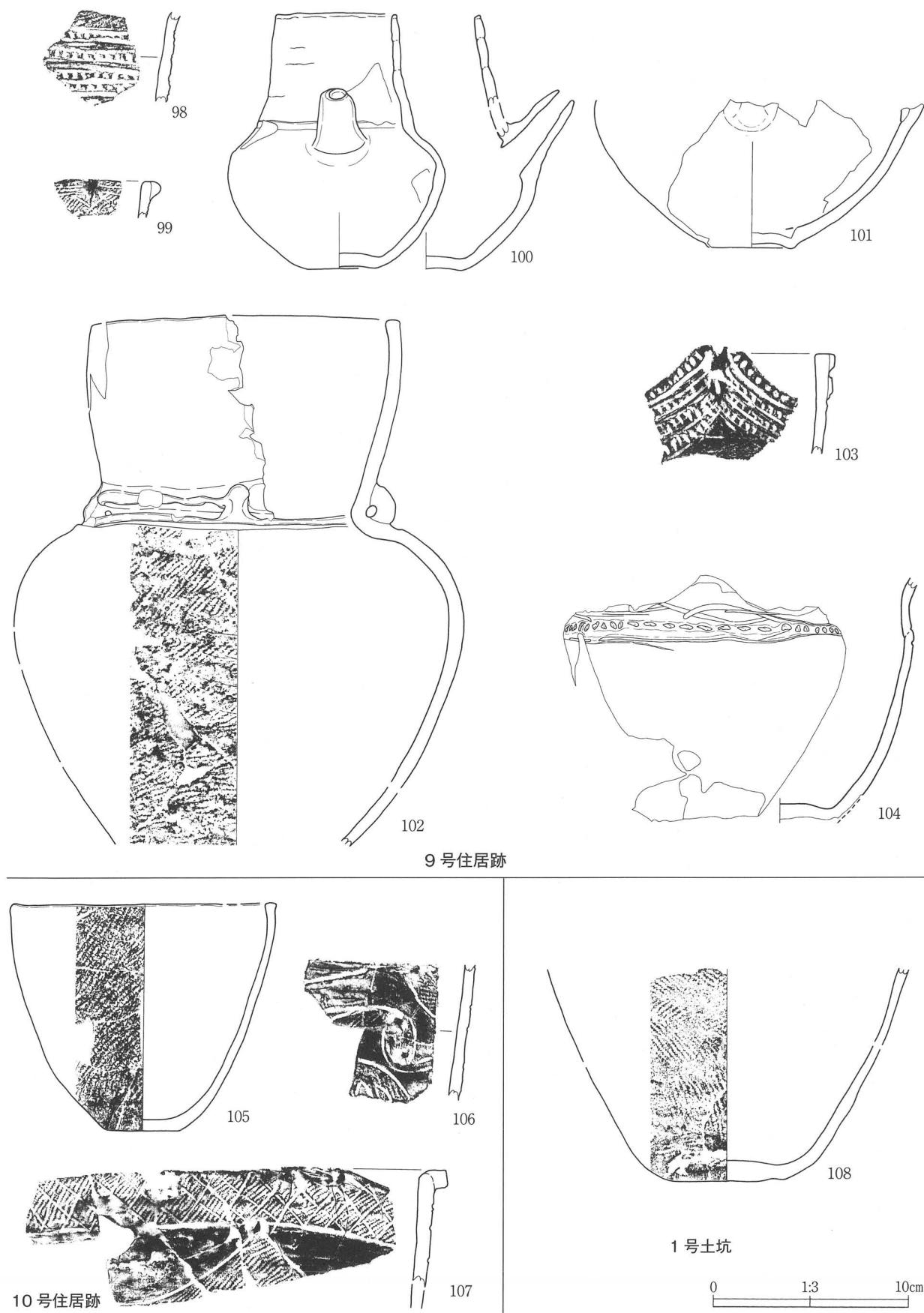
第35図 遺構内出土土器（8）



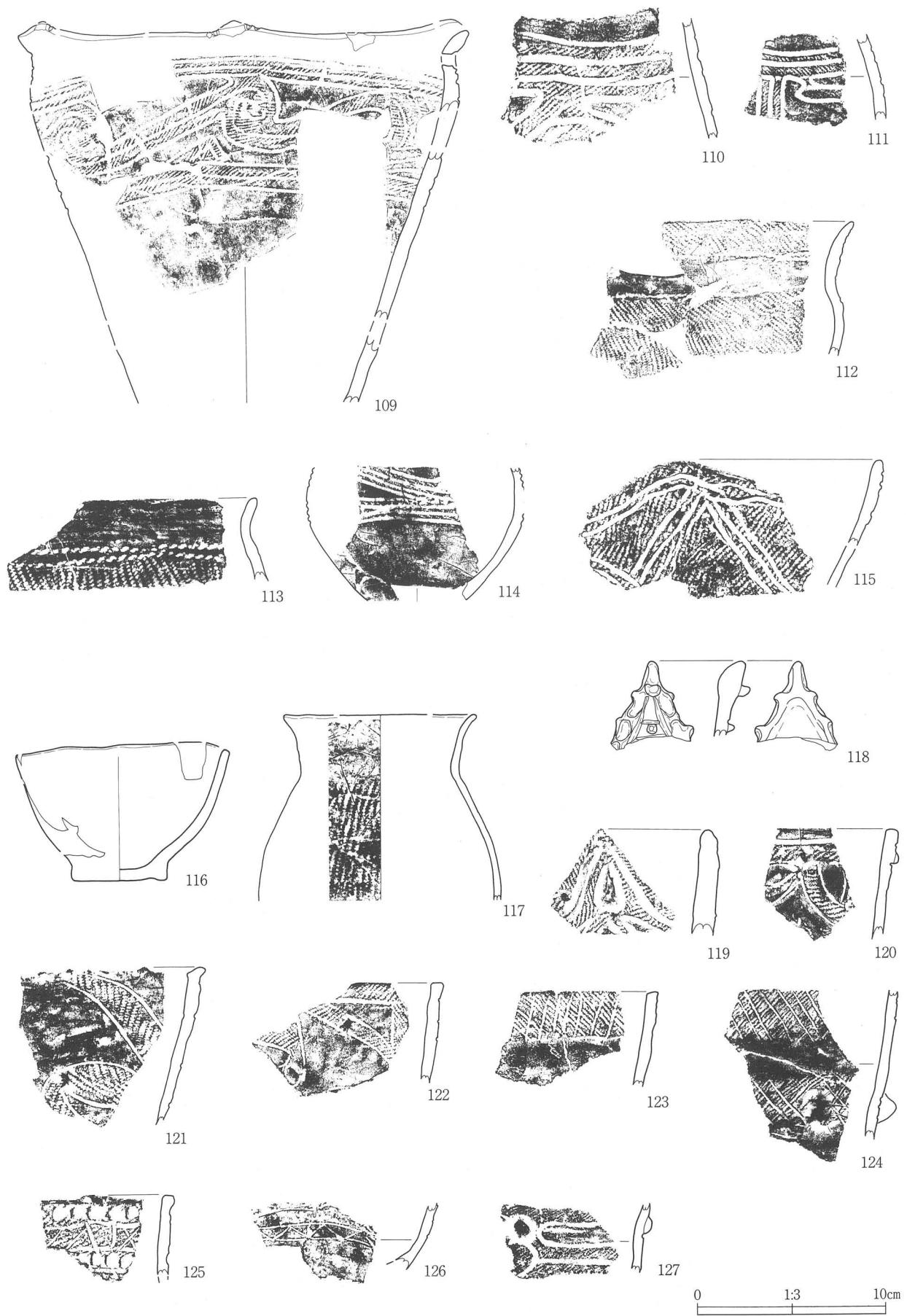
第36図 遺構内出土土器（9）



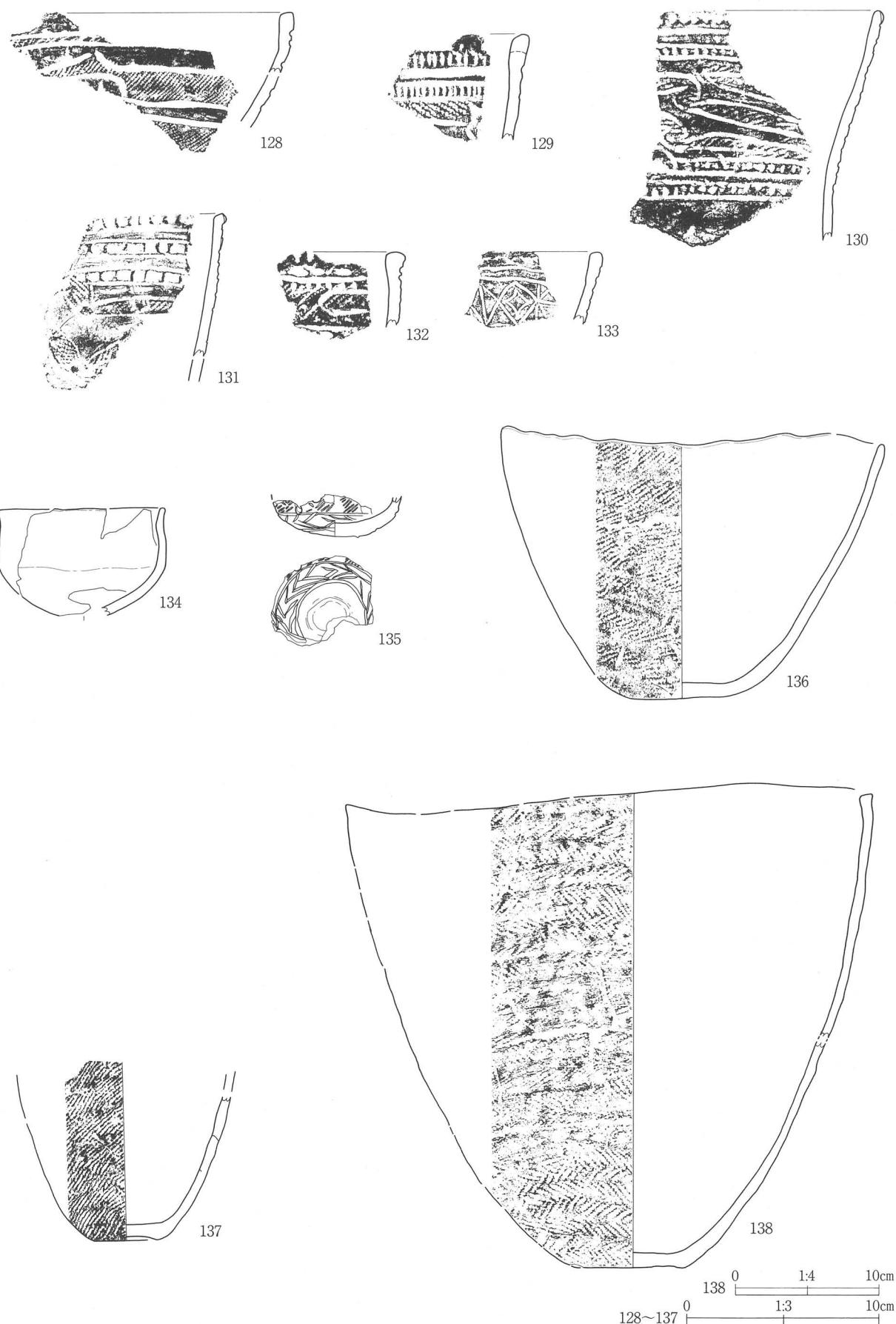
第37図 遺構内出土土器 (10)



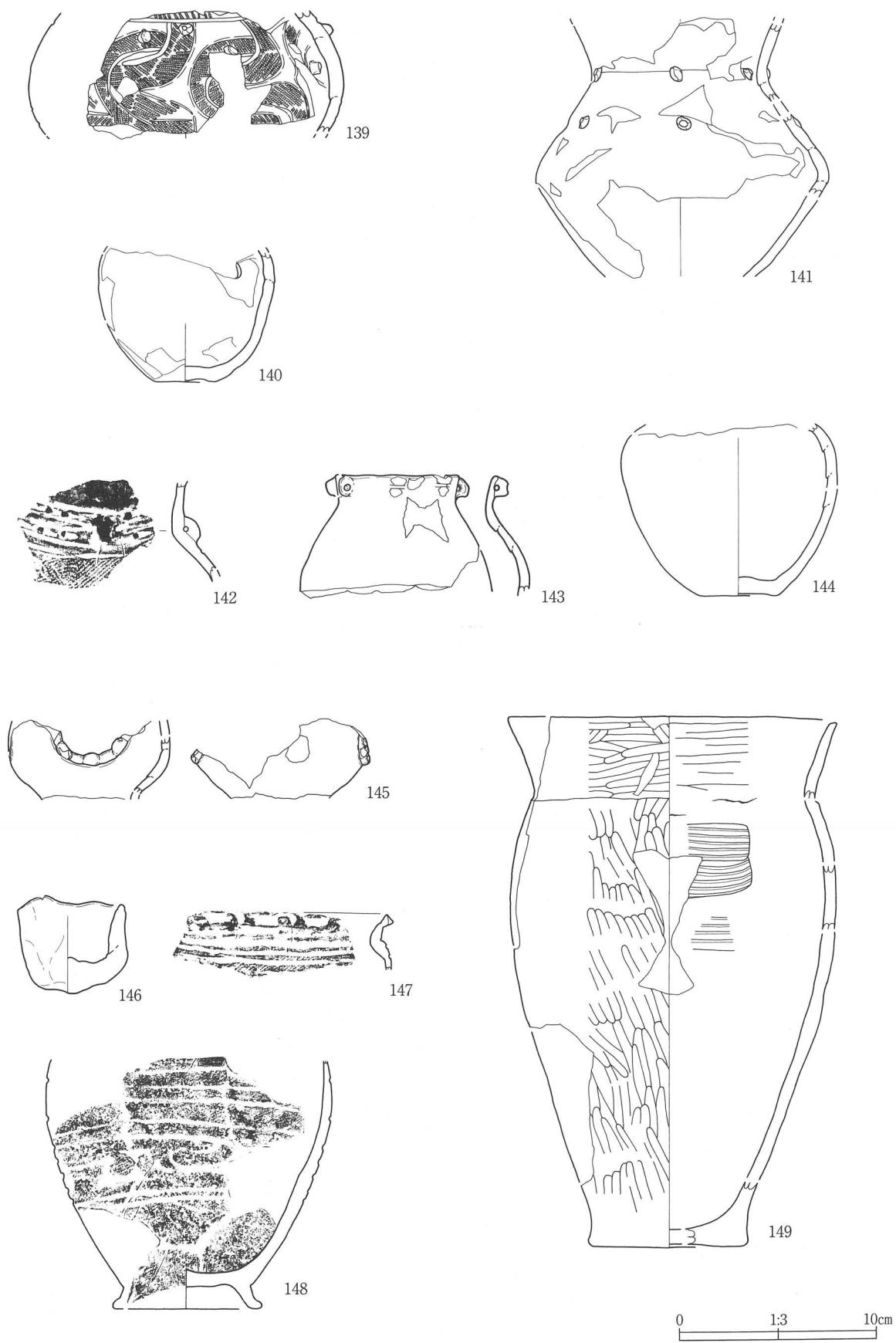
第38図 遺構内出土土器 (11)



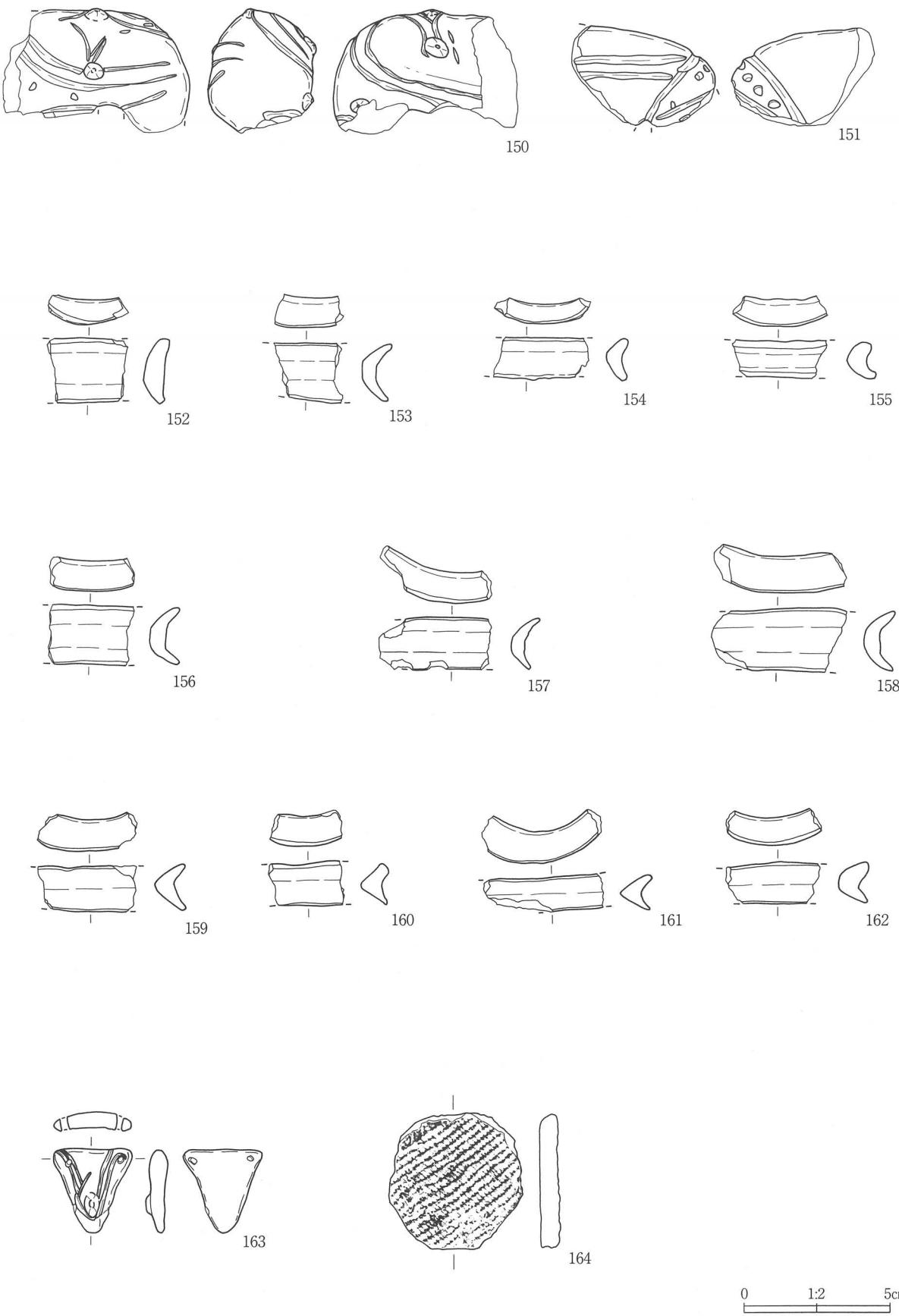
第39図 遺構外出土土器（1）



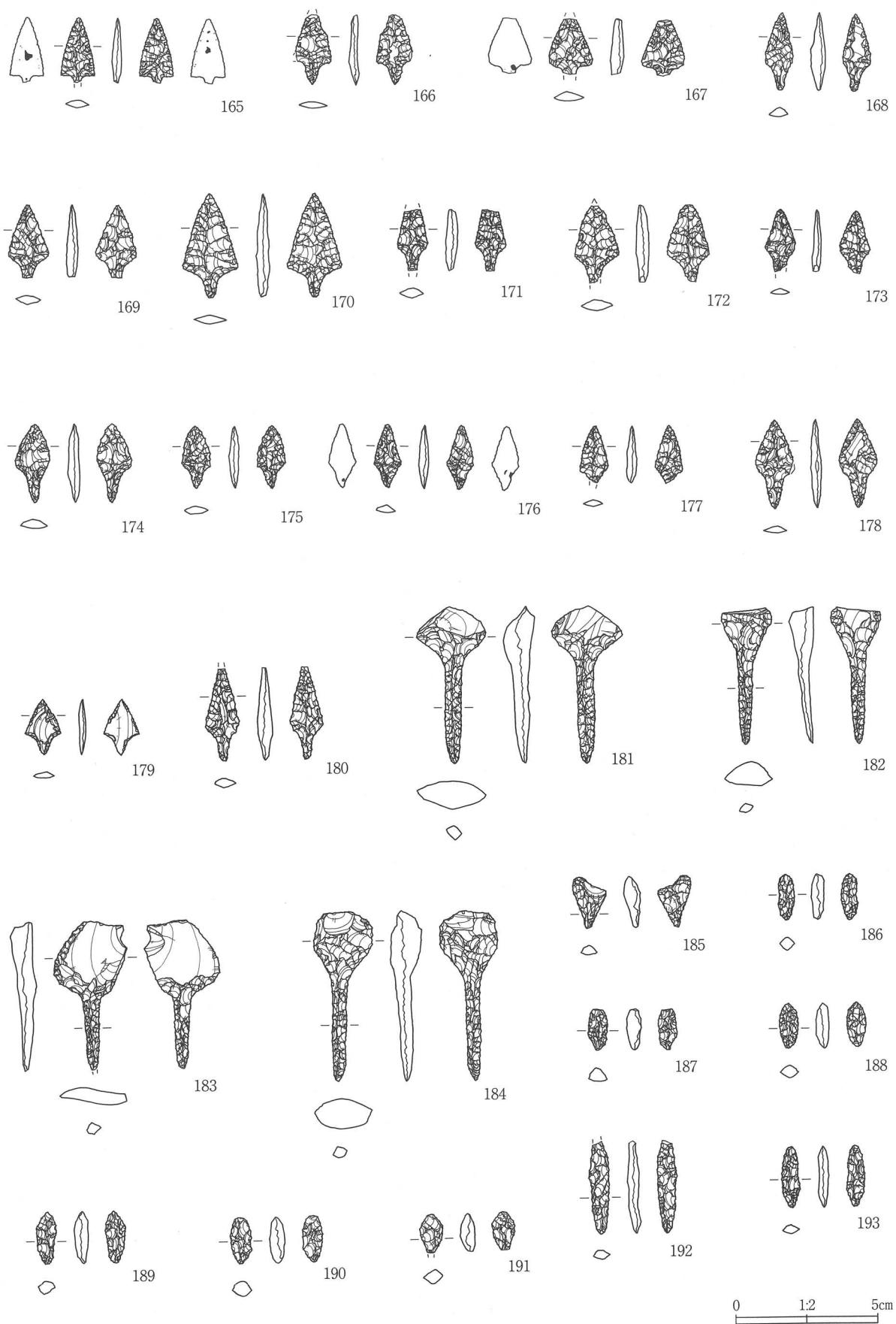
第40図 遺構外出土土器（2）



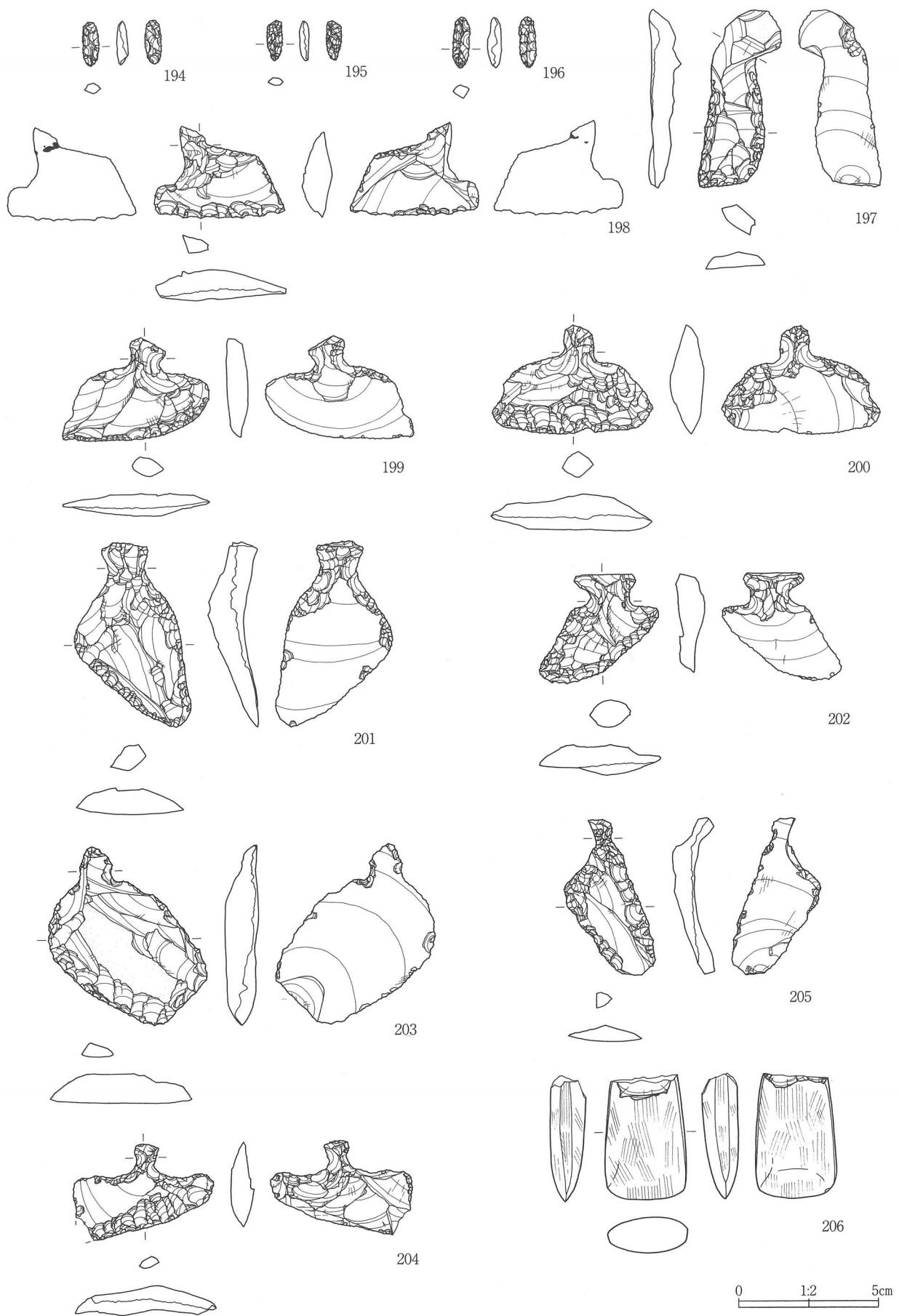
第 41 図 遺構外出土土器（3）



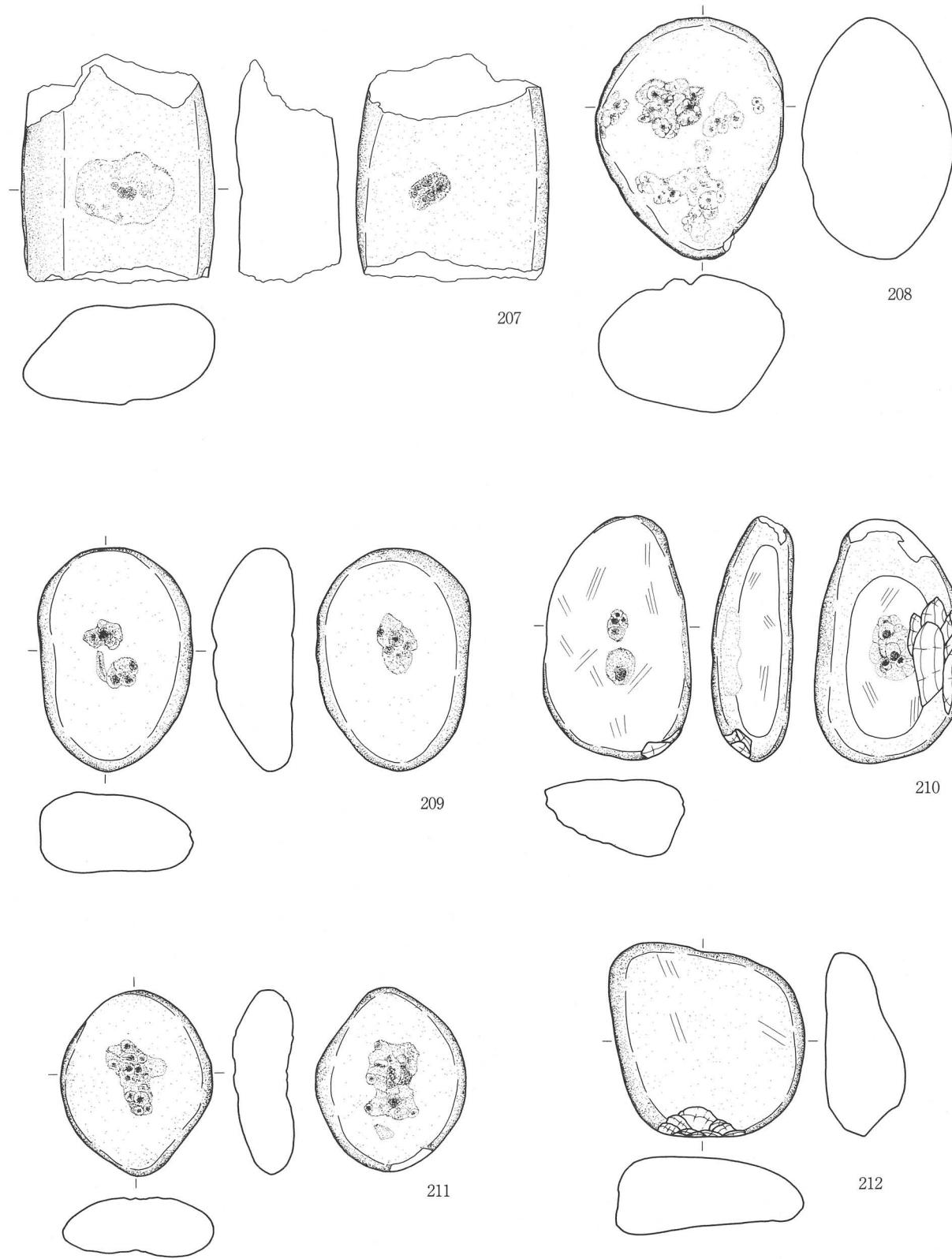
第42図 土製品



第43図 石器(1)

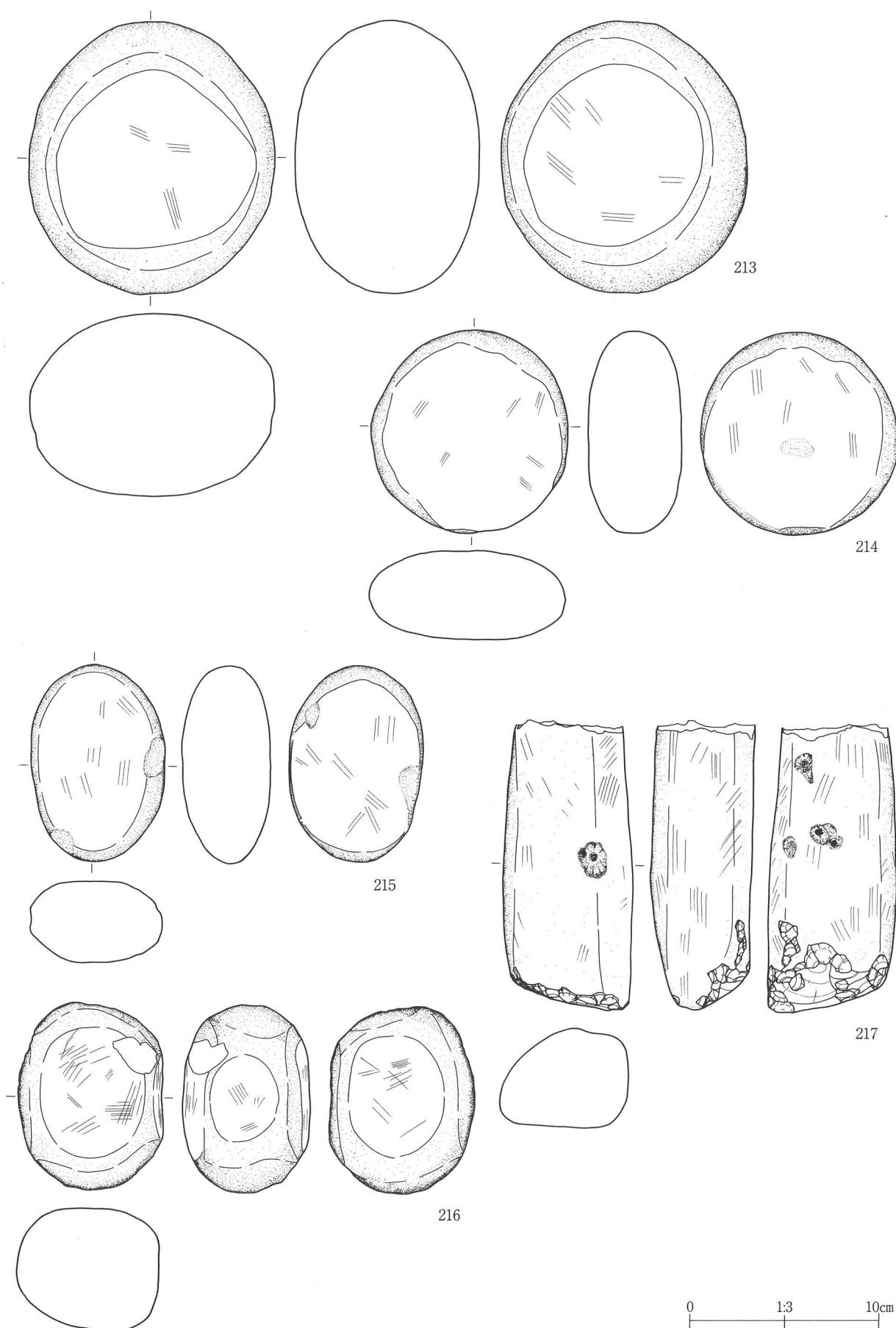


第44図 石器（2）

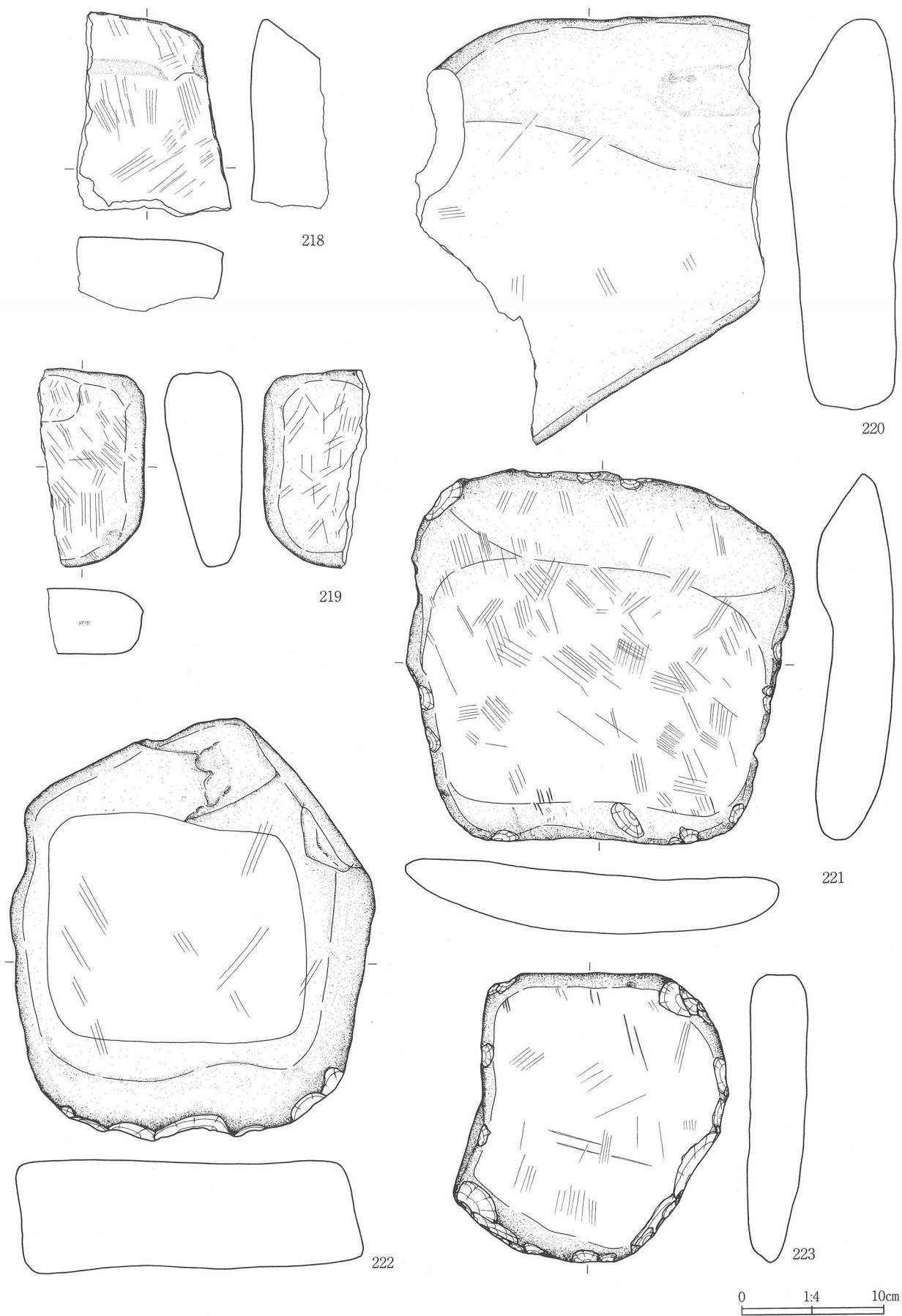


0 1:3 10cm

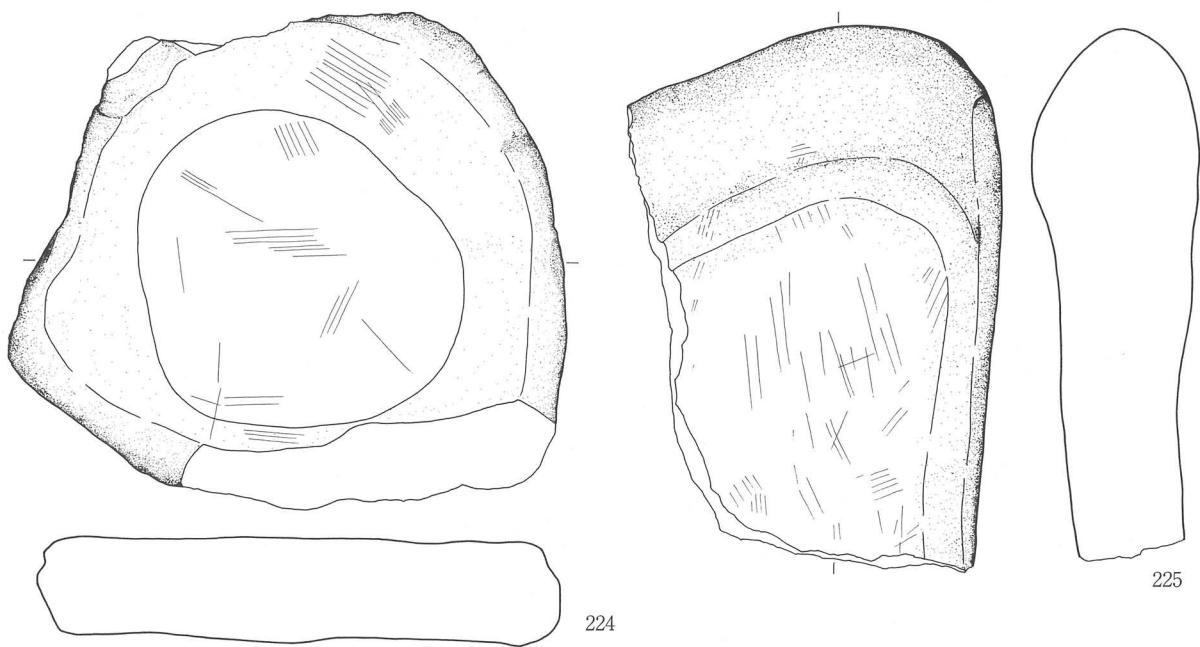
第45図 石器（3）



第46図 石器(4)

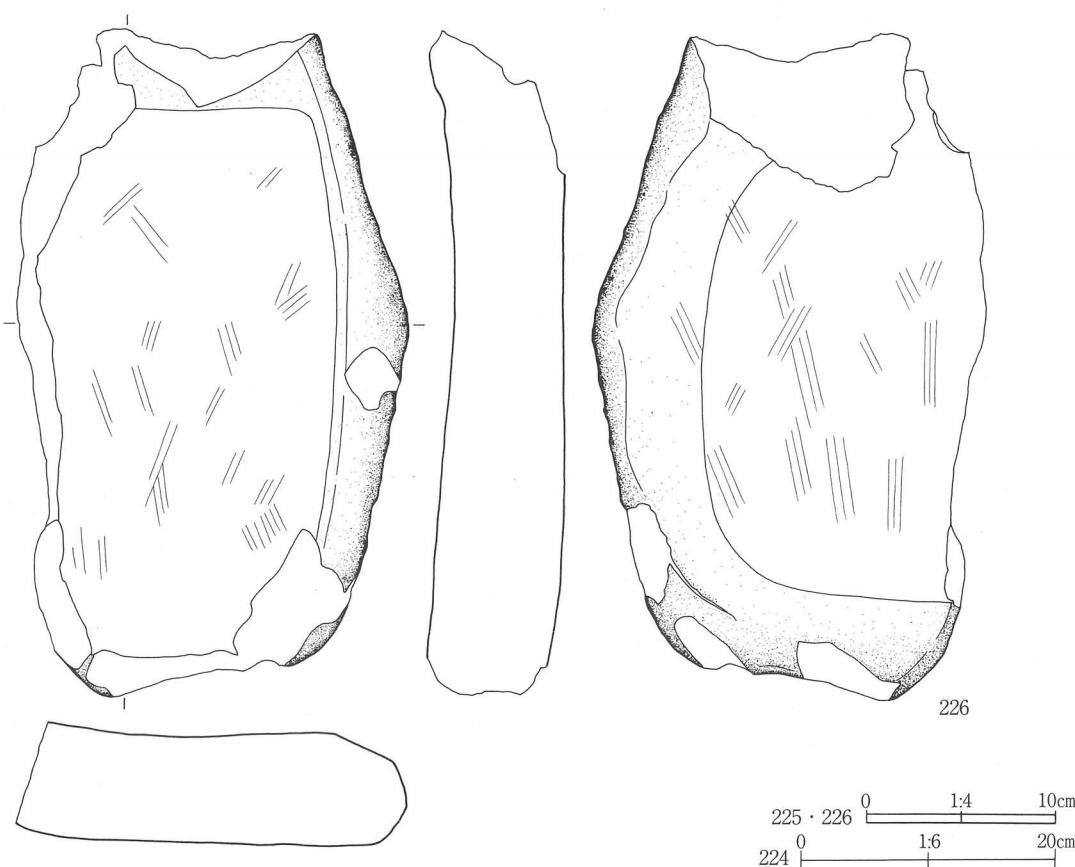


第47図 石器(5)

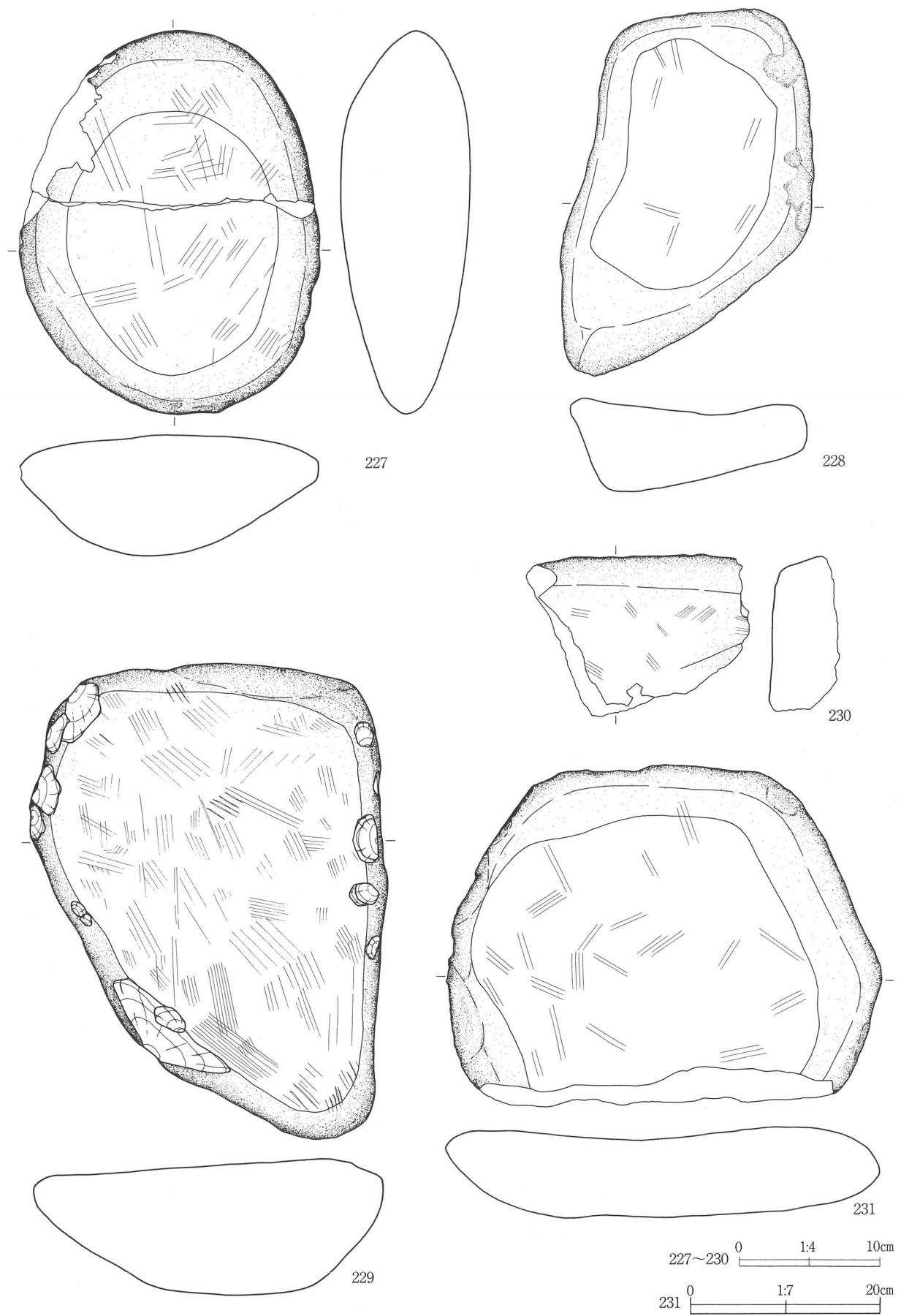


224

225



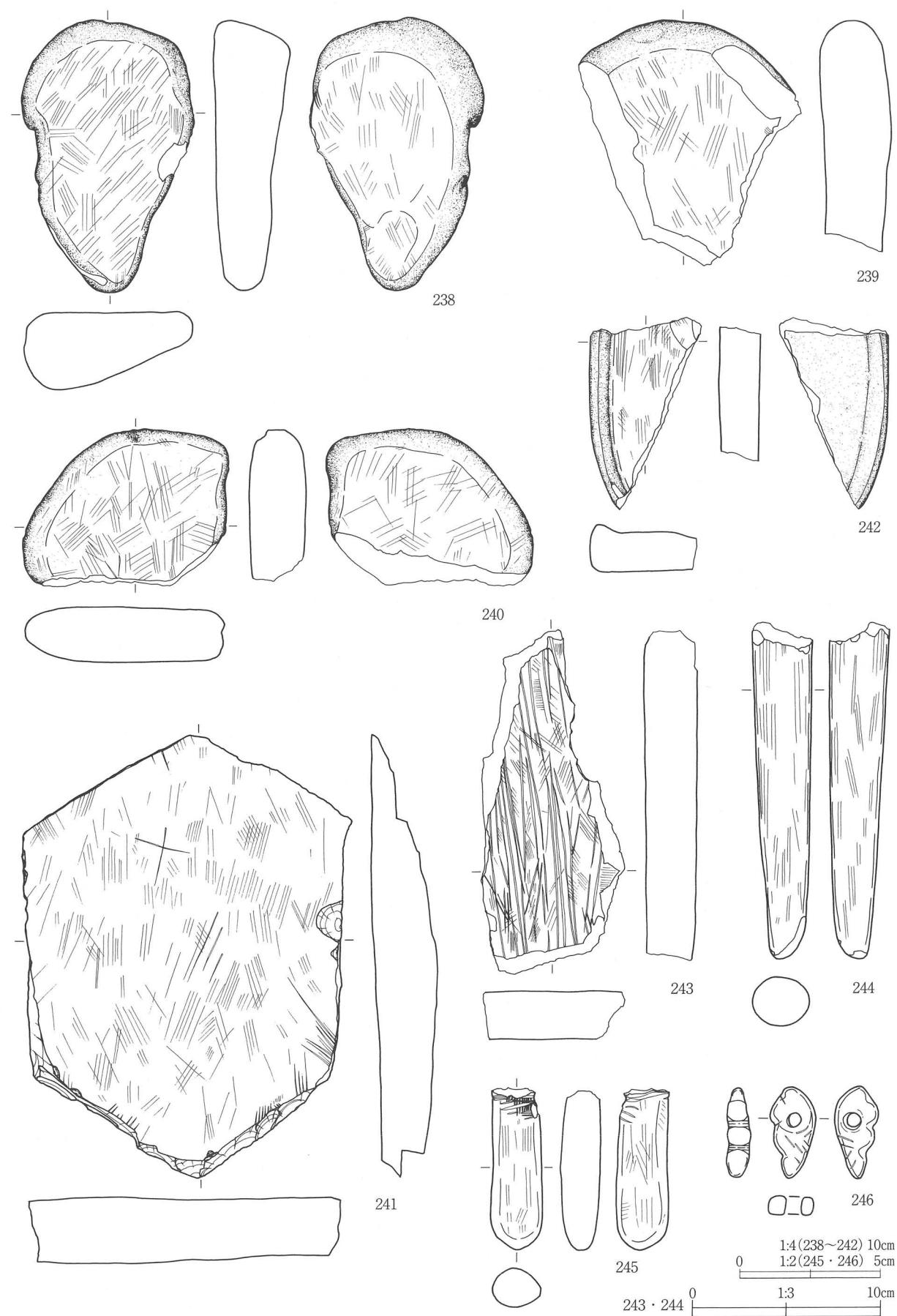
第48図 石器(6)



第49図 石器（7）



第50図 石器（8）



第 51 図 石器 (9)、石製品

第2表 土器観察表(1)

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面調整	縁付管	図版	写真
1	1号住	貼末	鉢	完形品	7.7	4.0	4.4	口縁部小波状、無文		ミガキ		28
2	1号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文	○	○		28
3	2号住	埋土上位	深鉢	胴～底部	—	8.0	(10.5)	RL繩文	○			28
4	2号住	埋土上位	台付鉢	口縁～合部	4.1	2.7	10.9	沈線区画による貼瘤繩文帯、LR繩文	ミガキ・粗			28
5	2号住	検出面	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文(格子目状)、LR繩文	ミガキ			28
6	2号住	検出面	深鉢	口縁～底部	(32.7)	7.0	38.1	RL・LR繩文	○	○		19
7	2号住	検出面～埋土	?	胴部	—	—	—	貼瘤、沈線文、RL繩文	ミガキ			28
8	3号住	床面	深鉢	口縁～胴部	(28.0)	—	—	LR・RL繩文	○	○		19
9	3号住	床面	深鉢	口縁～胴部	—	—	—	LR繩文	ミガキ・粗	○		28
10	3号住	床面	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文、連続刺突文	ミガキ			19
11	3号住	床面	注口	胴部	—	—	—	無文(ミガキ)	○	○		28
12	3号住	埋土下位	台付鉢	口縁部	24.3	—	—	無文(ミガキ)	ミガキ			19
13	3号住	埋土下位	深鉢	口縁～胴部上	(20.6)	—	(14.5)	貼瘤、沈線文、突起、LR繩文	○	○		19
14	3号住	検出面	壺	完形品	3.6	3.0	10.3	無文(ミガキ)	ミガキ			19
15	3号住	検出面	深鉢	口縁部	—	—	—	連続刺突文、沈線文	○	○		20
16	3号住	検出面	香炉形?	胴部	—	—	—	連続刺突文、貼瘤、沈線文、穿孔	○	○		20
17	3号住	埋土	深鉢	胴～底部	—	—	(8.8)	LR繩文	ミガキ			20
18	4号住	埋土3層	深鉢	口縁部	41.2	—	(24.5)	LR繩文	○	○		20
19	4号住	埋土上位	台付鉢	口縁～合部	(8.5)	(7.0)	8.3	貼瘤、沈線文、透かし(円形・三角形)				20
20	4号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文、RL繩文	○	○		20
21	4号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文、連続刺突文、LR繩文	ミガキ	○		20
22	4号住	埋土	香炉形	摘み部	—	—	—	沈線文、貼瘤、横位に穿孔あり	○	○		20
23	4号住	埋土	深鉢	口縁～体部	—	—	—	連続刺突文、貼瘤、沈線文、RL繩文	○	○		20
24	4号住	埋土	深鉢	胴～底部	—	6.4	(23.5)	LR繩文	○	○		20
25	5号住	床面	深鉢	胴～底部	—	5.6	(5.5)	無文(ミガキ)	ミガキ	○		20
26	5号住	貼末	注口	胴部	—	—	—	ミガキ、貼瘤(縫位に穿孔あり)	○	○		20
27	5号住-PPI	埋土	鉢	口縁部	(13.5)	—	(6.0)	貼瘤、沈線文、RL繩文	ミガキ	○		20

* () の口径・底径は推定値、器高は残存値。

第2表 土器観察表(2)

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面(文様・装飾・地文・原本など)		内面調整	焼付着 外面 内面	備考	図版
								波状口縁、貼唇、沈線文、LR繩文	(24.8) LR繩文				
28	5号住	埋土2層	深鉢	口縁部	—	—	—	波状口縁、貼唇、沈線文、LR繩文	ミガキ・粗	○ ○		30 21	
29	5号住	埋土2層	深鉢	口縁～体部	35.8	—	(24.8)	LR繩文	ナデ	○		30 21	
30	5号住	埋土1・2層	深鉢	口縁～底部	26.6	6.4	28.1	沈線文、貼唇、LR繩文	ミガキ	○ ○		30 21	
31	5号住	埋土1層	深鉢	口縁部	—	—	—	波状口縁、貼唇、沈線文	ミガキ	○ ○		30 21	
32	5号住	埋土上位	壺	完形品	2.7	4.1	10.9	貼唇、沈線文	ミガキ	○ ○		31 21	
33	5号住	埋土上位	深鉢	口縁～胴部	(32.0)	—	(21.8)	LR繩文	ミガキ	○ ○		31 21	
34	5号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼唇、沈線文、RL繩文	ミガキ	○ ○		31 21	
35	5号住	埋土	注口	胴部	—	—	—	無文、貼唇(縦位に穿孔あり)	ミガキ	○ ○		31 21	
36	5号住	検出面	注口?	胴部	—	—	—	貼唇、沈線文、刺突文、円形の貼瘤(縦位に穿孔あり)	ミガキ	○ ○		31 21	
37	6号住	床面	深鉢	口縁部	—	—	—	LR繩文、沈線文、瘤?	ミガキ	○ ○		31 21	
38	6号住	床面	深鉢	口縁部	—	—	—	突起、沈線文、LR繩文	ミガキ	○ ○		31 21	
39	6号住	床面	壺	口縁～胴部	—	—	—	沈線文、LR繩文?、頸部に橋状把手(縦)	ミガキ	赤色顔料付着		31 21	
40	6号住	床面	深鉢	口縁部	—	—	—	突起、沈線文、連續刻目文、RL繩文	ミガキ	○ ○		31 21	
41	6号住	床面	深鉢	口縁～胴部	(30.0)	—	(23.7)	RL・LR繩文	ナデ	○ ○		31 21	
42	6号住	貼床	深鉢	口縁～胴部	14.4	—	(12.2)	貼瘤、沈線文、LR繩文	ミガキ	○ ○		31 22	
43	6号住	埋土	注口	胴～底部	—	3.0	(12.7)	無文(ミガキ)	ナデ・粗			32 22	
44	6号住	埋土	鉢	鉢	(5.6)	(3.4)	2.8	突起、無文(ミガキ)	ナデ		ミニチュア	32 22	
45	7号住	床面	皿	口縁～底部	(11.5)	8.0	2.4	無文(ミガキ)、沈線文?	ミガキ			32 22	
46	7号住	床面	深鉢	口縁～底部	(15.0)	5.0	14.9	突起、貼唇、沈線文、LR繩文	ミガキ			32 22	
47	7号住	床面	注口	胴部	—	—	—	無文(ミガキ)	ミガキ			32 22	
48	7号住	床面	注口	胴～底部	—	3.2	(11.0)	無文(ミガキ)	ミガキ	○ ○		32 22	
49	7号住	床面	深鉢	口縁～底部	21.7	5.0	23.9	貼唇、沈線文(格子目状)	ミガキ	○ ○		32 22	
50	7号住	床面	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文間に貼瘤・LR繩文	ミガキ	○ ○		32 22	
51	7号住	埋土2層	深鉢	口縁～胴部	(27.0)	—	(25.0)	RL繩文	ミガキ	○ ○		32 22	
52	7号住	埋土	深鉢?	口縁部	—	—	—	沈線文、LR繩文	ミガキ・粗	ミガキ		33 23	
53	7号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼唇、沈線文、LR繩文	ミガキ	○ ○		33 23	
54	7号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文(細)	ミガキ	○ ○		33 23	

*() の口径・底径は推定値、器高は残存値。

第2表 土器観察表 (3)

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面(文様・装飾・地文・原体など)		内面調整	煤付着 外面 内面	備考	図版	写図
								ミガキ	ミガキ					
55	7号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文、貼繪、LR繩文	貼繪(縫隙に穿孔あり)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	33	23
56	7号住	埋土	台付鉢	口縁~台部	10.3	(6.2)	7.9	—	—	ミガキ	ミガキ	ミガキ	33	23
57	7号住、1号溝	埋土	深鉢	口縁~底部	(26.8)	6.7	(26.7)	RL繩文	—	○	○	○	33	23
58	8号住	床面	鉢	口縁~底部	(7.0)	3.4	6.2	口縁突起	—	—	—	—	33	23
59	8号住-炉	灰喰出面	深鉢	口縁~底部	22.2	5.2	18.9	貼繪、沈線文(格子目状)、LR繩文	—	○	○	○	33	23
60	8号住	埋土2層	深鉢	口縁~胴部	—	—	—	RL繩文	—	—	—	—	33	23
61	8号住	埋土2層	壺	完形	6.0	4.0	11.5	無文(ミガキ)	—	—	—	—	33	23
62	8号住	埋土下位	壺	胴~底部	—	—	3.8	(10.9)無文	—	—	—	—	34	23
63	8号住	埋土下位	香炉形	胴~底部	—	—	4.2	(9.5)沈線文、2~3段の連続する刺突列、貼繪、透かし	—	—	—	—	33	23
64	8号住	埋土下位	深鉢	口縁~胴部	(26.4)	—	(19.9)貼繪、沈線文、RL繩文	—	—	○	○	○	34	23
65	8号住	埋土下位	深鉢	口縁~底部	(37.5)	8.0	37.5	RL繩文	—	○	○	○	34	24
66	8号住	埋土下位	深鉢	胴~底部	—	5.8	(14.3)RL繩文	—	—	○	○	○	34	24
67	8号住	埋土1層	深鉢	口縁~胴部	(25.0)	—	(16.0)LR・RL繩文	—	—	○	○	○	34	23
68	8号住	埋土1層	深鉢	口縁~胴部	—	—	—	RL繩文	—	○	○	○	34	24
69	8号住	埋土1層	注口	口縁~底部	(12.8)	4.0	21.7	貼繪、沈線文、刺突文	—	—	—	—	34	24
70	8号住	埋土上位	深鉢	胴~底部	—	—	3.6	(9.1)貼繪(縫長)	—	—	—	—	34	24
71	8号住	埋土上位	深鉢?	胴下半~底部	—	(3.8)	(8.2)無文(ミガキ・粗)	—	—	○	○	○	35	24
72	8号住	埋土上位	壺	胴部	—	—	—	RL・LR繩文	—	—	—	—	35	24
73	8号住	埋土	壺	口縁~底部	14.5	6.0	31.8	LR・RL繩文	—	—	—	—	35	25
74	8号住	埋土	壺?	口縁部	20.8	—	(8.4)無文	—	—	—	—	—	35	25
75	8号住	埋土	台付鉢	口縁~胴下半	(9.1)	—	(9.0)貼繪、沈線文、LR繩文	—	—	○	○	○	35	25
76	8号住	埋土	深鉢	口縁~胴部	(34.2)	—	(27.8)RL繩文	—	—	—	—	—	35	25
77	8号住	埋土	深鉢	口縁~胴部	—	—	—	LR・RL繩文	—	—	—	—	36	25
78	8号住	埋土	器種不明	胴~注口?	—	—	—	貼繪、沈線文	—	—	—	—	36	25
79	8号住	埋土	注口	口縁~頸部	—	—	—	貼繪、沈線文、RL繩文	—	—	—	—	36	25
80	8号住	埋土	深鉢	口縁~胴部	—	—	—	貼繪、沈線文、LR繩文	—	—	—	—	36	25

*() の口径・底径は推定値、器高は残存値。

第2表 土器観察表(4)

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面調整	焼付着	備考	図版	写図	
										外面	内面			
81	8号住	埋土	香炉形 深鉢	摘み~胴部 口縁部	—	—	—	沈線文、LR繩文、透かし、穿孔				36	25	
82	8号住	埋土	深鉢	—	—	—	—	貼瘤、沈線文、LR繩文	ナデ*			36	25	
83	8号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文、LR繩文	ミガキ			36	26	
84	8号住	埋土	深鉢?	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文	ナデ*			36	26	
85	8号住	埋土	深鉢?	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文	ミガキ	○	○	36	26	
86	8号住	検出	注口?	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文	ナデ*			36	26	
87	8号住	検出面	注口	口縁~底部	—	40	—	貼瘤、沈線文、RL繩文				36	26	
88	8号住	検出面	皿(脚付)	底~脚部	—	—	—	脚3箇所(1箇所欠け)				36	26	
89	8号住	埋土	鉢	完形品	3.8	2.2	2.1	無文	ナデ*			ミニチュア	36	26
90	8号住	埋土	台付鉢	胴~台部	—	(2.2)	(2.3)	無文	ナデ*			ミニチュア	36	26
91	8号住	埋土	皿	口縁~底部	11.2	—	22.0	貼瘤、沈線文、LR繩文	ナデ*			ミニチュア	36	26
92	II B10 r (8号住周辺)	IV層下位	注口	香炉	—	6.3	(8.7)	貼瘤、沈線文、刺突文、円形の透かし				赤色顔料付着	37	26
93	II B10 r (〃)	IV層下位	深鉢	口縁~底部	34.4	—	36.0	LR繩文	ナデ*	○			37	26
94	II B10 r (〃)	IV層下位	深鉢	胴~底部	—	4.6	(9.4)	RL・LR繩文	ナデ*	○			37	26
95	II B10 r (〃)	IV層下位	深鉢	口縁~底部	27.1	4.6	24.2	RL繩文	ミガキ	○	○		37	26
96	II B10 r (〃)	IV層	深鉢	口縁~底部	30.7	5.2	28.5	LR繩文	ナデ*	○			37	27
97	II B10 r (〃)	IV層下位	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文、刺突文、RL繩文	ナデ*	○			38	27
98	9号住	床面	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文	ナデ*				38	27
99	9号住	貼床	深鉢	口縁部	—	—	—	—	ナデ*				38	27
100	9号住	貼床	注口	口縁~底部	6.3	3.7	13.6	頸~胴部間に沈線文					38	27
101	9号住	埋土1層	注口	胴~底部	—	4.4	—	無文(ミガキ)	ナデ*				38	27
102	9号住	埋土1層	壺	口縁~胴部	(16.1)	—	(28.1)	沈線文、LR繩文、橋状把手(縫立)	ナデ*	○			38	27
103	9号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文、刺突文、RL繩文	ミガキ	○			38	27
104	9号住	検出面	台付?鉢	胴~底部	—	—	(13.0)	沈線文、刺突文	ナデ*	○	○	合付?	38	27
105	10号住	床面	深鉢	口縁~底部	13.8	4.0	12.1	LR繩文	ミガキ 粗	○			38	27
106	10号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文、LR繩文	ミガキ				38	27
107	10号住	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼瘤、沈線文(格子目状)、LR繩文	ミガキ	○			38	27

*() の口径・底径は推定値、器高は残存値。

第2表 土器観察表(5)

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面(文様・装飾・地文・原体など)	内面調整	煤付着	備考	図版	写図
108	1号土坑	埋土1層	深鉢	胴下半～底部	—	6.0	(11.2)	RL繩文	○	○	○	○	38 27
109	II B20 d	V層・埋土	深鉢	口縁～胴部	(24.1)	—	(20.8)	波状口縁(6単位)、沈線文、無筋R	ミガキ	○	○	補修口2箇所あり	39 28
110	II B22 c	V層	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文、LR繩文	ミガキ	○	○	○	39 28
111	II B22 c	V層	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文、RL、LR繩文	ナデ	○	○	○	39 28
112	II B21 c	I層	深鉢	口縁部	—	—	—	RL繩文、原体压痕文	ミガキ	○	○	○	39 28
113	II B20 d	V層	深鉢	口縁～体部	—	—	—	RL繩文、原体压痕文	ミガキ	○	○	○	39 28
114	II B19 e～21 e	IV層・V層	鉢	胴部	—	—	—	沈線文、刺突文	ナデ	○	○	○	39 28
115	II B20 d	V層	深鉢	口縁～体部	—	—	—	沈線文、LR繩文	ミガキ	○	○	○	39 28
116	II B20 d	V層	台付鉢	口縁～合部	11.5	5.0	7.5	無文(ミガキ)	ミガキ	○	○	○	39 28
117	II B20 d	V層	壺	口縁～胴部	(10.3)	—	—	RL繩文	ミガキ	○	○	○	39 28
118	II B16 i	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	貼繪、沈線文	ミガキ	○	○	○	39 28
119	II B20 d	IV層	深鉢	口縁～胴部	—	—	—	貼繪、沈線文、LR繩文	ミガキ	○	○	○	39 28
120	II B10 q	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	貼繪、沈線文、RL繩文	ミガキ	○	○	○	39 28
121	II B10 q	IV層	深鉢	口縁～体部	—	—	—	貼繪、沈線文、RL繩文	ナデ	○	○	○	39 28
122	II B16 i	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	貼繪、沈線文、LR繩文	ミガキ	○	○	○	39 28
123	II B10 q	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文(格子目状)、RL繩文	ナデ	○	○	○	39 28
124	アリゾナ不明 (1号溝)	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	貼繪、沈線文(格子目状)	ミガキ	○	○	○	39 28
125	1号溝	埋土	深鉢	口縁部	—	—	—	刺突文、沈線文、LR繩文	ナデ	○	○	○	39 28
126	II B12 p	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文	ナデ	○	○	○	39 28
127	II B10 q	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	貼繪、沈線文、RL繩文	ミガキ	○	○	○	39 28
128	II B13 l	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	突起、沈線文、刻目文、RL繩文	ミガキ	○	○	○	40 28
129	II B10 p	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	突起、沈線文、刻目文、RL繩文	ナデ	○	○	○	40 28
130	II B10 q	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	貼繪、沈線文、刺突文	○	○	○	○	40 29
131	II B10 r	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	貼繪、沈線文、刺突文、LR繩文	ミガキ	○	○	○	40 29
132	II B10 q	IV層	深鉢	口縁部	—	—	—	突起、沈線文、刺突文	ナデ	○	○	○	40 29
133	表採		深鉢	口縁部	—	—	—	沈線文	○	○	○	○	40 29

*() の口径・底径は推定値、器高は残存値。

第2表 土器観察表(6)

No	出土地点	層位	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面(文様・装飾・地文・原本など)	内面調整	焼付着 外面 内面	備考	図版	写図
134	II B10 q	IV層	鉢	口縁～体部	(8.8)	—	(5.7)	無文	ナデ*			40	29
135	II B16 i	IV層		脣部	—	—	—	沈線文、LR繩文			台部あり?		40
136	II B15 j	IV層	深鉢	口縁～底部	(20.2)	5.5	14.6	小波状口縁、LR繩文	ナデ*	○ ○		40	29
137	II B10 q	IV層	深鉢	脣～底部	—	3.3	(9.0)	L無筋	ミガキ	○ ○		40	29
138	II B11 o	IV層	深鉢	口縁～底部	36.4	7.0	34.4	RL・LR繩文	ナデ*	○ ○		40	29
139	II B20 d	IV層・V層	注口?	脣部	—	—	—	貼瘤、沈線文、LR繩文				41	29
140	II B15 i	IV層	注口?	脣～底部	—	3.0	(6.9)	無文(ミガキ)	ナデ*			41	29
141	1号溝	埋土	注口 or 壺	口縁～脣部上	—	—	—	貼瘤	ナデ*			41	29
142	II B16 h	IV層	壺	口縁～脣部上	—	—	—	橋状把手(縫)、沈線文、刺突文、LR繩文	ミガキ	○ ○		41	29
143	II B10 g・ II B11 g	IV層	壺?	口縁～脣部上	(5.2)	—	(8.8)	無文、橋状把手(縫)			注口の可能性あり	41	29
144	II B14 l	IV層	壺	脣～底部	—	4.0	(8.8)	無文(ミガキ・粗)				41	30
145	II B10 q	IV層	香炉形	脣部	—	—	—	無文(ミガキ)、貼瘤(欠け†)	○			41	30
146	II B12 o	IV層	鉢	完形品	3.6	—	3.4	無文	ナデ*		ミニチュア、歪みあり	41	30
147	II B19 e	III層	鉢	口縁部	—	—	—	沈線文、RL繩文	ミガキ	○ ○		41	30
148	II B19 e	III層	台付鉢	口縁～台部	—	(7.6)	(12.8)	沈線文、RL繩文	ミガキ	○		41	30
149	II B2 u	攪乱	土師器・甕	口縁～底部	—	—	—	ナデ・ミガキ	ナデ*			41	30

* () の口径・底径は推定値、器高は残存値。

第3表 土製品観察表(1)

土偶

No	出土地点	層位	部位	文様	重量(g)	備考	図版	写図
150	2号住	埋土上位	左肩	沈線文、刺突文	90.29		42	30
151	II B10 q	IV層	左肩	貼瘤、沈線文、刺突文	34.94		42	30
垂れ飾り								
No	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	文様	図版 写図
163	II B20 d	V層	2.95	2.73	0.76	4.90	穿孔、沈線文、貼瘤	42 30
円盤形土製品								
No	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	文様	図版 写図
164	II B13 m	IV層	4.71	4.60	0.68	19.45	RL繩文、外縁打ち欠け	42 30

第3表 土製品観察表（2）
耳飾り

No	出土地点	層位	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	図版	写図
152	3号住	埋土	2.26	0.89	5.51		42	30
153	6号住	床面	2.06	1.01	3.02		42	30
154	6号住	床面	1.51	0.73	2.95		42	30
155	6号住	床面	1.29	1.0	3.62		42	30
156	6号住	埋土	2.09	1.06	4.59		42	30
157	6号住	埋土	1.80	1.0	3.75		42	30
158	6号住	埋土	2.22	1.07	6.85		42	30
159	II B11 q	IV層	1.58	1.03	4.0		42	30
160	II B13 l	IV層	1.60	0.93	3.24	内側に赤色顔料付着	42	30
161	II B16 j	IV層	1.20	1.09	4.10		42	30
162	II B17 i	IV層	1.47	1.05	4.53		42	30

第4表 石器観察表（1）

No	器種	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・产地・時代	備考	図版	写図	
165	石鎌	II B15 j	IV層	(2.29)	1.17	0.35	0.65	珪質頁岩 奥羽山脈 新生代第三紀	アスファルト付着	44	31	
166	石鎌	II B8 u	IV層	(2.47)	(1.26)	0.39	0.73	頁岩 奥羽山脈 新生代第三紀		44	31	
167	石鎌	II B16 i 1号溝	溝埋土	(1.97)	1.50	0.45	1.12	頁岩 奥羽山脈 新生代第三紀	アスファルト付着		44	31
168	石鎌	3号住	床面	2.73	0.98	0.56	1.0	珪質頁岩 奥羽山脈 新生代第三紀	先端部欠け	44	31	
169	石鎌	6号住	床面	2.59	1.42	0.45	1.01	頁岩 奥羽山脈 新生代第三紀		44	31	
170	石鎌	6号住	埋土	3.68	1.89	0.49	2.06	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
171	石鎌	6号住	埋土	(2.17)	1.08	0.44	0.83	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
172	石鎌	8号住	埋土	(2.73)	1.50	0.47	1.43	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
173	石鎌	8号住	埋土	(2.19)	1.06	0.33	0.51	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
174	石鎌	II B8 t	IV層	2.78	1.24	0.45	0.97	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
175	石鎌	II B11 o	IV層	2.21	0.97	0.37	0.64	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
176	石鎌	II B11 o	IV層	2.25	0.92	0.36	0.50	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期	アスファルト付着	44	31	
177	石鎌	II B11 p	IV層	(2.03)	0.96	0.39	0.57	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
178	石鎌	II B12 o	IV層	3.13	(1.33)	0.40	0.93	珪質頁岩 奥羽山脈 新生代第三紀		44	31	
179	石鎌	II B16 i 1号溝	溝埋土	1.98	1.27	0.28	0.43	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期	先端部欠け	44	31	
180	石鎌	II B19 g	I層	(3.25)	1.15	0.54	1.32	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	
181	石鎌	6号住	埋土	5.55	2.44	1.11	5.24	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44	31	

* () は残存値。

第4表 石器観察表(2)

No	器種	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・产地・時代	備考	図版・写図
182	石錐	II B10 q	IV層	4.85	1.76	0.90	3.39	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		43 31
183	石錐	II B15 i	IV層	(5.28)	2.56	0.90	5.08	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		43 31
184	石錐	II B19 g	IV層	6.05	2.08	1.12	6.43	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		43 31
185	石錐	II B16 i 1号溝	溝埋土	1.76	1.19	0.60	0.82	珪質頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
186	石錐	2号住	埋土上位	1.62	0.58	0.49	0.46	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
187	石錐	6号住	埋土	1.46	0.65	0.53	0.51	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
188	石錐	6号住	埋土	1.58	0.67	0.48	0.53	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
189	石錐	II B 9 r	IV層	1.84	0.74	0.52	0.63	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
190	石錐	II B 9 r	IV層	1.66	0.73	0.55	0.72	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
191	石錐	II B 9 r	IV層	(1.38)	0.81	0.54	0.55	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
192	石錐	II B10 q	IV層	(3.28)	0.70	0.47	0.88	珪質頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
193	石錐	II B11 q	IV層	2.16	0.63	0.39	0.52	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		43 31
194	石錐	II B12 o	IV層	1.62	0.59	0.45	0.42	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		44 31
195	石錐	II B12 o	IV層	1.44	0.56	0.35	0.30	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		44 31
196	石錐	II B12 o	IV層	1.85	0.60	0.54	0.59	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		44 31
197	石匙	II B11 q	カクラン	6.46	2.98	1.15	13.18	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		44 31
198	石匙	8号住	埋土	3.41	4.64	1.15	12.45	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44 31
199	石匙	8号住	埋土	3.78	5.29	0.81	11.98	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44 31
200	石匙	II B12 m 1号溝	溝埋土	3.97	5.73	1.34	22.41	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44 31
201	石匙	5号住	床面	6.73	4.20	1.79	25.62	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		44 32
202	石匙	8号住	埋土	3.97	4.29	1.13	11.76	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		44 32
203	石匙	II B 8 u	IV層	4.52	6.27	1.25	35.82	頁岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		44 32
204	石匙	II B10 q	IV層	(3.51)	(5.08)	1.07	10.12	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44 32
205	石匙	II B11 q	IV層	5.67	3.24	1.51	8.68	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44 32
206	磨製石斧	9号住	埋土	(4.59)	2.88	1.28	29.36	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		44 32
207	凹石	6号住	埋土	(11.4)	9.5	5.0	836.7	砂岩 新生代 新第三紀	先端部欠け	45 32
208	凹石	8号住	床面	12.2	9.2	7.4	934.4	安山岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		45 32
209	凹石	9号住	焼土	11.2	7.7	4.0	507.8	砂岩 新生代 新第三紀	先端部欠け	45 32
210	凹石	II B15 j	溝埋土	12.2	7.2	3.8	461.5	砂岩 新生代 新第三紀		45 32
211	凹石	II B16 i	IV層	9.3	7.4	2.9	270.6	砂岩 新生代 新第三紀		45 32
212	敲石	6号住・火	火葬成蹠 S2	9.8	9.7	3.95	532.4	砂岩 新生代 新第三紀		45 32
213	磨石	6号住	埋土	14.6	13.0	9.8	2200	花崗岩 北上山地 中生代白堊紀		46 33

* () は残存値。

第4表 石器観察表(3)

No	器種	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・产地・時代	備考	図版	写図
214	磨石	II B14K 1号溝	溝埋土	10.9	10.4	4.8	846.5	砂岩 新生代 新第三紀		46	33
215	磨石	II B16 i	III層	10.5	7.1	4.6	558.2	砂岩 新生代 新第三紀		46	33
216	磨石	II B18 g	1号溝	溝埋土	10.1	7.7	6.8	799.6 花崗岩 北上山地 中生代白亜紀	先端部欠け	46	33
217	敲石	II B15 i	IV層	(10.4)	4.5	3.6	281.0	砂岩 新生代 新第三紀		46	33
218	石皿	3号住・炉	構成縁1	(15.5)	(11.0)	(5.5)	* 130	砂岩 新生代 新第三紀		47	33
219	石皿	3号住・炉	構成縁2	(14.3)	(7.6)	5.5	906.2	砂岩 新生代 新第三紀		47	33
220	石皿	3号住	床面	31.3	(25.0)	7.8	* 78	砂岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		47	33
221	石皿	6号住	埋土下位	27.2	27.8	5.5	* 62	花崗閃綠岩 北上山地 中生代白亜紀		47	33
222	石皿	6号住	埋土下位	30.4	26.1	8.2	* 11.9	砂岩 新生代 新第三紀		47	34
223	石皿	6号住	埋土	21.0	19.8	4.2	* 2.8	砂岩 北上山地 古生代後期～中生代前期	裏表右側面に磨り痕	47	34
224	石皿	6号住	埋土	(40.8)	44.9	8.6	* 26.5	砂岩 新生代 新第三紀		48	34
225	石皿	6号住	埋土	(29.5)	(19.8)	9.1	* 8.0	砂岩 新生代 新第三紀		48	34
226	石皿	6号住	埋土	35.8	20.6	6.7	* 8.0	砂岩 新生代 新第三紀		48	34
227	石皿	6号住	埋土	27.9	21.4	9.2	* 6.1	砂岩 新生代 新第三紀		49	35
228	石皿	6号住	埋土	24.8	17.2	6.2	* 4.0	花崗閃綠岩 北上山地 中生代白亜紀		49	35
229	石皿	6号住	埋土	34.6	25.5	9.9	* 12.5	砂岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		49	35
230	石皿	6号住	埋土	(11.5)	(25.3)	4.8	* 1.1	砂岩 新生代 新第三紀		49	35
231	石皿	6号住	埋土	(43.5)	55.6	10.8	* 46.0	砂岩 新生代 新第三紀		49	35
232	石皿	8号住	埋土	(25.7)	(16.0)	8.6	* 5.0	砂岩 新生代 新第三紀		50	36
233	石皿	8号住	埋土	(10.9)	(12.0)	4.6	872.9	砂岩 新生代 新第三紀		50	36
234	石皿	1号炉	構成縁1	25.5	15.3	5.9	* 2.9	砂岩 新生代 新第三紀	磨り、敲き	50	36
235	石皿	1号炉	構成縁2	27.7	12.1	7.9	* 3.5	砂岩 北上山地 古生代後期～中生代前期	縁あり	50	36
236	石皿	1号土坑	埋土下位	(27.0)	(14.5)	7.6	* 3.5	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		50	36
237	石皿	1号土坑	埋土上位	19.6	12.8	5.6	* 3.5	砂岩 北上山地 古生代後期～中生代前期	両端欠け	50	36
238	石皿	II B9 t	IV層	19.9	12.4	5.3	1632.3	砂岩 新生代 新第三紀		51	36
239	石皿	II B11 o	V層	(7.8)	(15.7)	5.1	* 1.5	砂岩 新生代 新第三紀		51	36
240	石皿	II B11 p	IV層	(10.4)	14.8	4.0	963.7 安山岩 奥羽山脈 新生代新第三紀		51	37	
241	石皿	II B15 j	I層	32.2	23.6	4.75	* 4.9	粘板岩 北上山地 古生代後期～中生代前期	両面磨り痕あり	51	37
242	石皿	II B20 e	V層	(13.9)	(7.8)	3.4	350.5	砂岩 新生代 新第三紀	両面磨り痕あり	51	37
243	砥石	II B20 e	1号溝	溝埋土	(18.7)	(7.6)	2.8	576.2 チャート 北上山地 古生代後期～中生代前期		51	37

第5表 石製品観察表

No	器種	出土地点	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・产地・時代	備考	図版	写図
244	石棒	6号住	埋土下位	(18.2)	3.2	2.6	209.7	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		51	37
245	不明石製品	II B18 h	III層	(5.80)	1.87	1.42	24.17	頁岩 北上山地 古生代後期～中生代前期		51	37
246	垂れ飾り	8号住	埋土下位	3.33	1.61	0.96	6.78	ヒスイ？ 不明		51	37

* () は残存値。* の単位はkg。

V まとめ

1 調査区

調査区は主に遺跡の北東部、中央部、南西部で、幅5mの細長い箇所で、遺構は南西部の瀬月内川に平行した段丘縁部から集中して見つかっており、調査区北東部は湿地状の地形で遺構・遺物は見つかっていない。中央部の現在未舗装道路として使用されている部分についても北側半分は湿地状、南側については道路の下に排水溝があった。地山を掘りこんで作られた痕跡があり、このため遺構はなく、遺物が散布的に出土するのみである。

2 遺構

今回の調査で検出した遺構は、竪穴住居跡10棟、炉跡1基、土坑2基、溝跡1条である。時期は溝跡が古代、他は検出面と出土遺物から縄文時代後期後葉である。

(1) 竪穴住居跡

今回の調査で最も多く検出された遺構である。調査区が狭隘なことや調査方法の制約、遺構の重複などにより、遺構全体を調査できたものはなかった。重複関係にあるものは5号住居(古)→6号住居→1号住居(新)、4号住居(古)→1号住居(新)、2号土坑(古)→1号土坑(新)で他に古代の溝跡によって3・7・10号住居が切られている。埋土に火山灰の混入が確認できたものは2棟で1号住居の検出面からは十和田a降下火山灰(to-a)、6号住居埋土上位からは十和田b降下火山灰(to-b)が検出されている。住居内に炉が確認できたものは3・5・8・9号住居跡で形態はすべて石囲炉である。6号住居床面中央部からは石囲炉と同様の形態をした遺構が検出されているが、燃焼痕がないことや、周辺を含め土坑状の掘り込みになっていることから炉とは異なる性格の遺構と考えられる。また、住居内に土坑が確認できたのは5・7号住居である。

今回の調査では住居内から出土した土器は縄文時代後期後葉～末葉にかけての土器であり、出土数の多い深鉢形土器に装飾される文様の特徴から仮に口縁部端や頸部に貼瘤縄文帯を主体とする土器群を前半期、縄文帯に代わって刺突文、刻目文が主体に施される土器群を伴うものを後半期とした場合、2・5・7・8・10号住居が前半期、1・3・4・6・9号住居が後半期に属すると考えられる。

(2) 炉

II B 18 g グリッドで1基検出した。縄文時代の遺構では最も西側で標高の低い地点から見つかった。遺構は古代の溝に隣接しており、この影響で遺構を含む周辺一帯が湿地状に変色した状況であった。このため遺構の確認が遅れたが、炉のすぐ北側の調査区境壁面では竪穴状の掘り込みが確認できる（ただし、掘り下げ後に確認したためプラン全体は未確認である）ため、住居跡に伴う可能性が考えられる。

(3) 土坑

3号住居の東側、II B 12 o グリッドで2基検出し、重複関係にある。1号土坑の埋土上位からは土器片が多く出土した。土器以外の遺物は確認されていないが、用途は貯蔵穴と考えられる。

(4) 溝 跡

調査区南西部の段丘縁に沿って検出された。埋土上位には十和田a降下火山灰と思われる堆積物が確認された。遺構の南側壁面の立ち上がりは北側と比較して、緩やかな箇所もあり、そこを深掘りによる調査で確認したところ湿地状になっていることが確認された。また、溝周辺の土壤は水性堆積による植物の腐食などで変色した状態であった。遺構の埋土には縄文土器片や大きな礫などが含まれていたが、古代の遺物は見つからなかった。

3 遺 物

(1) 土 器

土器については3号住居7~10、6号住38~42、7号住居49~54などが床面から出土している。7号住居の床面出土土器については鉢・深鉢・注口土器・皿形土器など器種も多様である。住居床面以外の出土では8号住居とその周辺に一括廃棄された土器がある。住居内出土のものについては本来8号住居床面~埋土に含まれていたものを混同している可能性は否定できないが、第21図のような括りで遺物を取り上げたため、図中で同じ括りにある、または隣接するものについては少なくとも同時に一括廃棄されたものと考えられる。73・74・76、92~97は住居外および住居壁面を跨いで出土し、住居とははっきりと区別できる。また、地点の異なる65・66の破片が接合するので隣接して出土した64・70~72・77は一括性が高いと考えられる。

本遺跡の主体となる第II群土器は後期後葉~末葉の十腰内V式、風張式土器、瘤付土器第II段階~第IV段階相当を主体とする。当該期の土器が出土している遺跡では青森県三戸郡階上町滝端遺跡の第4号住居床面出土土器や岩手県九戸郡一戸町小井田IV遺跡の第II群5類土器、南東北では宮城県気仙沼市田柄貝塚の第V群および第VI群土器などがある。軽米町の遺跡では大日向II遺跡(第2~5次調査)第IV群4類および5類土器、長倉I遺跡第III群5類および6類土器、板子屋敷3遺跡7号住居・8号住居出土土器などで出土している。

(2) 土 製 品

土偶2点、耳飾り10点、垂れ飾り1点、円盤状土製品1点が出土した。いずれも住居埋土かその周辺から出土し、土偶と耳飾りは破片である。また、耳飾りの一部と垂れ飾りには赤色顔料の付着が確認された。

(3) 石 器

出土した石器は石鏃、石錐、石匙などの剥片石器と磨製石斧、磨石類、敲石、砥石、石皿の礫石器である。特に6号住居からは石皿の出土数が多い。使用された石材は剥片石器が頁岩、珪質頁岩で、礫石器では磨製石斧は頁岩、砥石はチャート、磨石類は砂岩、安山岩、石皿類は砂岩、花崗閃綠岩、安山岩、粘板岩などである。

(4) 石 製 品

石棒1点、垂れ飾り1点、用途不明石製品1点が出土した。石棒は先端部が欠けている。垂れ飾りはヒスイ産地分析によると既存の産地データとは化学組成が異なるため、原石産地を断定するには至らなかった(79~84頁参照)。

(5) 自然遺物

炭化した種実が2・5・8号住居内から検出された。分析鑑定結果から植物性食料の採集や食性の一端が明らかになった。遺跡からはこれらの調理に使用した石皿や磨石類が出土しており、植物性食料の採集・加工・調理が日常的に行われていたと考えられる。

4 総 括

今回の調査で駒板3遺跡が縄文時代後期後半を中心とする集落遺跡であることが判明した。また、他にも縄文時代晩期中葉の土器片や古代の土師器なども見つかっていることから複数の時期に跨って生活に利用されていた複合的な遺跡であることも明らかになった。ただし、駒板3遺跡の西側に隣接する中位段丘面には、まつっこ遺跡・駒板4遺跡などがあり、縄文時代後期以外の時代についてはそちらが集落の主体である可能性も考えられる。

引用・参考文献

- 岩手県埋蔵文化財センター 1983 『道地II・III遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第64集
岩手県埋蔵文化財センター 1983 『小井田IV遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第69集
岩手県埋蔵文化財センター 1984 『嶽II遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第78集
岩手県埋蔵文化財センター 1986 『駒板遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第98集
岩手県埋蔵文化財センター 1994 『大日向II遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第225集
岩手県埋蔵文化財センター 2000 『長倉I遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第336集
岩手県埋蔵文化財センター 2006 『上野場3遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第477集
岩手県埋蔵文化財センター 2008 『板子屋敷3遺跡』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第537集
階上町教育委員会 2000 『滝端遺跡発掘調査報告書』
小林圭一 1999 「東北地方 後期（瘤付土器）」『縄文時代』第10号 縄文時代文化研究会
小林圭一 2008 「瘤付土器」小林達雄 編 『総覧 縄文土器』刊行委員会
鈴木克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』雄山閣
鈴木克彦 2004 「硬玉研究序論」『玉文化』日本玉文化研究会

VI 分析・鑑定

駒板3遺跡における炭化種実同定

株式会社古環境研究所

1はじめに

植物の種子や果実は、比較的強靭なものが多く堆積物中に残存することが多い。そこで、堆積物から種実を検出し、その群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また、出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

ここでは、駒板3遺跡の縄文時代後期後半の住居跡より出土した炭化種実について同定を行い、当時の食料および植物利用について検討する。

2 試 料

試料は、5号住居の炉跡上面（No.1からNo.3）、2号住居（No.4）、8号住居（No.5）より出土した炭化種実である。時期は縄文時代後期後半である。

3 方 法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4 結 果

(1) 分類群

樹木2分類群が同定された。学名、和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記載する。

〔樹木〕

オニグルミ *Juglans ailanthifolia* Carr. 核（破片） クルミ科

茶褐色で円形～楕円形を呈し、一端がとがる。側面には縦に走る一本の縫合線がめぐる。表面全体に不規則な隆起がある。

クリ *Castanea crenata* S. et Z. 子葉（破片） ブナ科

子葉は黒褐色で広楕円形を呈し、下端に広い付き部がある。断面は楕円～半円形である。

(2) 種実群集の特徴

- ・ 5号住居の炉跡上面（No.1からNo.3）
オニグルミの破片、クリの破片が同定された。
- ・ 2号住居（No.4）
クリの破片が同定された。
- ・ 8号住居（No.5）
クリの破片が同定された。

5 所見とまとめ

駒板3遺跡において検出された縄文時代後期後半とされる住居跡より出土した炭化種実は、オニグルミ核、クリ子葉であった。いずれも種子が食用となる有用植物であり、堅く残りやすい核と子葉である。他の食用等の有用植物の植物遺存体は分解し、選択的に炭化したもののが保存されたとみられる。

参考文献

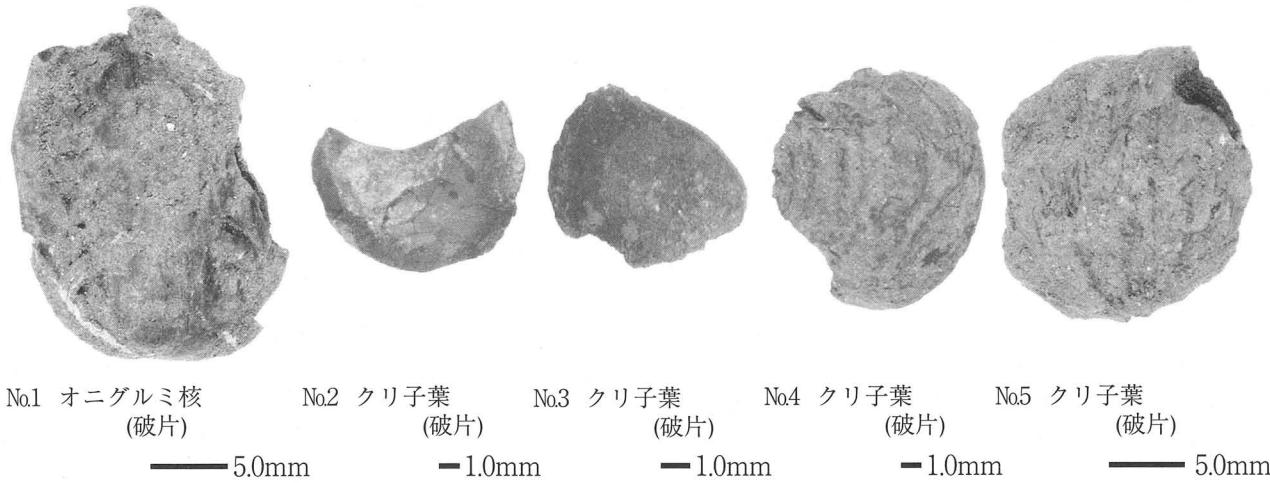
南木睦彦（1993）葉・果実・種子. 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p.276 – 283.

渡辺誠（1975）縄文時代の植物食. 雄山閣, 187p.

表1 駒板3遺跡における炭化種実同定結果

分類群 学名	和名	部位	No.1	No.2	No.3	No.4		No.5
			5号住居跡	2号住居跡埋土内		8号住居埋土		
Arbor	樹木							
Juglans ailanthifolia Carr	オニグルミ	核(破片)	1					
Castanea crenata S. et Z.	クリ	子葉(破片)		1	1	1		1
Total	合計		1	1	1	1		1

駒板3遺跡の炭化種実



駒板3遺跡出土のヒスイ石製品の原石产地同定分析

株式会社第四紀地質研究所

1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(FP法)による自動定量計算システムが採用されており、6C～92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料～最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保つて行った。

実験条件はバルクFP法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒(有効分析時間)である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は試料の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量%)でSiO₂-Al₂O₃, CaO-Na₂Oの2組の組み合わせで図を作成した。

2 分析試料

分析に供した試料は第1表化学分析表に示すように駒板3遺跡から出土したヒスイ製遺物1個で、分析は遺物の表面と裏面を行った。比較対比試料として、柏木川13遺跡から出土した石製品と薄片、産地同定用の試料として北海道埋蔵文化財センター所有のペンケユクトラシナイ沢で採取した原石、斜里町立知床博物館より提供していただいた日高ヒスイ、井上が糸魚川翡翠峡の周辺で採取したヒスイの原石である(北海道埋蔵文化財センター、2004)。

3 分析結果

3-1 SiO₂-Al₂O₃ の相関について

第1図 SiO₂-Al₂O₃ 図に示すように柏木川13遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠は SiO₂-Al₂O₃ の相関においておのおの異なる領域に集中する。しかし、ペンケユクトラシナイ沢の原石は全体に分散し、組成に類似性がない。柏木川13遺跡出土の石製品は SiO₂ が 52～60%、Al₂O₃ が 2～6% の領域、日高ヒスイは SiO₂ が 48～55%、Al₂O₃ が 0～0.1% の領域、糸魚川翡翠は SiO₂ が 98～100%、Al₂O₃ が 0～6% の領域におのおの集中する。

駒板3遺跡のヒスイはこれらの各原石と柏木川13遺跡の出土遺物の領域とは異なり、Al₂O₃ が 20% 以上の高い領域にあり、該当する原石はない。

3-2 CaO - Na₂O の相関について

第2図 CaO - Na₂O 図に示すように柏木川13遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠はおのおの異なる領域に集中する。しかし、ペンケユクトラシナイ沢の原石は全体に分散し、組成に類似性がない。柏木川13遺跡出土の石製品は CaO が 7～22%、日高ヒスイは CaO が 21～25%、糸魚川翡翠は CaO が 0～3% の領域におのおの集中する。

駒板3遺跡のヒスイはこれらの各原石と柏木川13遺跡の出土遺物の領域とは異なり、Na₂O が 13% 以上の高い領域にあり、該当する原石はない。

4 まとめ

- 1) 第1図～第2図に示すように、駒板3遺跡出土のヒスイ製遺物は柏木川13遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠などとは化学組成が異なり、現在の対比試料では原産地の判断は難しい。
- 2) 化学組成的に見て、対比試料とは異質であるが肉眼的な観察による岩相では糸魚川の翡翠に似ており、糸魚川の翡翠のうち良質の固いものは石英脈にヒスイ輝石の生成したもので、SiO₂ が 98～100% と高いが、一部には翡翠色をしたもので幾分材質的に異なる緑色岩があり、糸魚川の翡翠の分析したものの中に SiO₂ が 60% のものがあり、これらのものに近いのかもしれないが確証はない。



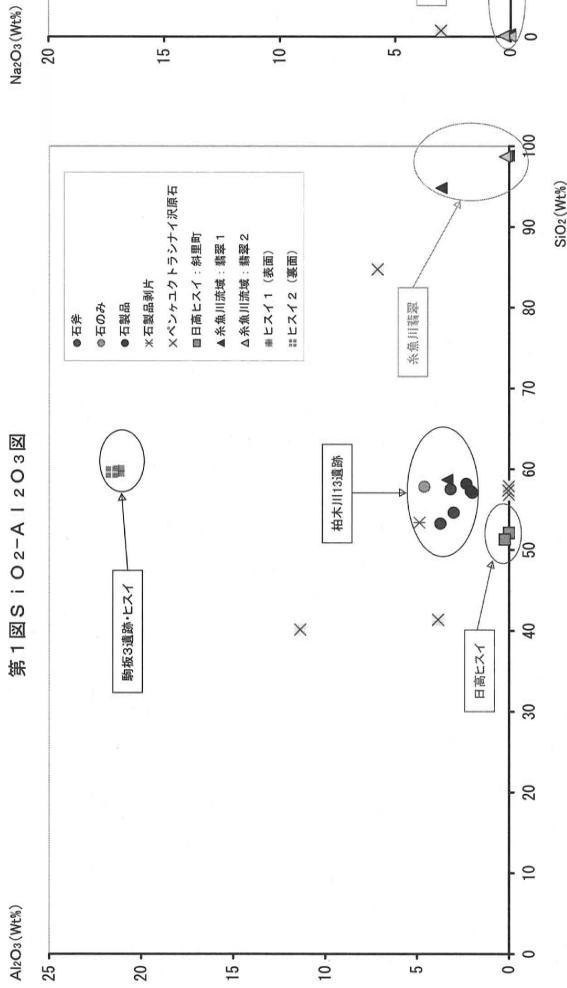
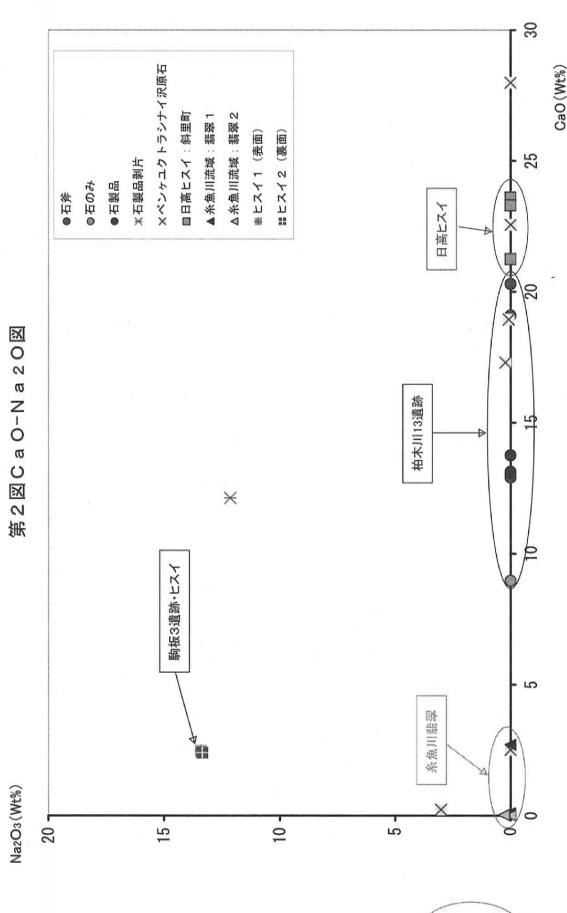
駒板3遺跡 ヒスイ製遺物—表面



駒板3遺跡 ヒスイ製遺物—裏面

引用文献

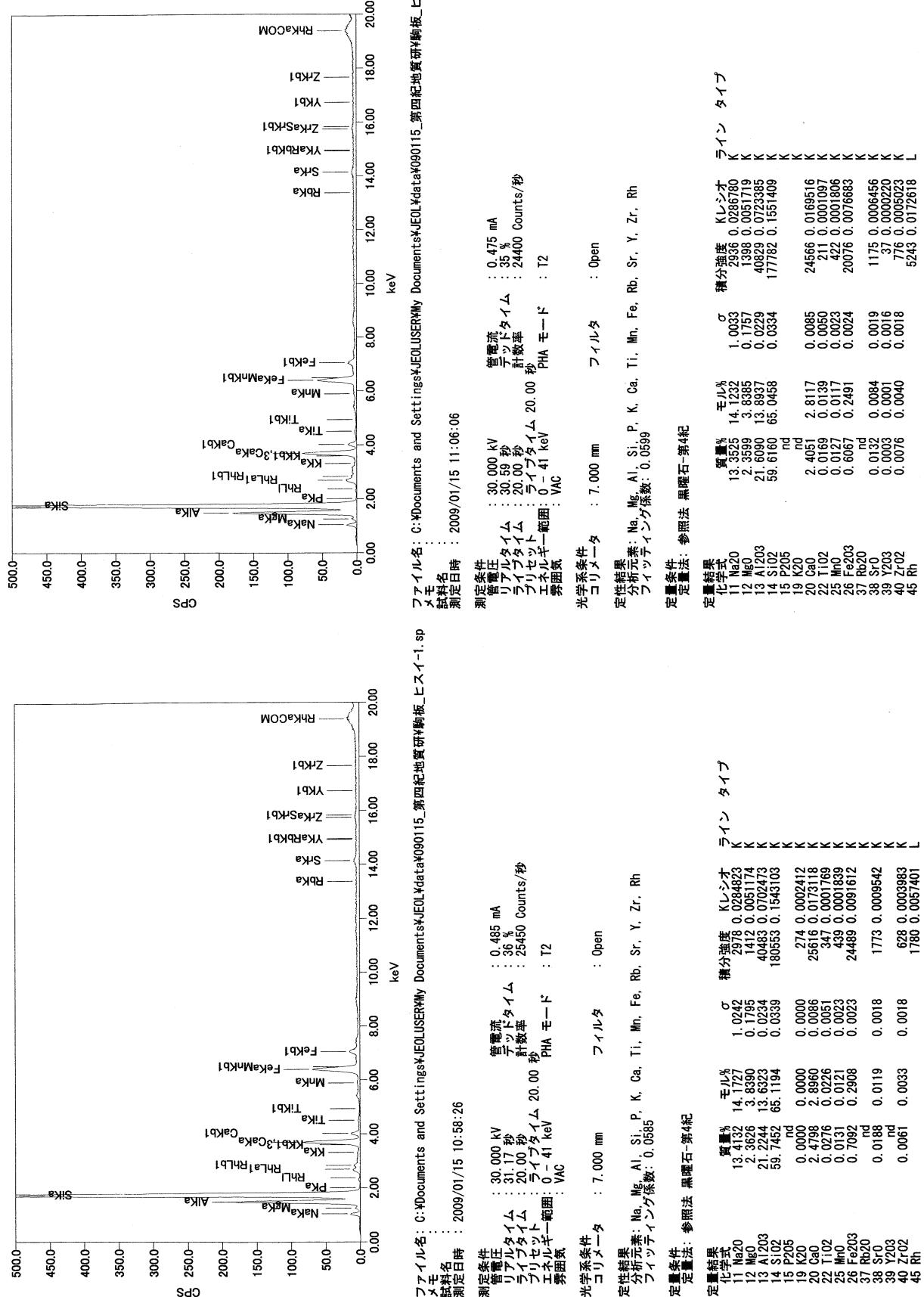
- 井上 巍 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の螢光X線分析 (XRF) 北越考古学、第11号、23-38/
- 井上 巍 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号 23-51.
- 上野修一・二宮修二・網干 守・大沢真澄 (1986) 石器時代の本県域における黒曜石の利用について、栃木県立博物館紀要、第3号、91-115.
- 勝井義雄・佐藤博明 (2000) 平凡社地学辞典、地学団体研究会、p 493.
- 周藤賢治・小山内康人 (2002) 共立出版、記載岩石学上、5-20.
- Suzuki,M.(1973)Chronology of Prehistoric Human Activity in Kanto, Japan Journal of the Faculty of Science, the University of Tokyo Sec. V Vol IV , Part 3, pp. 241-318,
- 白滝団体研究会 (1963) 白滝遺跡の研究、白滝団体研究会、9-10.
- 神保小虎 (1886) 黒曜石比較研究諸言、人類学会報告、第二号、24.
- 高橋 豊・西田史郎 (1986) 伊豆半島の縄文遺跡出土黒曜石の原石产地、考古学と自然科学、19、29-41.
- 手島秀一・河内晋平 (1994) 和田岬東方・鷹山火山岩類の地質と岩石、信州大学志賀自然教育研究施設研究業績、31、1-8.
- 堤 隆 (1998) 氷期の終末と細石刃文化の出現、科学、岩波書店、VOL68 NO.4 329-336.
- 東村武信・藁科哲男 (1982) 黒曜石製石器の産地推定—螢光X線による石器産地の推定、古文化財に関する保存科学と人文・自然科学、昭和56年度特定研究、141-163.
- (財)北海道埋蔵文化財センター (2004) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書、第203集、柏木川13遺跡
- 望月明彦・池谷信之・小林克次・武藤由里 (1994) 遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について—沼津市土手上遺跡B B V層、北海道立地下資源調査所、40.
- 渡辺 仁 (1948) 北海道の黒曜石、人類学雑誌、第60巻、第1号

第1図 $\text{SiO}_2-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{CaO}$ 図第2図 $\text{CaO}-\text{Na}_2\text{O}-\text{Al}_2\text{O}_3$ 図

第1表 化学分析表

試料名	Na ₂ O	MgO	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	K ₂ O	CaO	TiO ₂	MnO	Fe ₂ O ₃	R ₂ O	SrO	Y ₂ O ₃	ZrO ₂	Total	備考
柏-1・1	0.000	18.122	3.726	53.264	0.123	0.141	0.060	0.191	0.230	4.692	0.001	0.009	0.000	0.006	100.000	石斧
柏-1・2	0.000	16.683	3.007	54.619	0.139	0.272	0.290	0.049	0.056	53.849	0.000	0.002	0.000	0.006	100.000	石斧
柏-2・1	0.000	21.246	1.991	57.089	0.257	0.175	131.133	0.056	0.199	0.265	0.000	0.005	0.000	0.000	100.000	石斧
柏-2・2	0.000	20.684	3.172	57.518	0.068	0.137	129.16	0.051	0.157	0.384	0.000	0.003	0.000	0.001	100.000	石斧
柏-3	0.000	21.511	4.656	57.843	0.370	0.136	130.84	0.037	0.136	0.613	0.000	0.001	0.000	0.002	100.000	石のみ
柏-4	0.000	19.476	2.316	58.197	0.000	0.126	13.084	0.027	0.155	53.842	0.000	0.004	0.000	0.004	100.000	石製品
柏-5	0.000	20.190	2.080	57.296	0.437	0.128	13.760	0.042	0.216	4.211	0.004	0.005	0.000	0.001	100.000	石製品
柏-6・1	0.000	35.052	11.363	40.133	0.032	0.032	25.12	0.048	0.198	10.622	0.000	0.002	0.006	0.000	100.000	原石
柏-6・2	0.000	12.212	3.856	41.357	0.437	0.154	27.982	0.282	0.282	12.414	0.003	0.014	0.000	0.008	100.000	原石
柏-7	3.017	0.864	7.154	84.743	0.847	0.904	0.228	0.145	0.042	2.017	0.007	0.006	0.004	0.024	100.000	原石
柏-8・1	0.000	15.986	0.043	57.358	0.214	0.192	22.556	0.008	0.139	34.78	0.000	0.028	0.000	0.000	100.000	ベンケトトラシナ
柏-8・2	0.089	18.729	0.000	56.830	0.337	0.027	18.933	0.046	0.169	41.98	0.002	0.035	0.001	0.004	100.000	ベンケトトラシナ
柏-8・3	0.228	19.329	0.000	57.871	0.151	0.063	17.294	0.050	0.158	4.211	0.000	0.045	0.001	0.000	100.000	ベンケトトラシナ
柏-9	0.026	20.639	4.876	53.382	1.579	0.481	12.135	0.112	0.286	6.475	0.007	0.000	0.003	0.000	100.000	剥片
日高-1	0.000	19.650	0.000	52.085	0.434	0.192	23.544	0.000	0.099	33.866	0.001	0.010	0.000	0.000	100.000	原石
日高-2	0.000	20.348	0.000	52.086	0.672	0.181	23.662	0.000	0.103	29.98	0.001	0.008	0.000	0.000	100.000	原石
日高-3	0.000	19.913	0.000	52.159	0.574	0.207	23.935	0.000	0.088	37.39	0.002	0.009	0.005	0.005	100.000	翡翠
日高-4	0.000	22.006	0.225	51.309	0.370	0.087	21.251	0.000	0.096	4.639	0.003	0.004	0.002	0.008	100.000	翡翠
糸魚川-1	0.000	25.423	3.353	58.681	0.741	0.184	27.077	0.127	0.126	8.624	0.002	0.019	0.000	0.013	100.000	翡翠
糸魚川-2	0.027	0.000	3.684	94.801	1.128	0.000	0.086	0.165	0.000	0.096	0.001	0.007	0.001	0.004	100.000	翡翠
糸魚川-3	0.240	0.000	98.824	0.000	0.705	0.108	0.028	0.000	0.095	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	100.000	翡翠
翡翠-1	0.000	0.100	0.125	98.782	0.634	0.198	0.004	0.020	0.014	0.117	0.006	0.000	0.000	0.000	100.000	翡翠
翡翠-2	0.291	0.068	0.224	98.682	0.438	0.186	0.024	0.001	0.021	0.063	0.000	0.001	0.000	0.001	100.000	翡翠
翡翠-3	0.000	59.554	1.095	13.002	0.060	0.065	0.844	0.000	0.686	24.667	0.000	0.021	0.000	0.006	100.000	翡翠

ヒスイ1(表面)	13413	2.363	21.224	59.745	0.000	0.000	2.480	0.028	0.013	0.079	0.000	0.013	0.000	0.008	100.000	石製品
ヒスイ2(裏面)	13.353	2.360	21.609	59.616	0.000	0.000	2.405	0.017	0.013	0.0607	0.000	0.013	0.000	0.008	100.000	石製品



写 真 図 版



調査区遠景（上が北東）



調査区全景（上が北）

写真図版 1 航空写真



調査区近景（南西側・南西から）

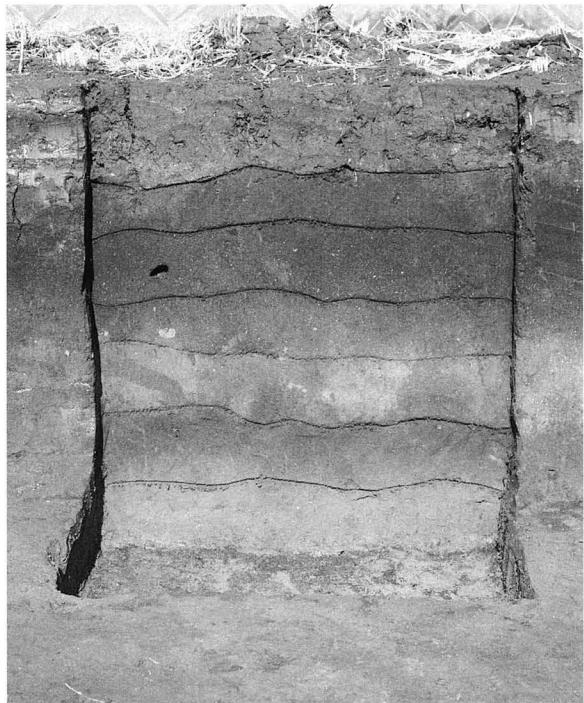


調査区中央部（道路部分・南から）

写真図版2 調査区



II B 19 f 基本土層



I C 9 i 基本土層

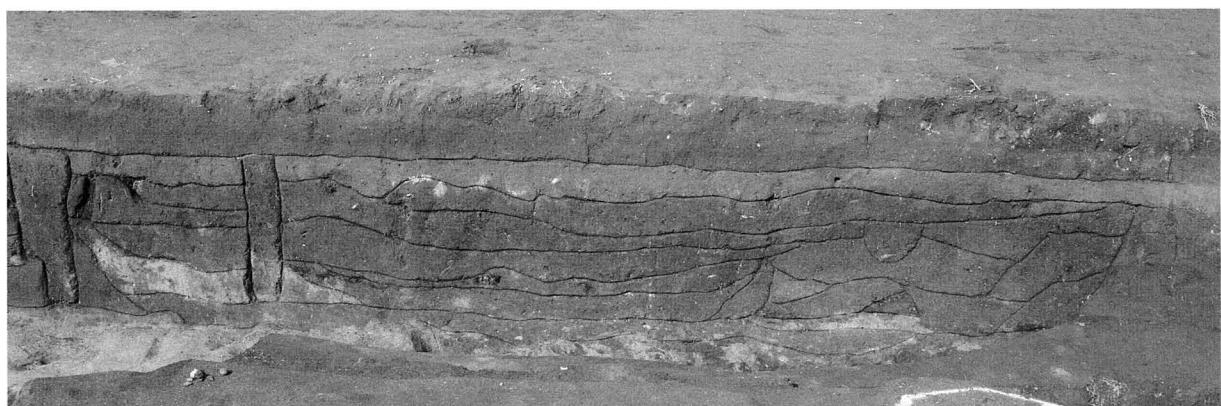


II B 14 j 基本土層（メインセクション）

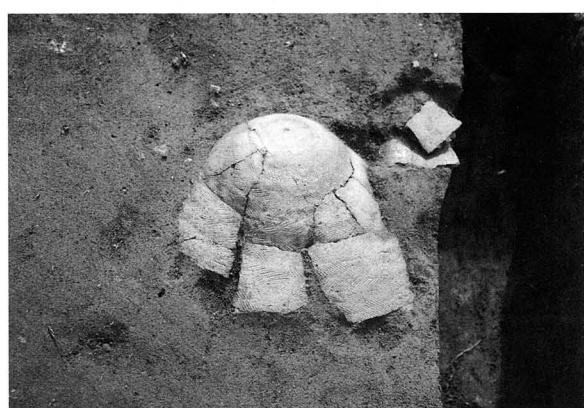
写真図版3 基本土層



1号住居跡（平面・NE→）



埋土断面



土器（6）



土器（4）

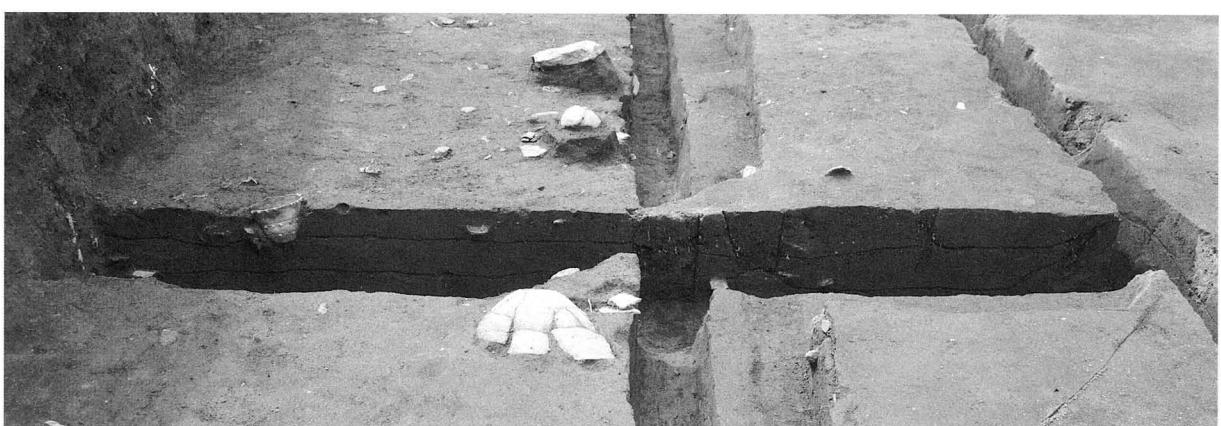
写真図版4 1・2号住居跡



2号住居跡（検出・NW→）



埋土断面（NE-SWベルト・NW→）

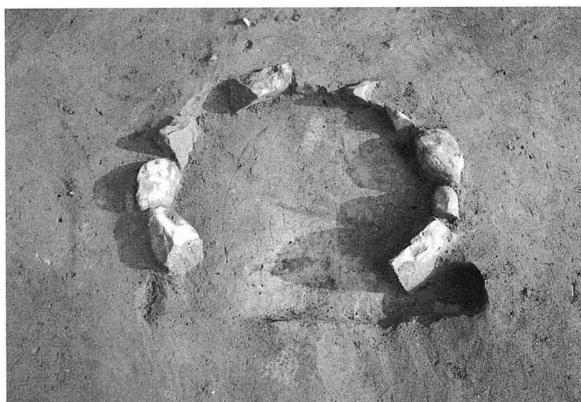


埋土断面（SE-NWベルト・NE→）

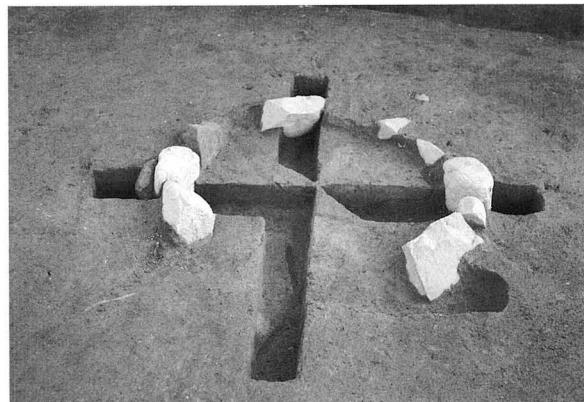
写真図版5 2号住居跡



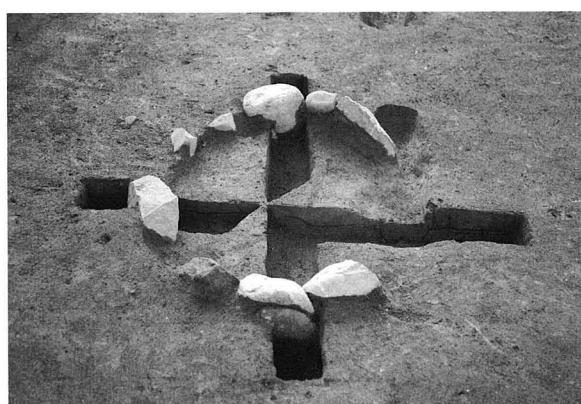
3号住居跡（平面・NW→）



炉跡（平面・NW→）



炉跡（断面・NW→）

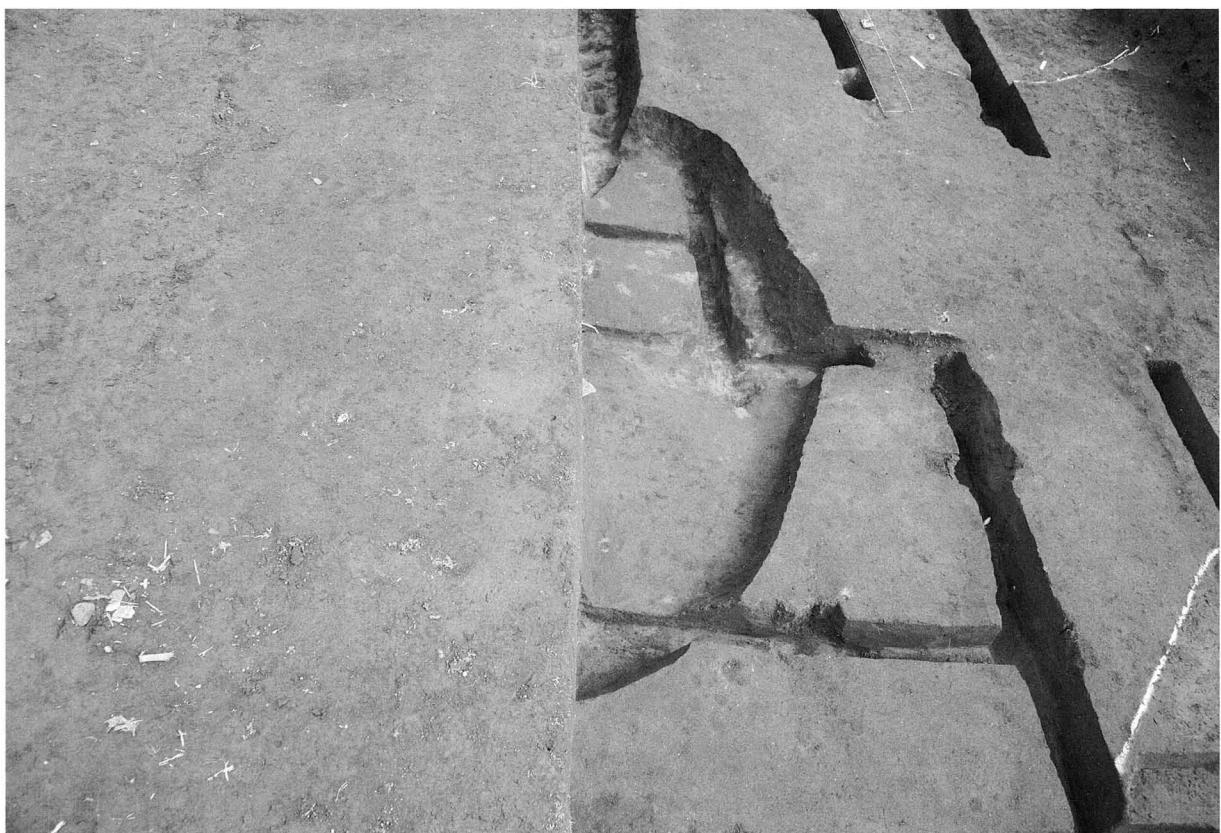


炉跡（断面・SE→）

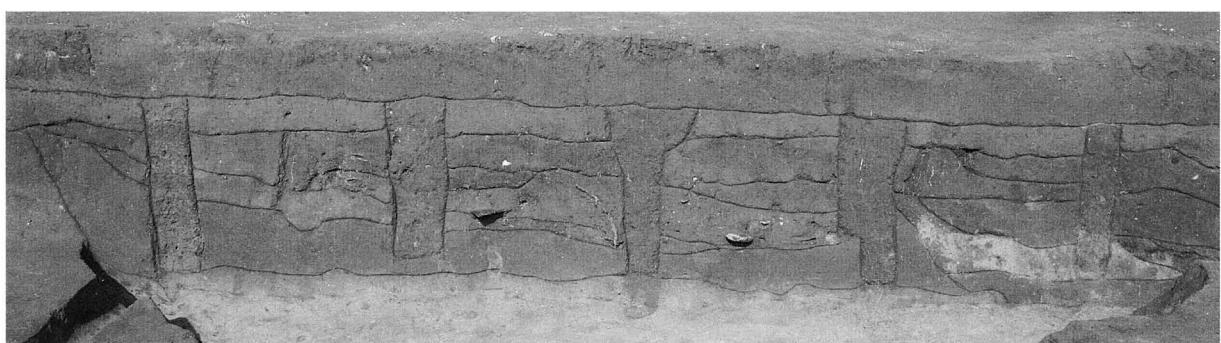


土器(8)出土状況（NW→）

写真図版6 3号住居跡



4号住居跡（平面・SW→）



埋土断面（SW-NE ベルト）

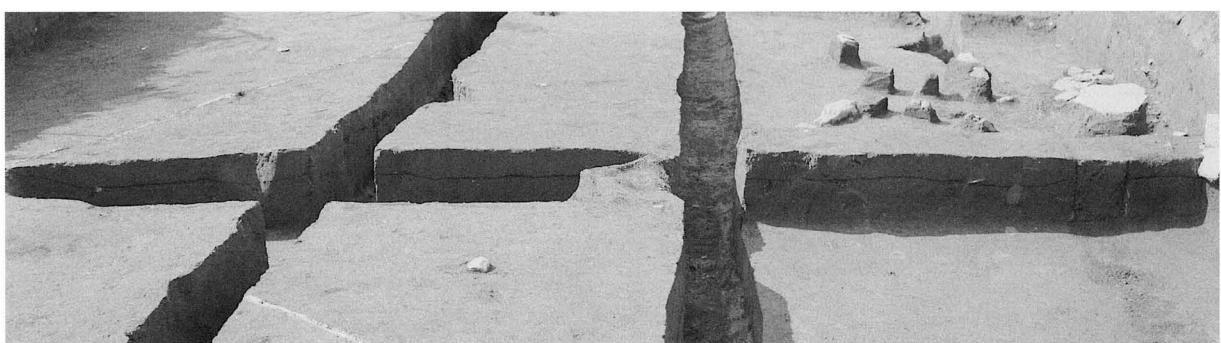


埋土断面（NW-SE ベルト）

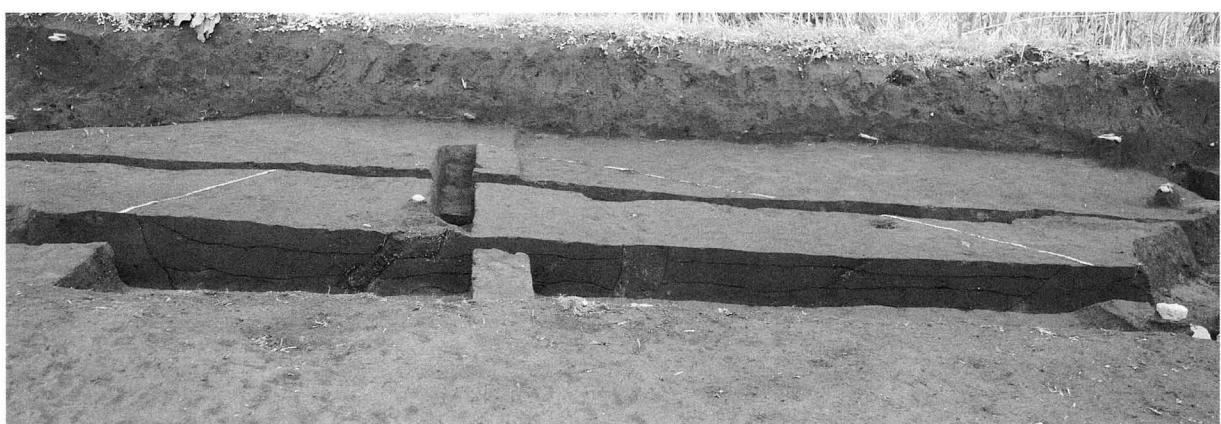
写真図版7 4号住居跡



5号住居跡（平面・NE→）



埋土断面（SE-NW ベルト）

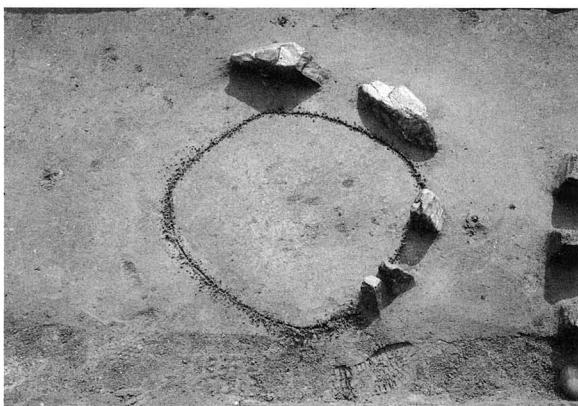


埋土断面（SW-NE ベルト）

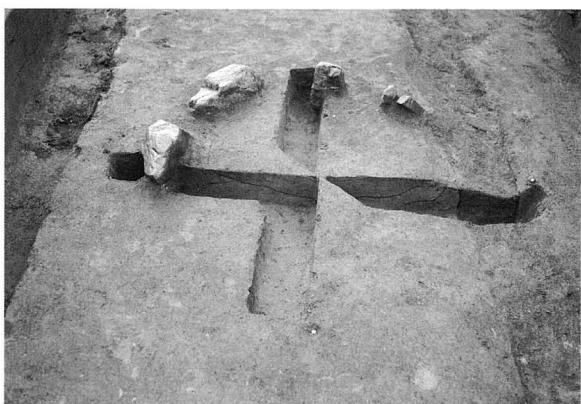
写真図版8 5号住居跡



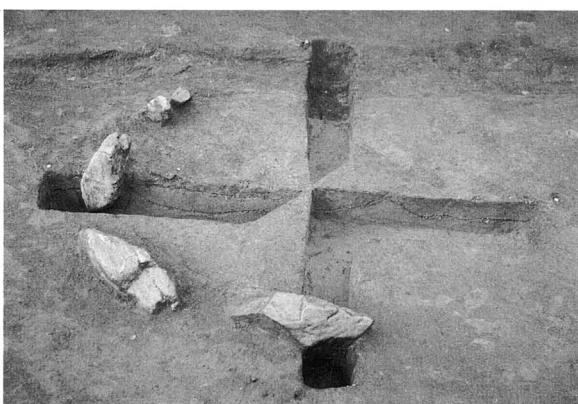
炉跡（検出①・NE →）



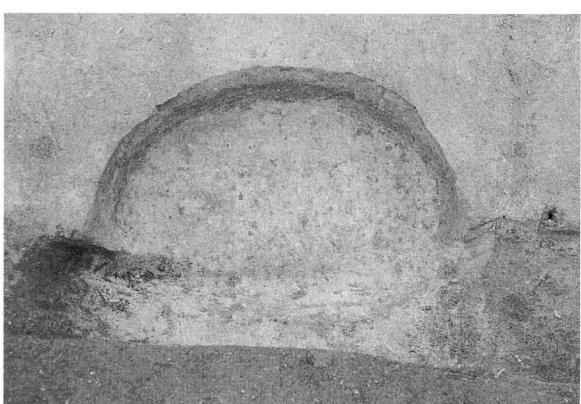
炉跡（検出②・NE →）



炉跡（断面・NE →）



炉跡（断面・SE →）



住居内土坑（断面・SE →）



5号住居跡完掘



住居内土坑（平面・SE →）

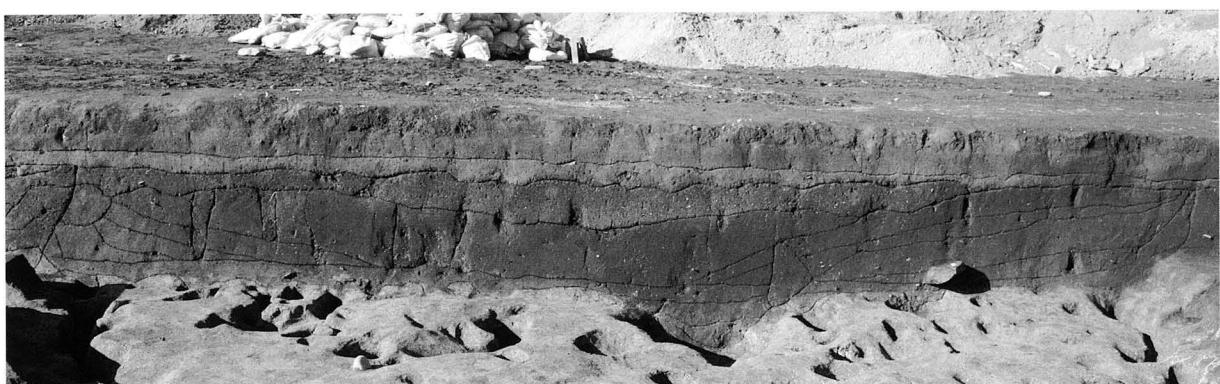


土器(32)出土状況

写真図版9 5号住居跡



6号住居跡（平面・NE→）



埋土断面（SW-NE ベルト・SE→）



埋土断面（NW-SE ベルト・SW→）

写真図版 10 6号住居跡



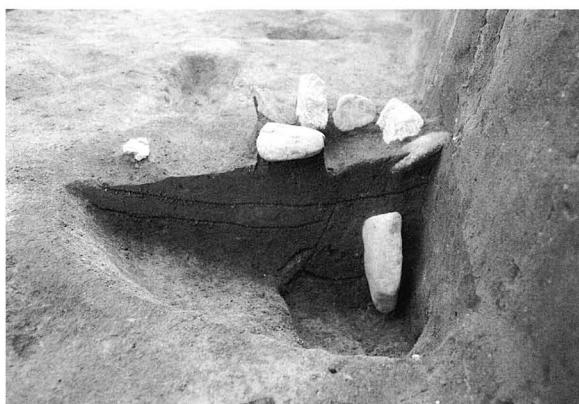
住居に廃棄されていた礫① (NW →)



住居に廃棄されていた礫② (W →)



掘り込みをもつ跡? (NW →)



断面 (NE →)



出土遺物① (石棒・NE →)



出土遺物② (土器・NE →)

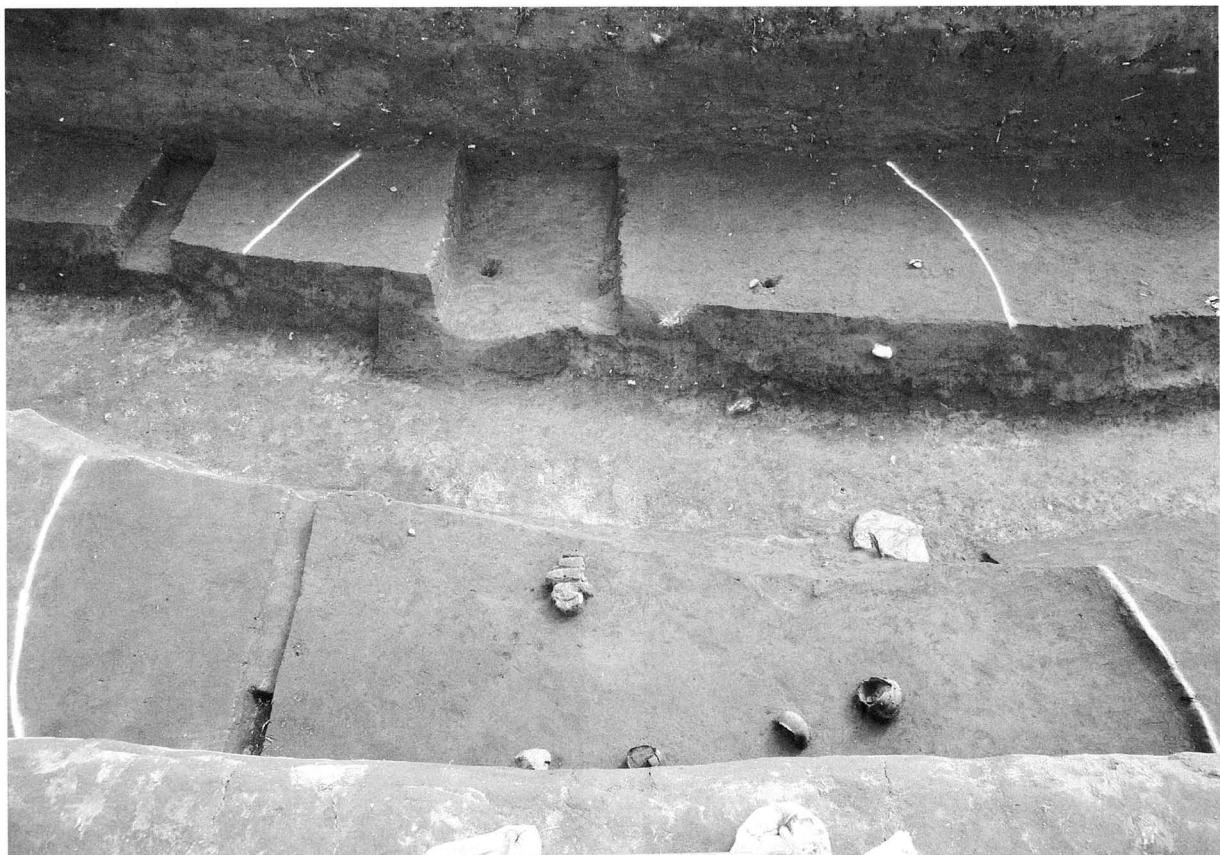


出土遺物③ (土器・NE →)



6号住居跡掘り方完掘 (NE →)

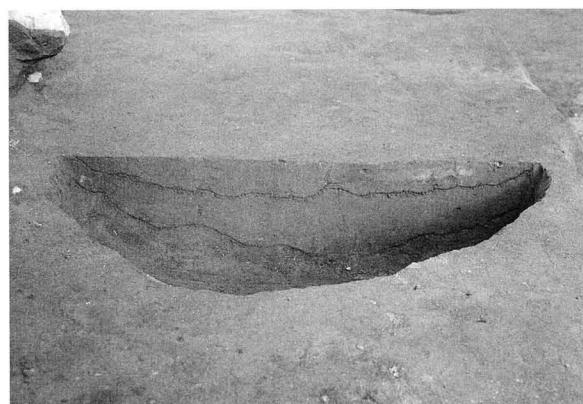
写真図版 11 6号住居跡



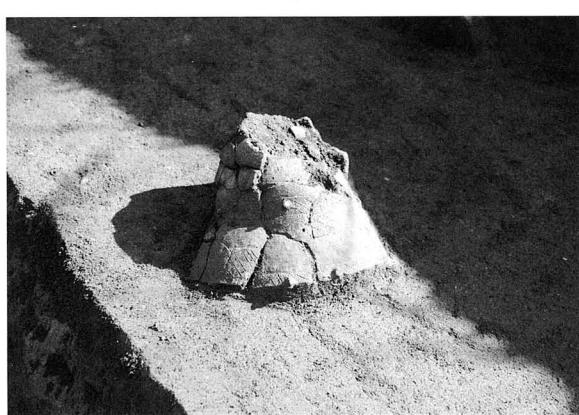
7号住居跡（平面・NW→）



完掘（平面・NW→）



土坑断面（SW→）



土器(49)出土状況（SW→）

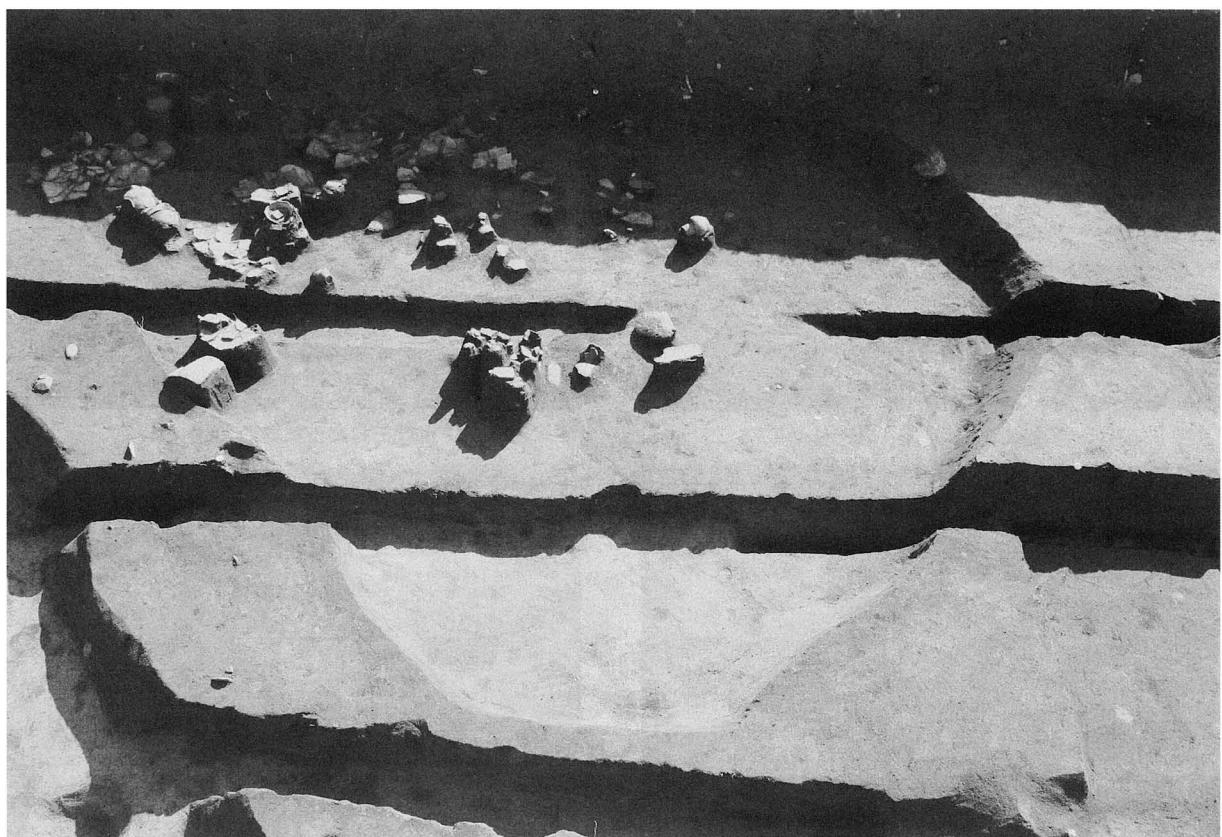


土器(46)出土状況（SW→）

写真図版 12 7号住居跡

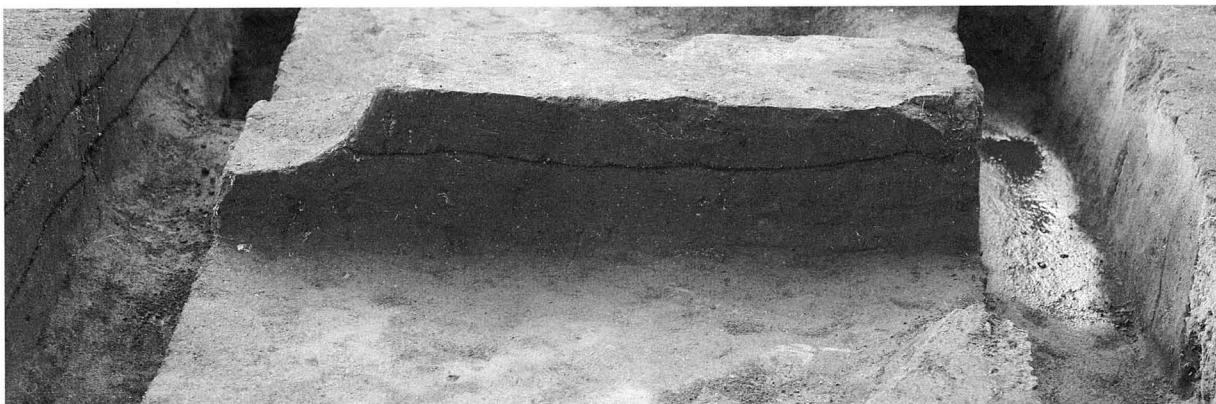


8号住居跡（平面・NW→）

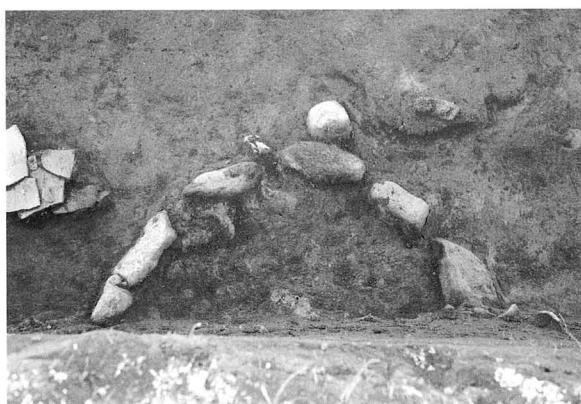


確認調査区分遺物出土状況（平面・NW→）

写真図版 13 8号住居跡



埋土断面 (SE-NW ベルト・NE →)



炉跡 (検出・SE →)



遺物出土状況① (NW →)



遺物出土状況② (SE →)



土器(61)出土状況① (SW →)



土器(69)出土状況② (SW →)

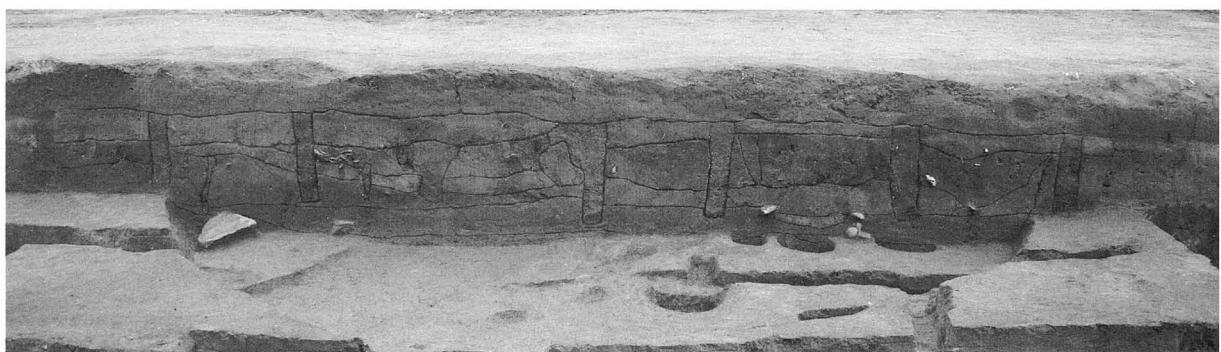


石製品(246)出土状況 (SW →)

写真図版 14 8号住居跡



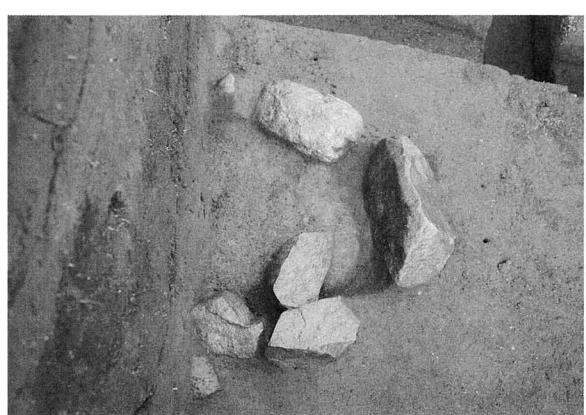
9号住居跡（平面・SW→）



埋土断面（SE→）



埋土断面（NE→）



炉跡（平面・NW→）

写真図版 15 9号住居跡



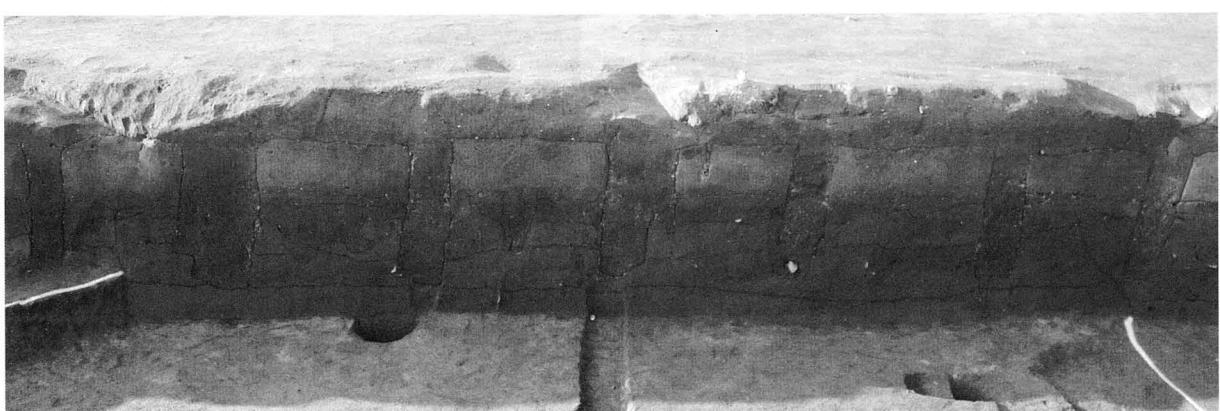
9号住居跡－炉跡（平面・SW→）



9号住居跡－炉跡（断面・SE→）

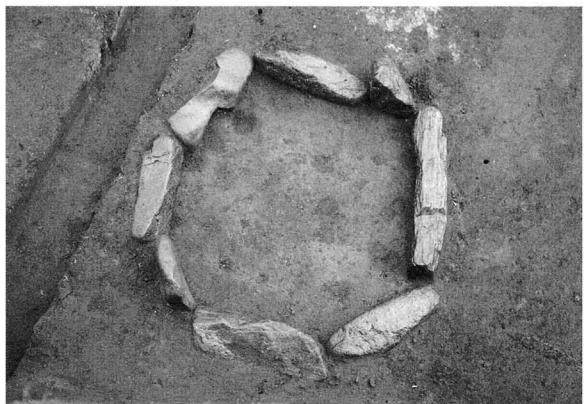


10号住居跡（平面・SE→）



10号住居跡（断面・SE→）

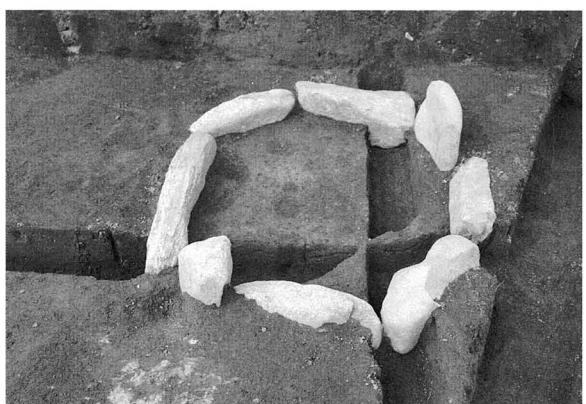
写真図版 16 9・10号住居跡



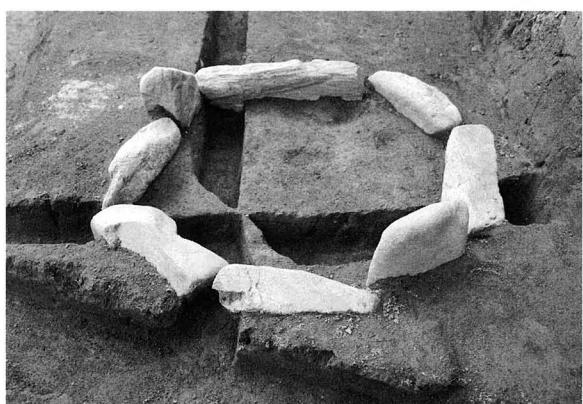
1号炉（平面・N→）



覆土断面 (S→)



断面 (S→)



断面 (E→)



1号炉に隣接する調査区壁面 (断面・SE→)

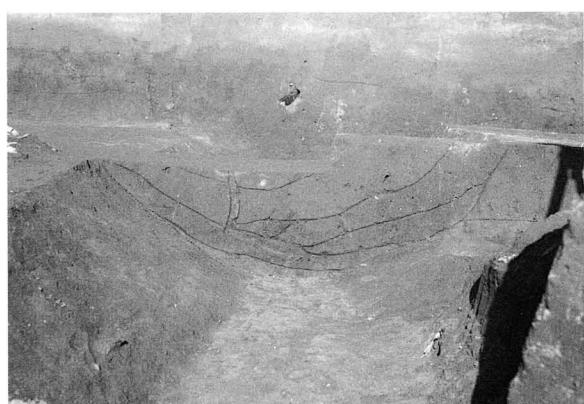
写真図版 17 1号炉



1号溝東側（平面・NE →）



1号溝西側（平面・SW →）



1号溝（断面①・SW →）



1号溝（断面②・SW →）

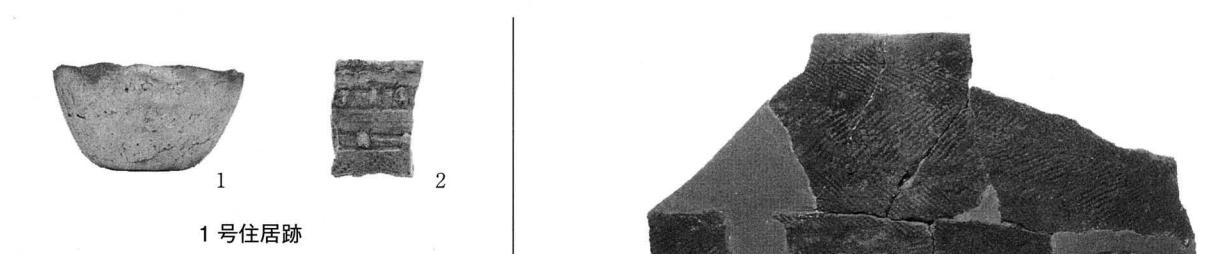


1号土坑（平面・W →）

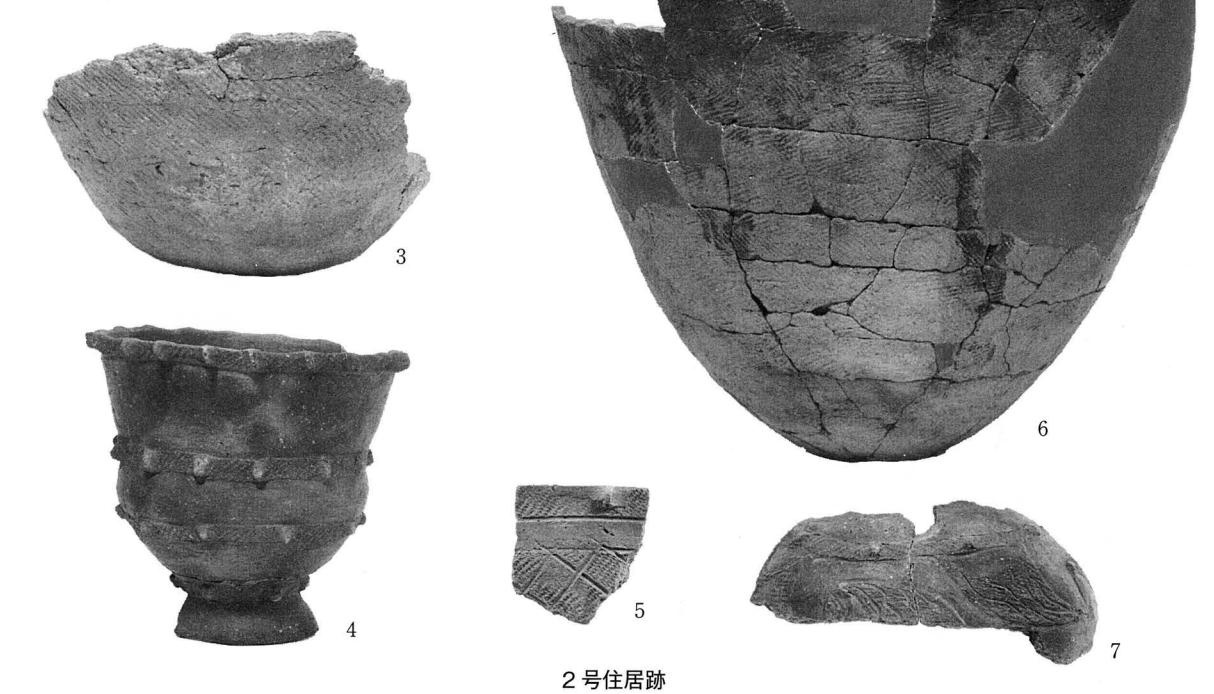


2号土坑（断面・NE →）

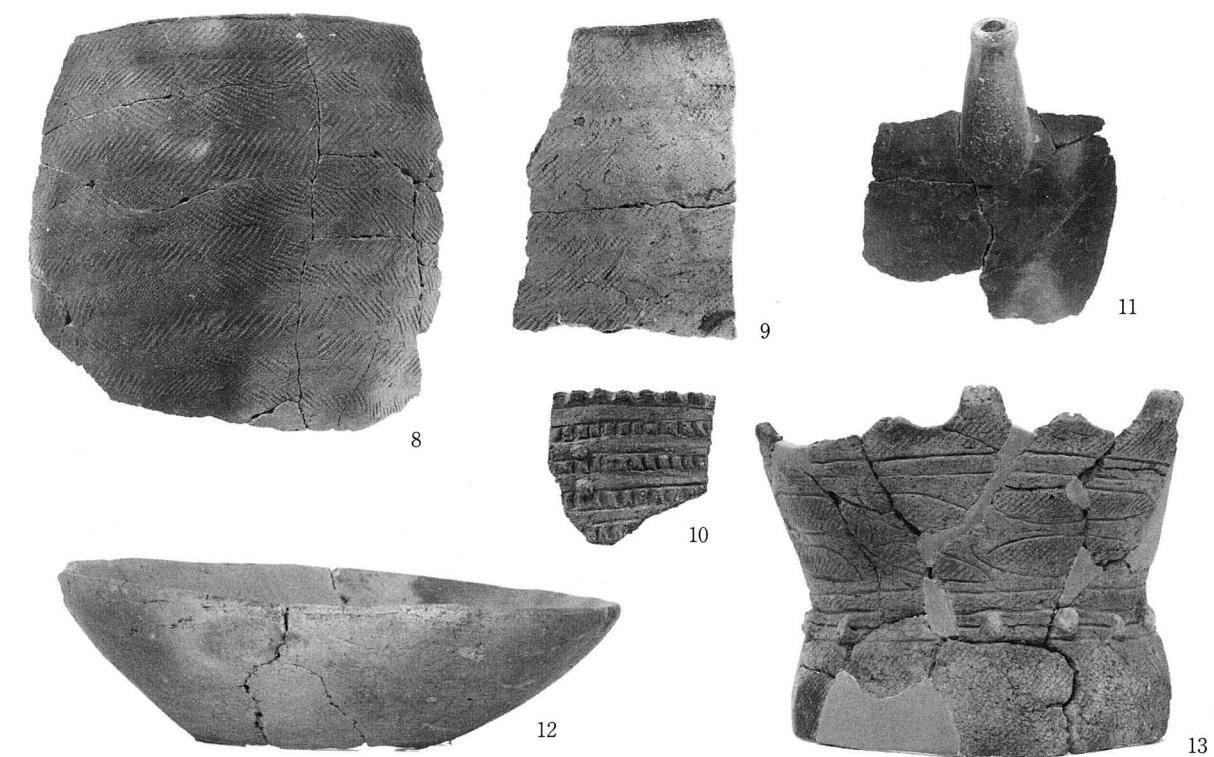
写真図版 18 1号溝、1・2号土坑



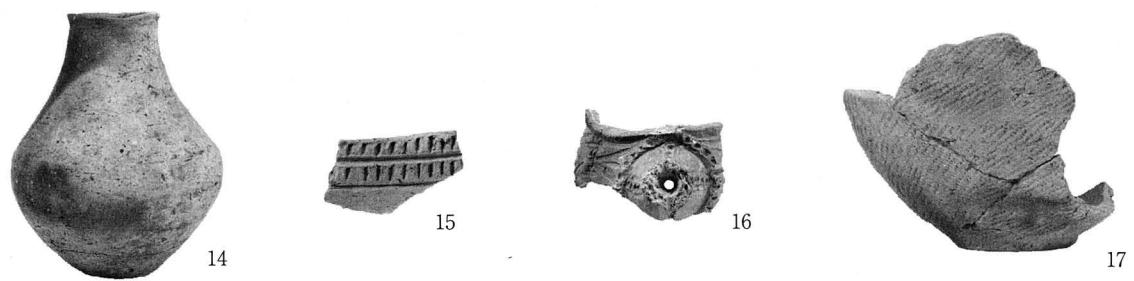
1号住居跡



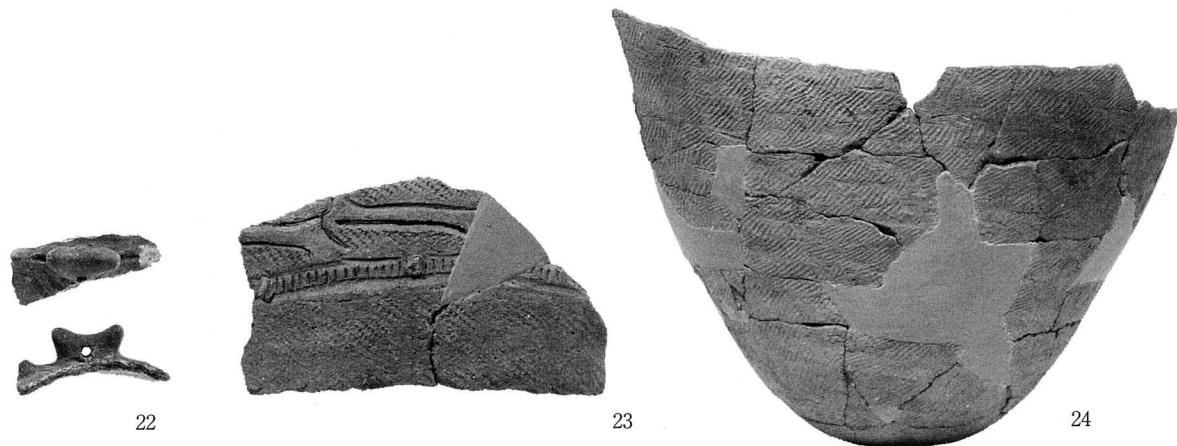
2号住居跡



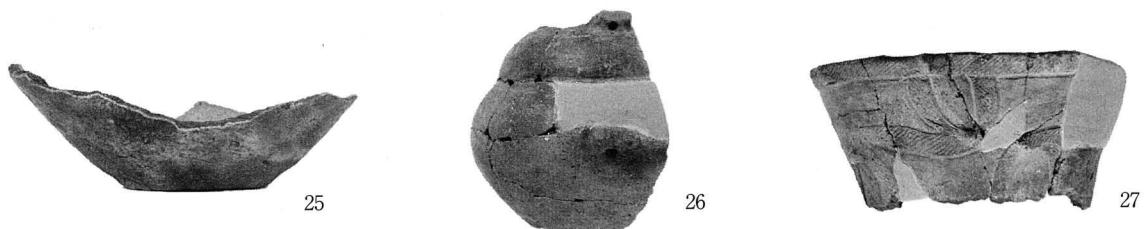
3号住居跡



3号住居跡

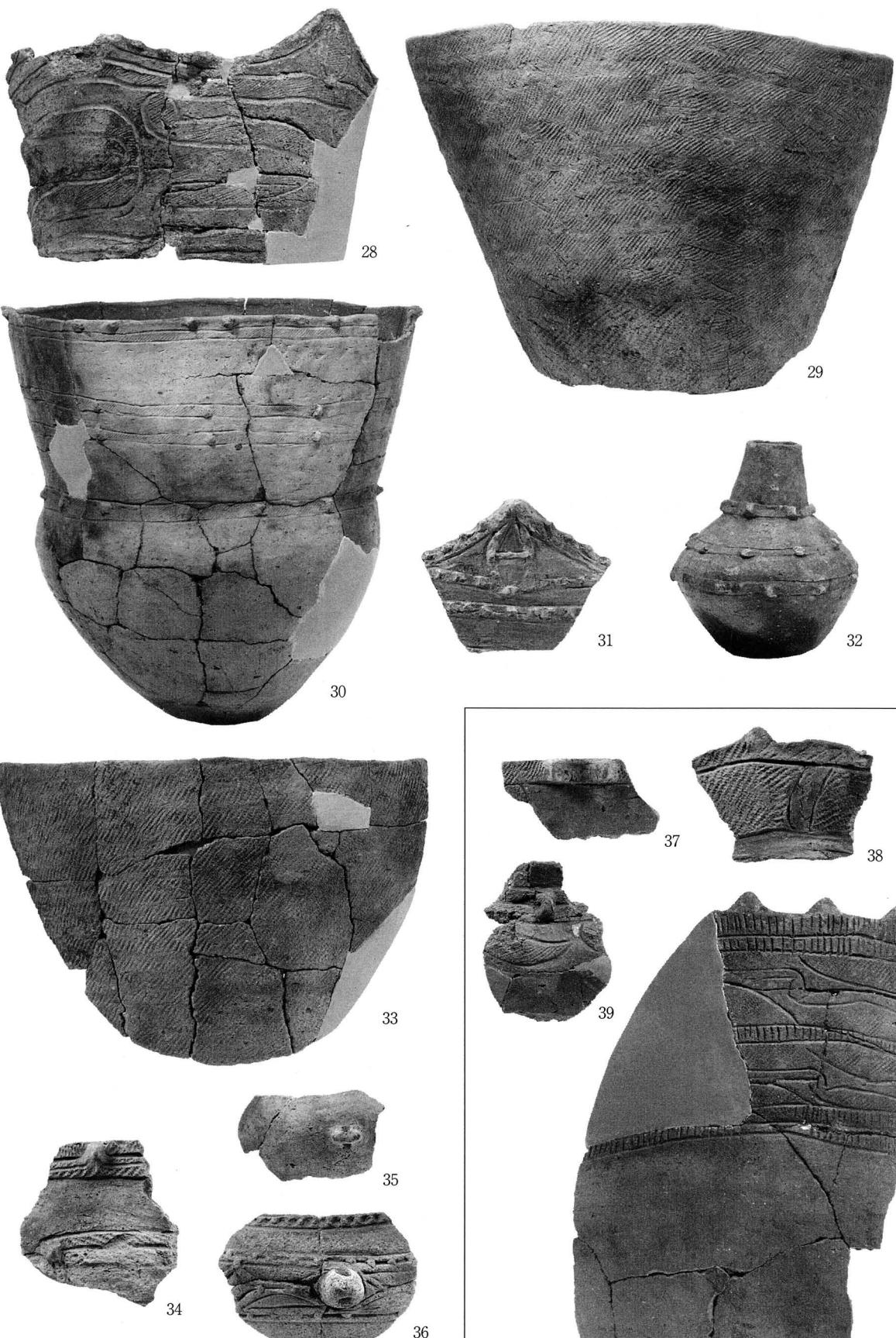


4号住居跡

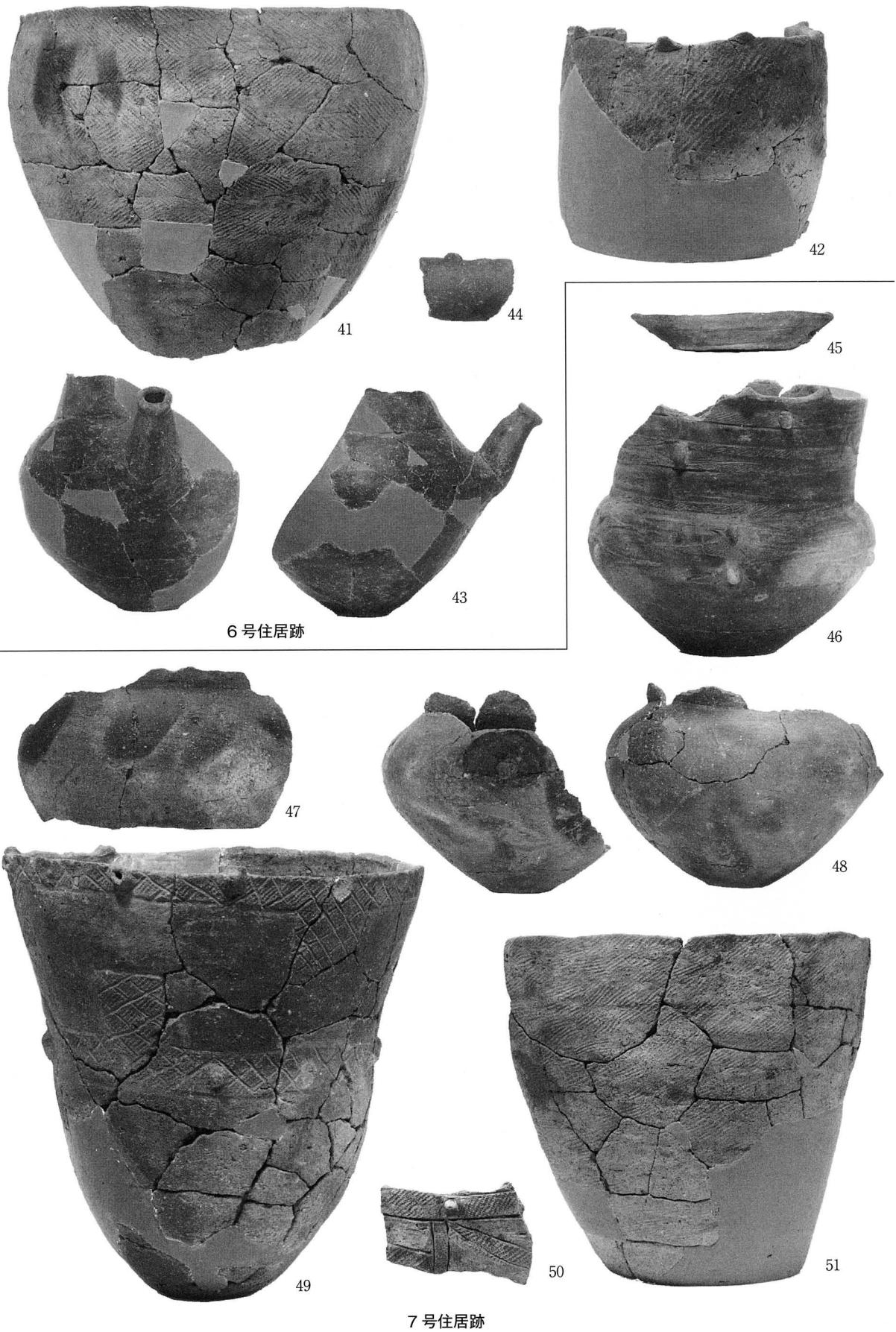


5号住居跡

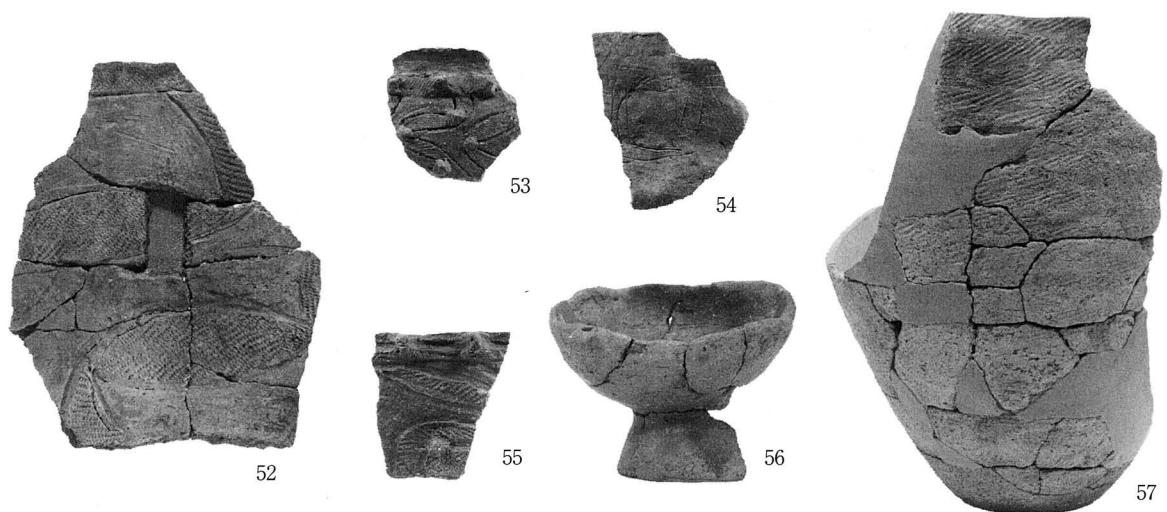
写真図版 20 遺構内出土土器（2）



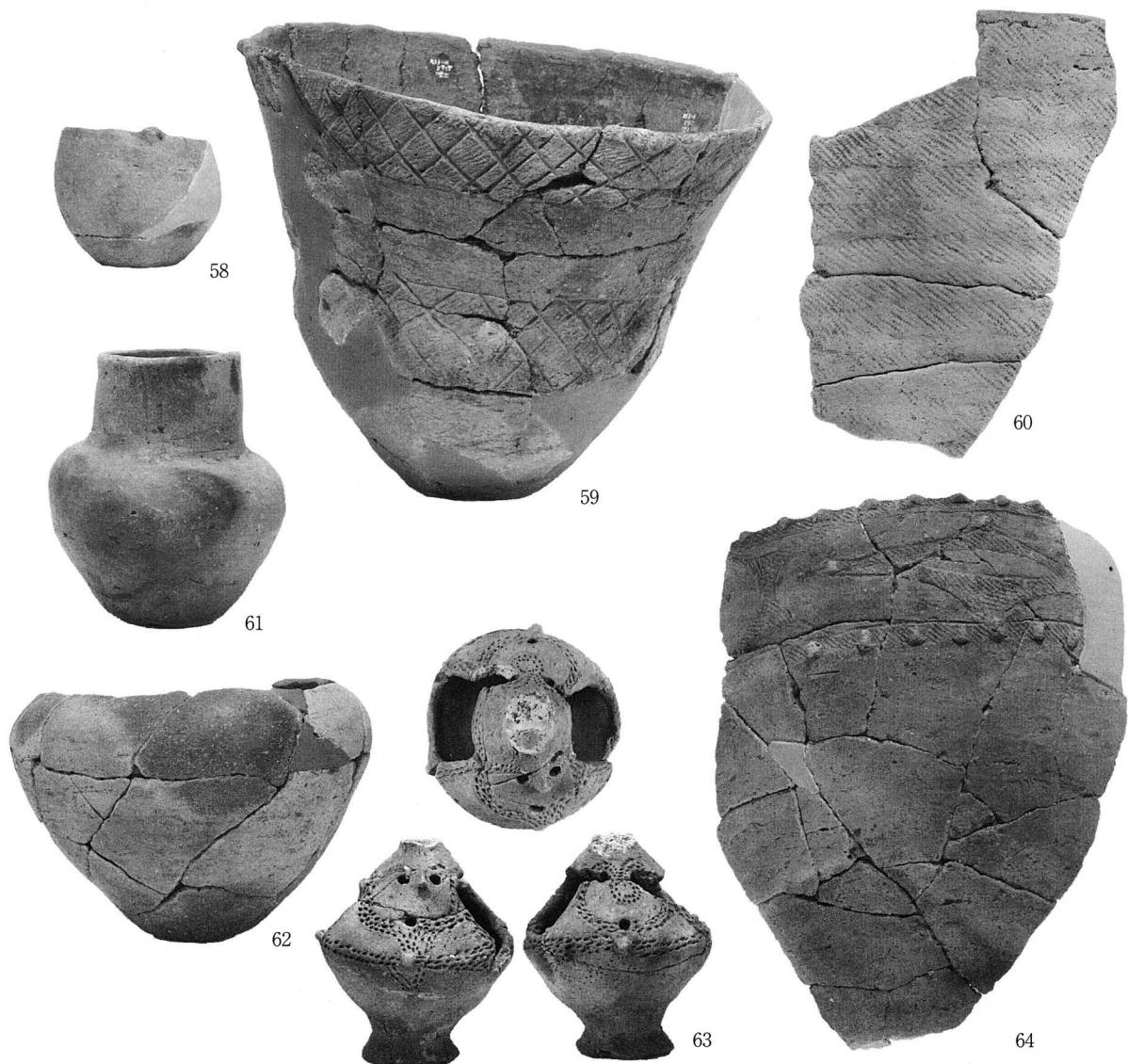
写真図版 21 遺構内出土土器（3）



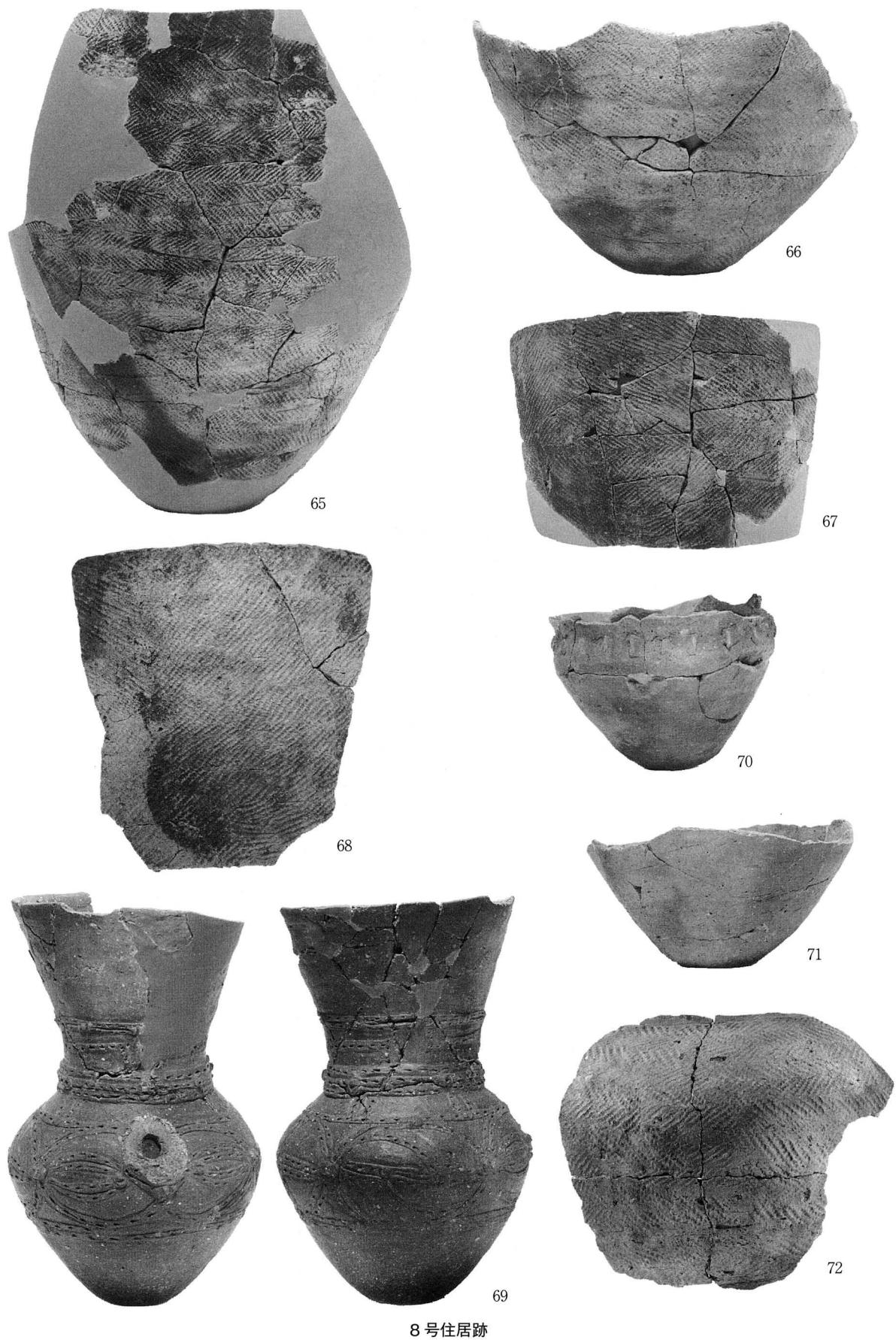
写真図版 22 遺構内出土土器（4）



7号住居跡

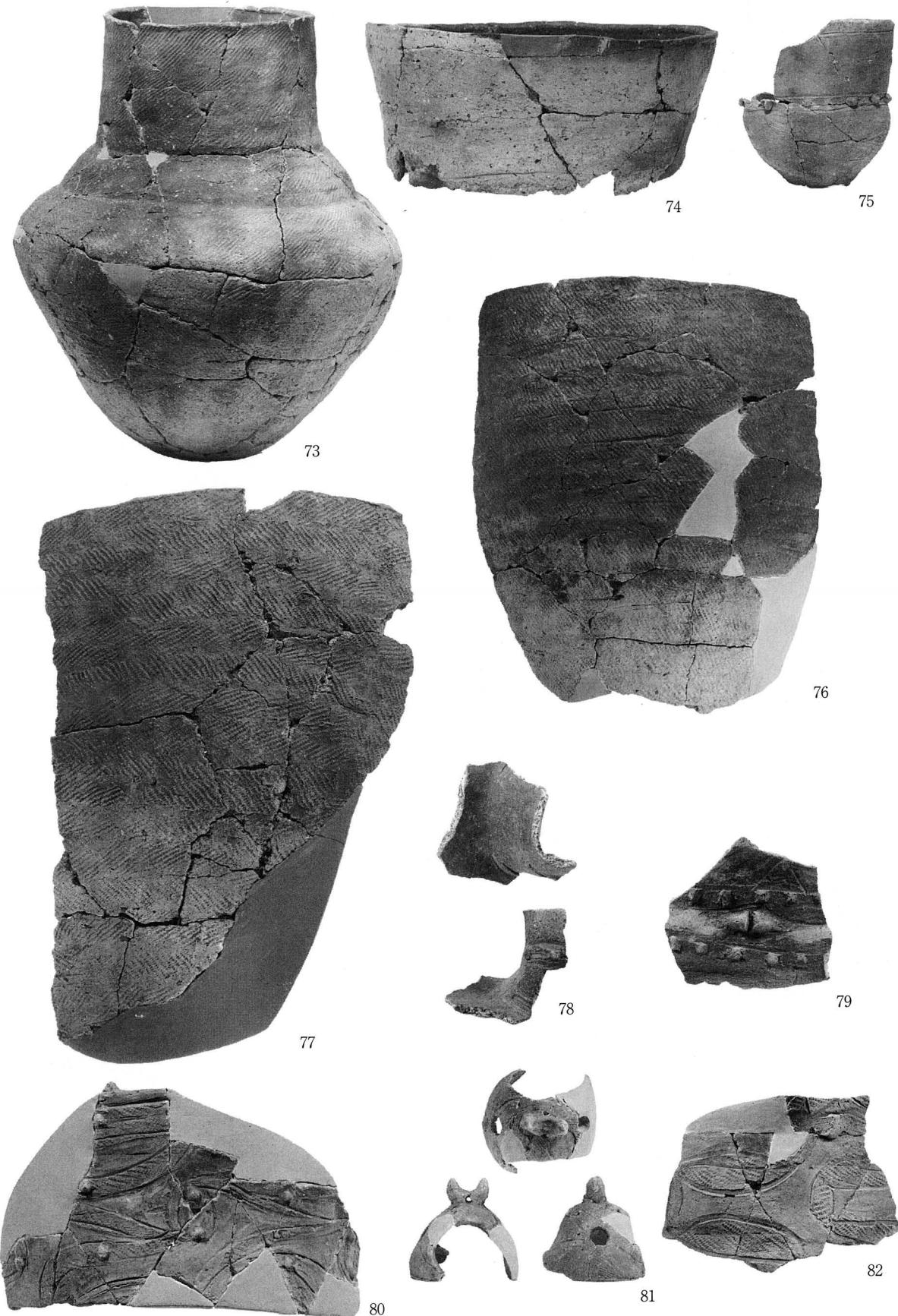


8号住居跡



8号住居跡

写真図版 24 遺構内出土土器 (6)



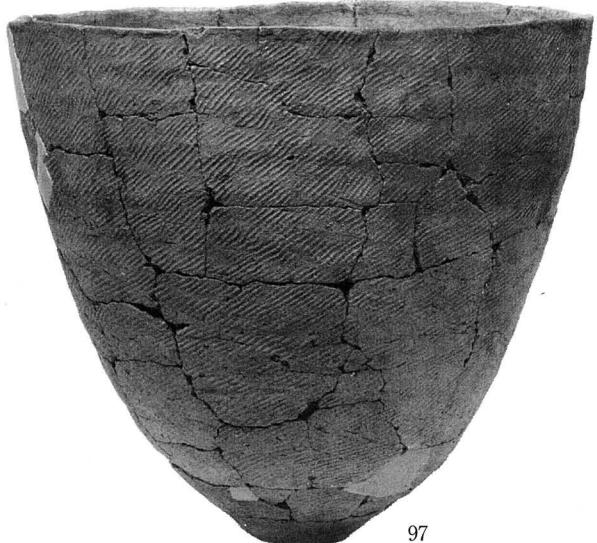
8号住居跡

写真図版 25 遺構内出土土器 (7)



8号住居跡（周辺含む）

写真図版 26 遺構内出土土器（8）



8号住居跡（周辺）



98



101

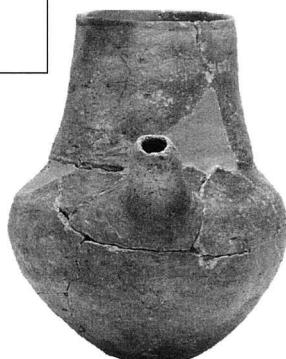


99



102

9号住居跡



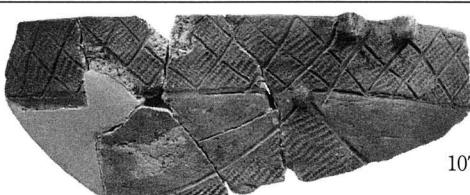
100



103



104



107

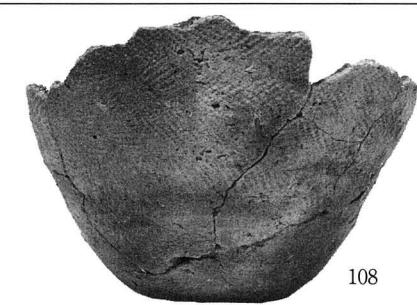


105



106

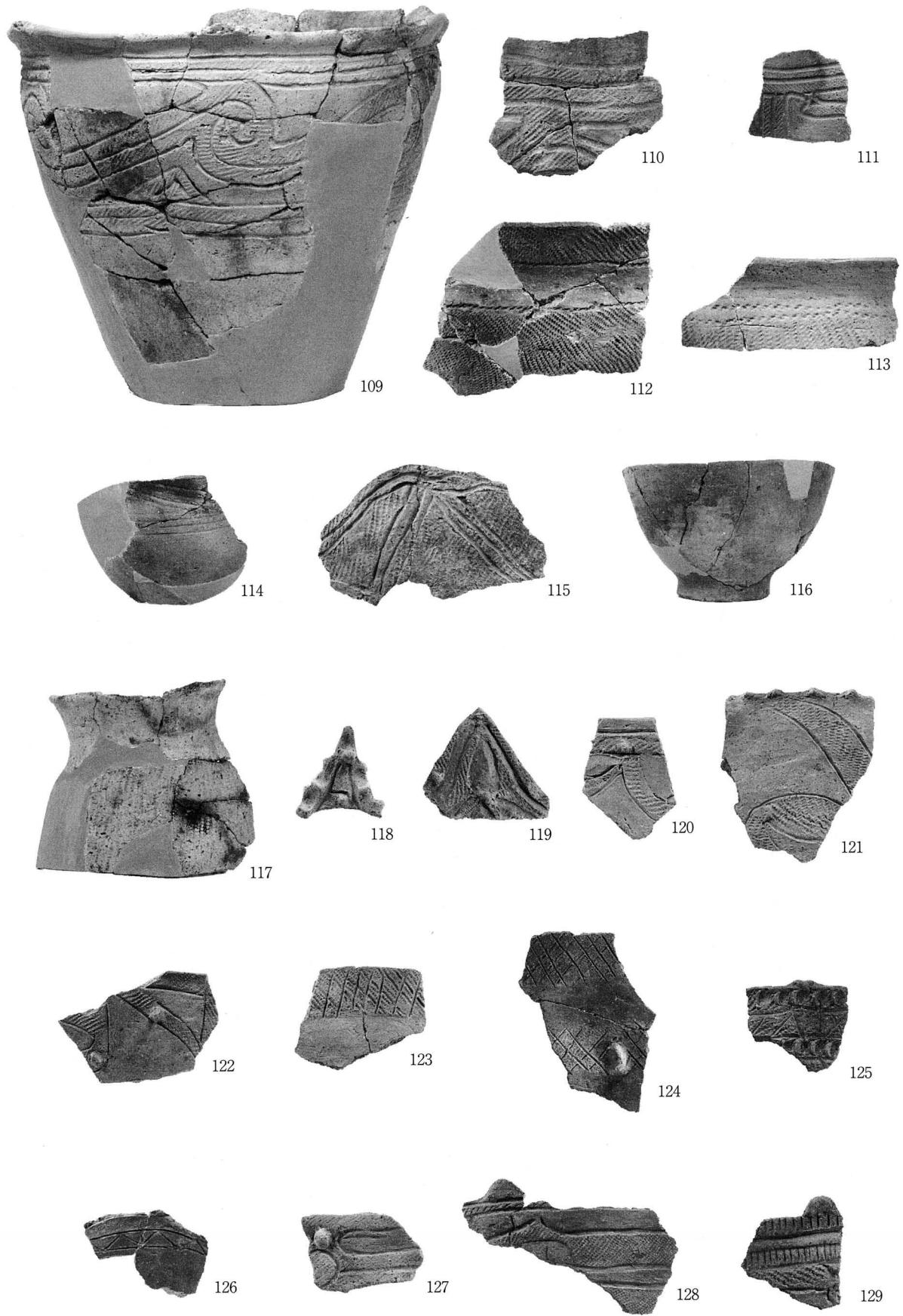
10号住居跡



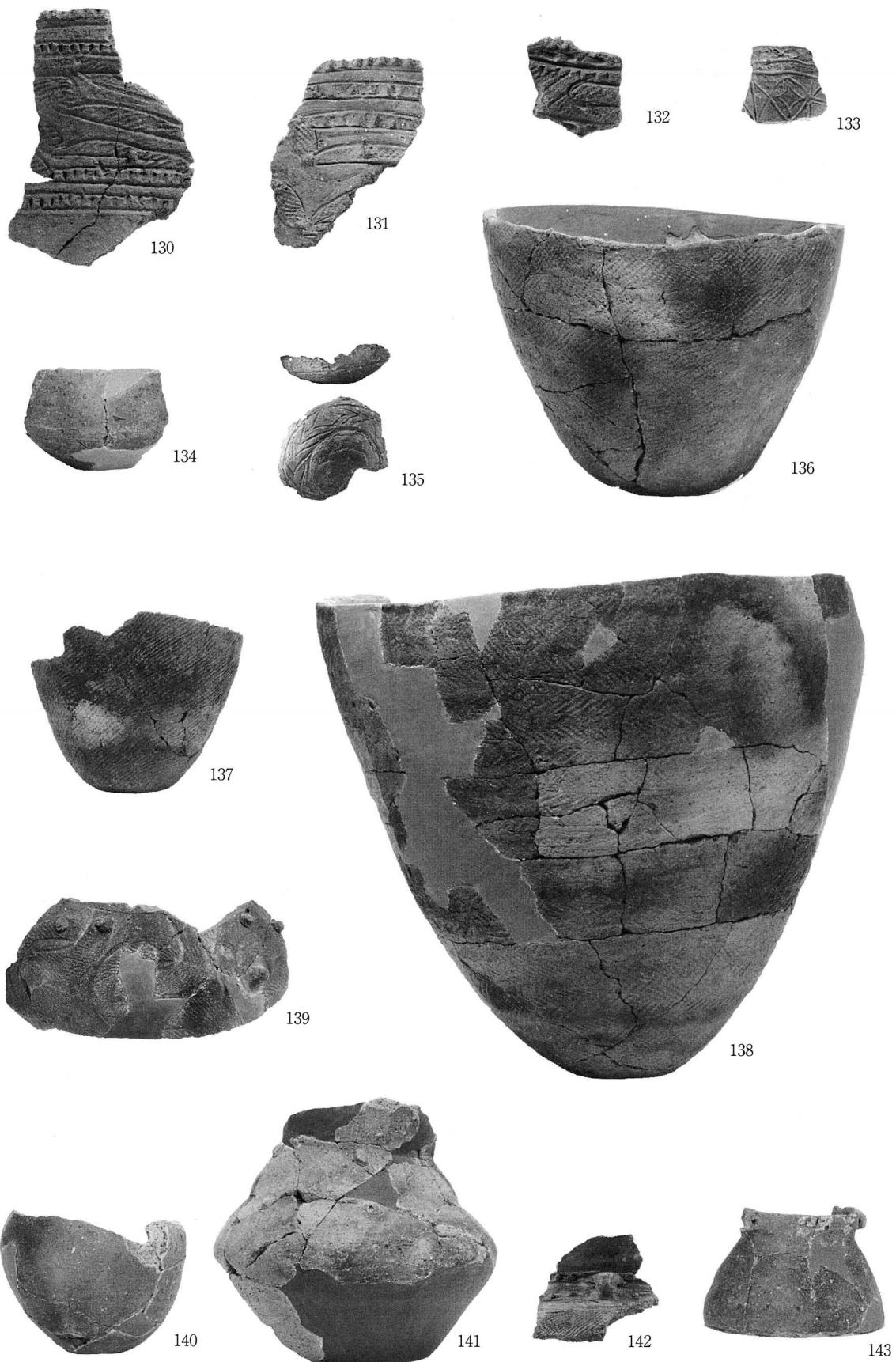
108

1号土坑

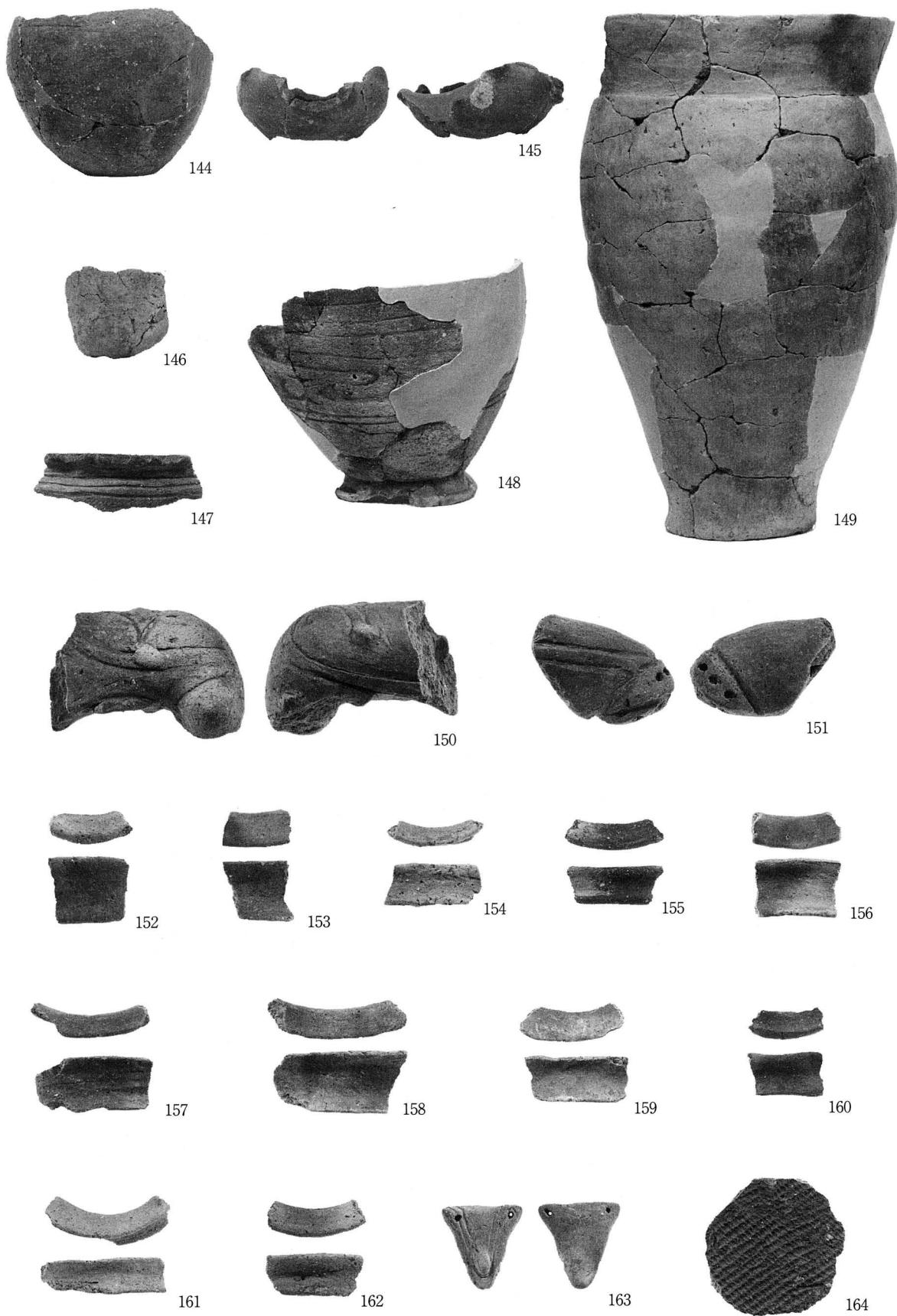
写真図版 27 遺構内出土土器（9）



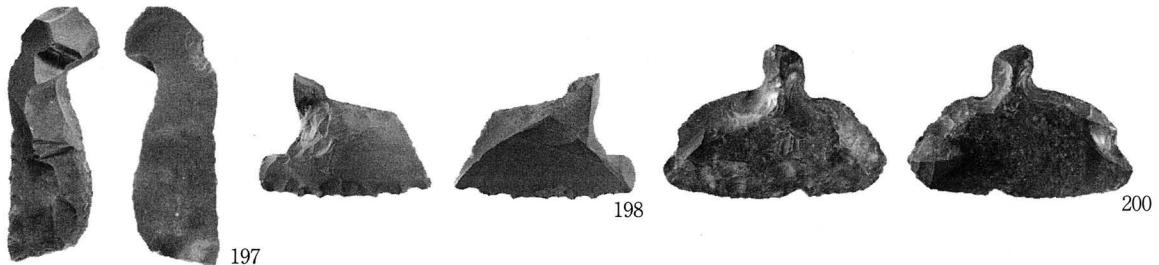
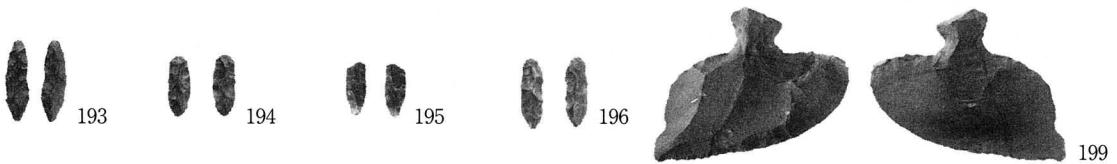
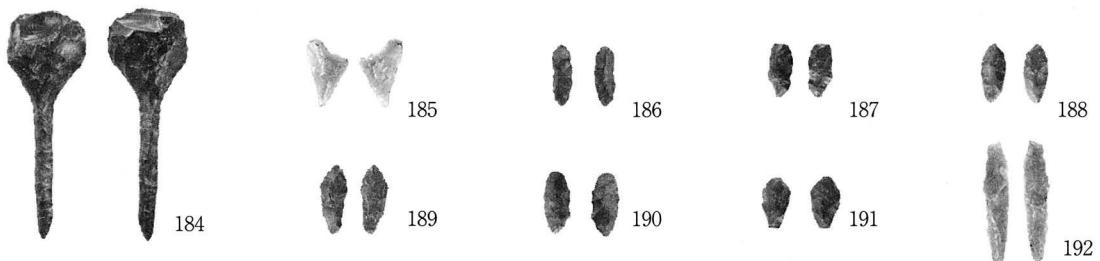
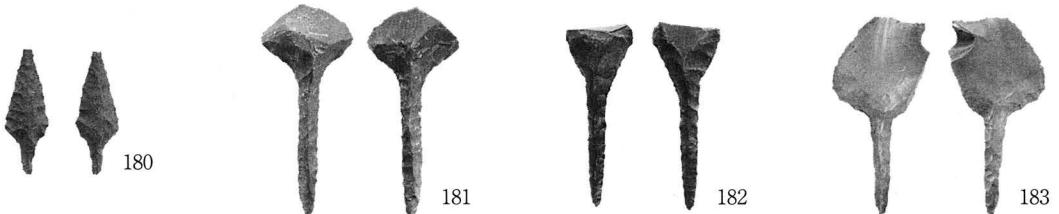
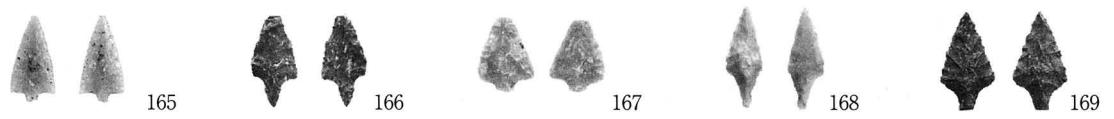
写真図版 28 遺構外出土土器（1）



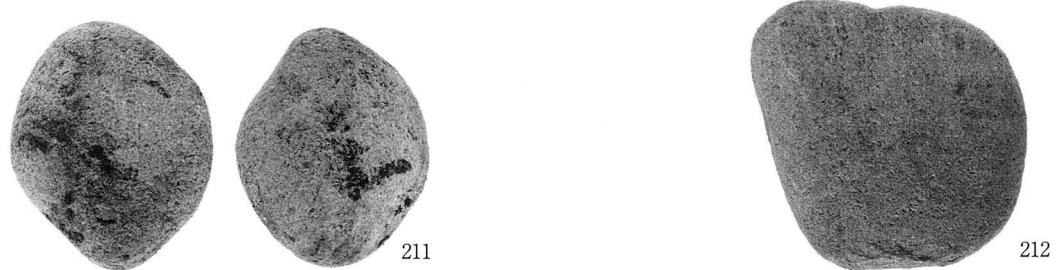
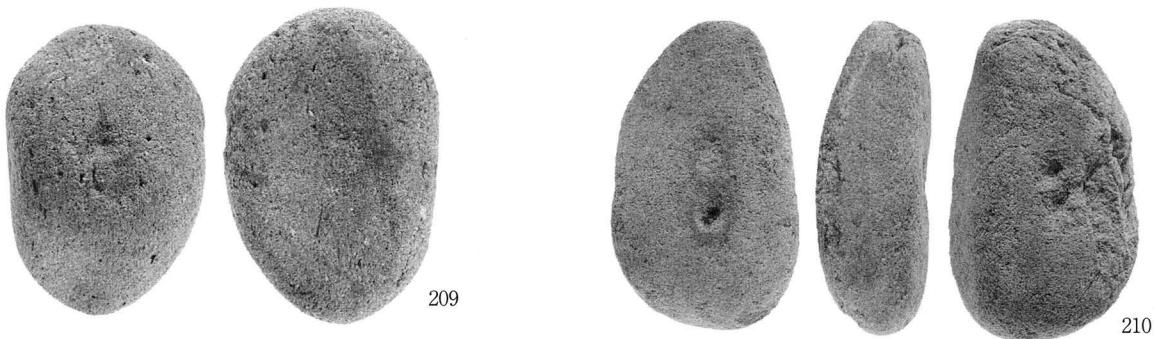
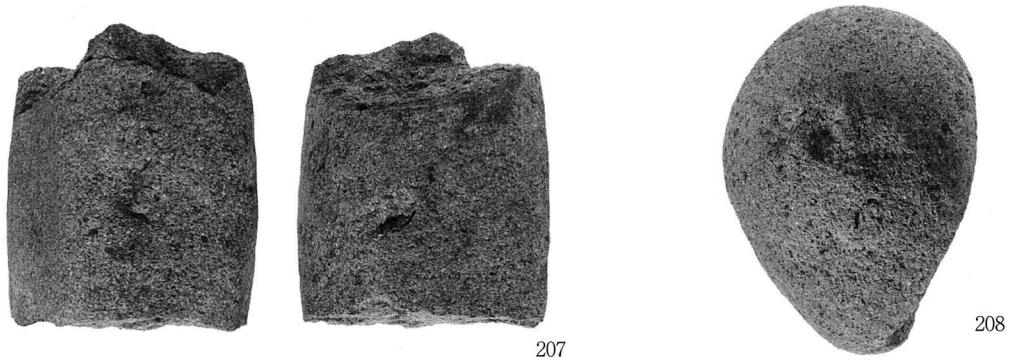
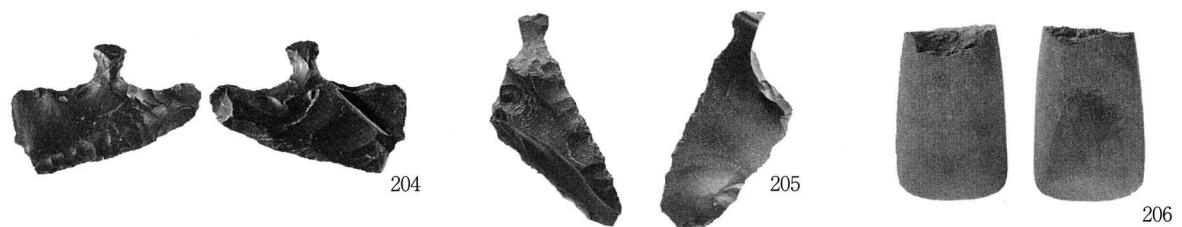
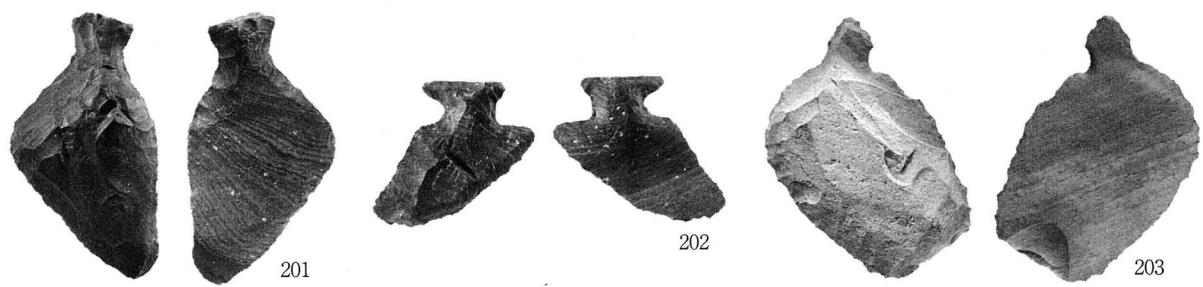
写真図版 29 遺構外出土土器（2）



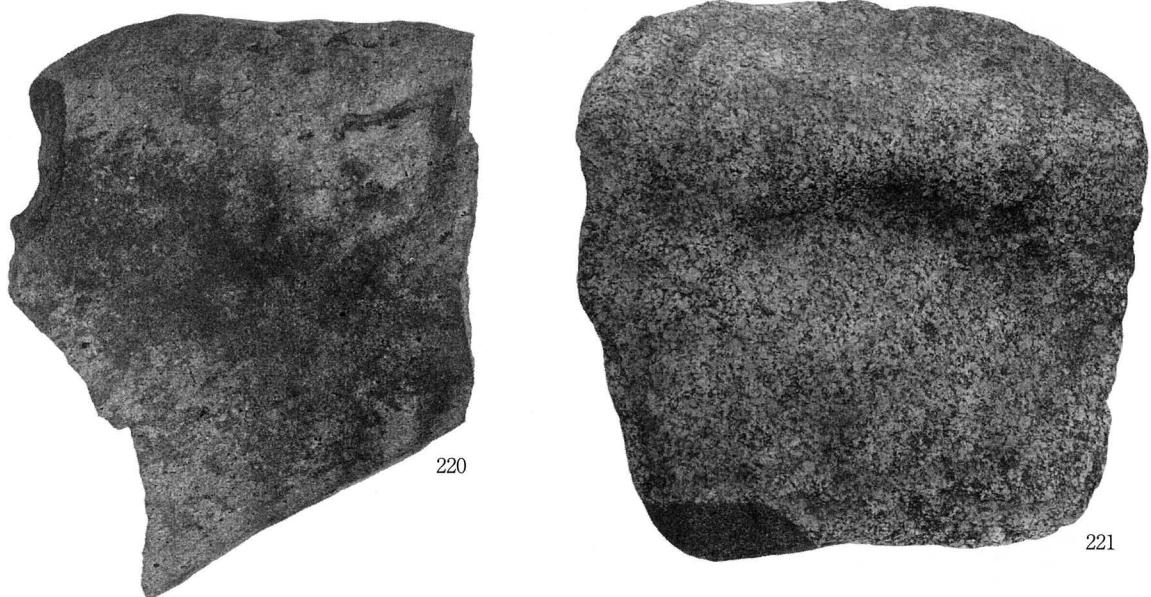
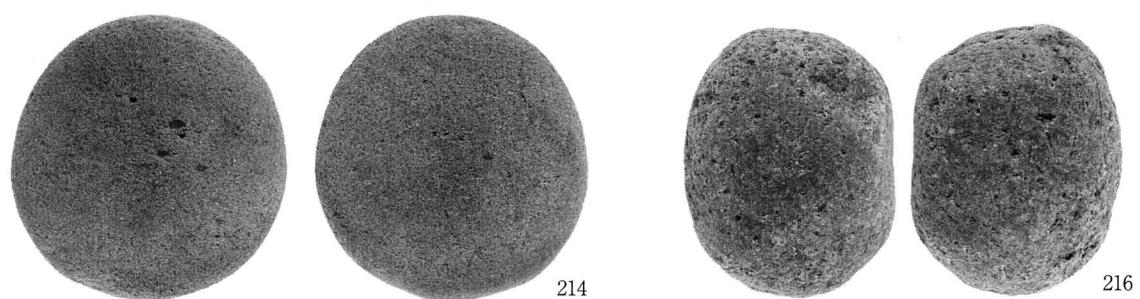
写真図版 30 遺構外出土土器（3）、土製品



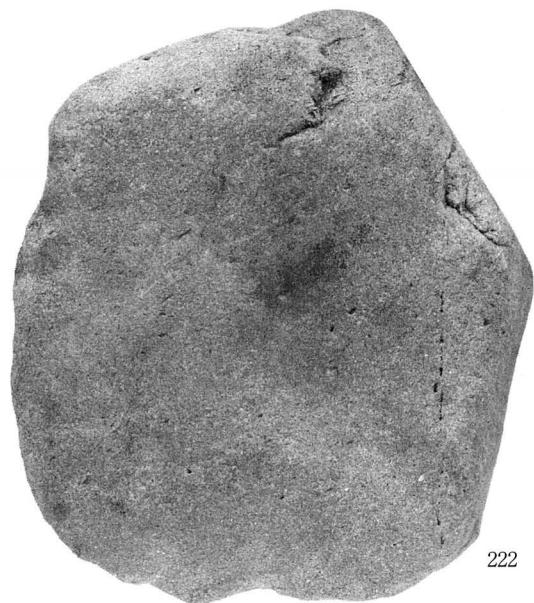
写真図版 31 石器 (1)



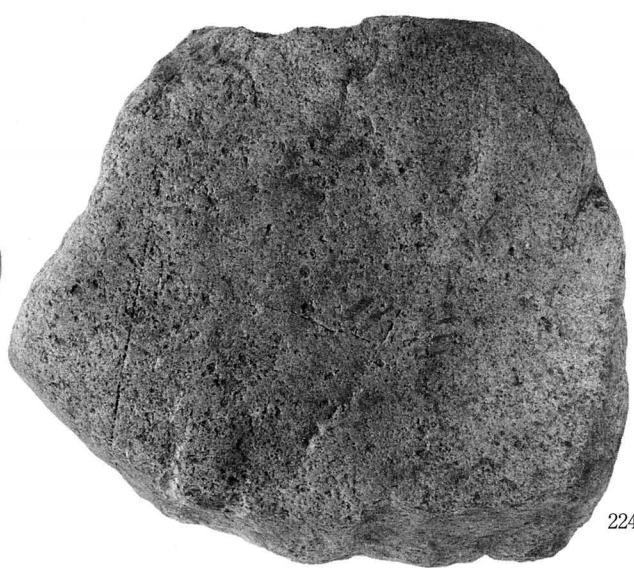
写真図版 32 石器 (2)



写真図版 33 石器 (3)



222



224



223

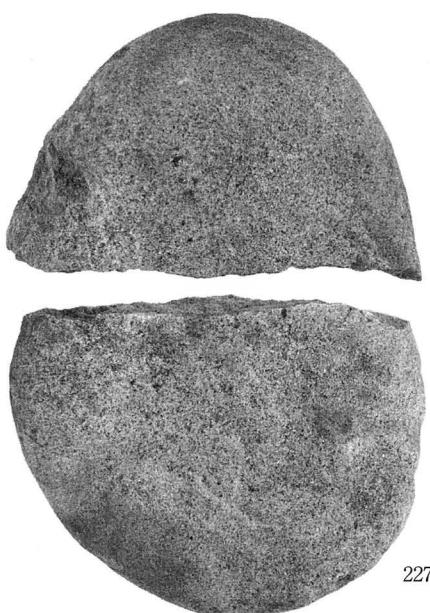


225



226

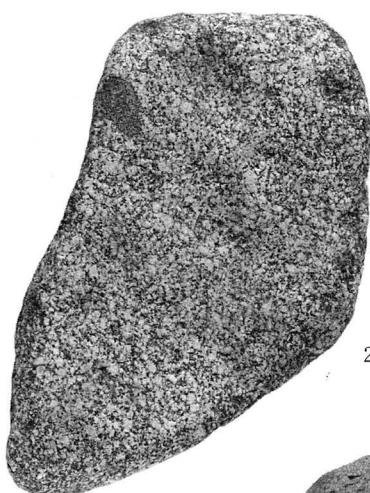
写真図版 34 石器 (4)



227



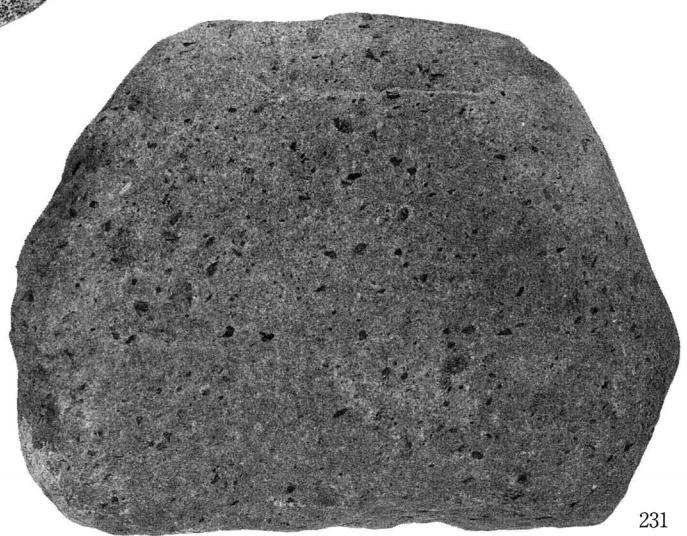
229



228



230



231

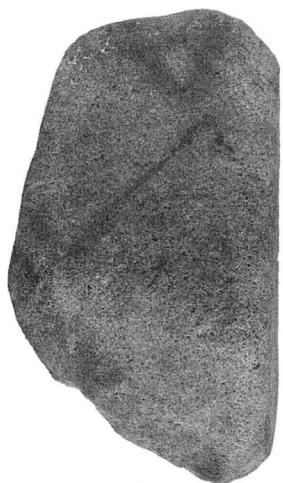
写真図版 35 石器 (5)



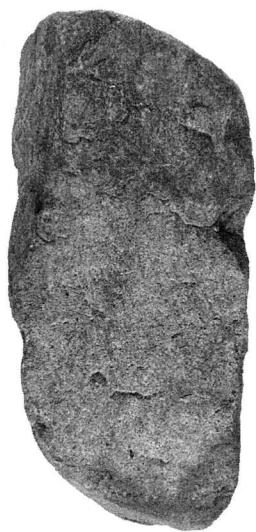
232



233



234



235



236



237

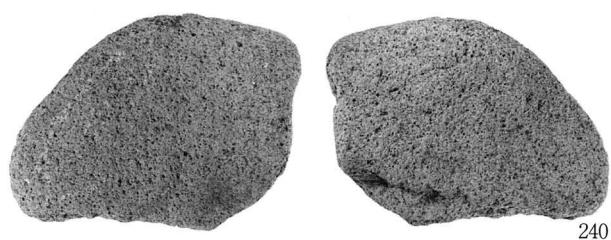


238

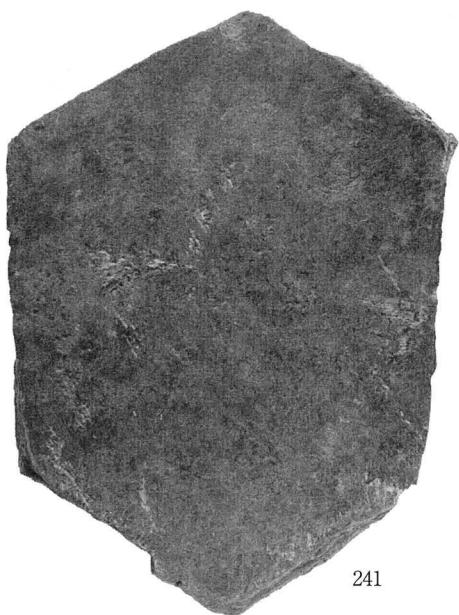


239

写真図版 36 石器 (6)



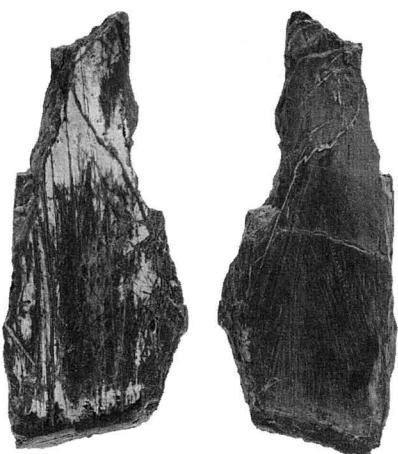
240



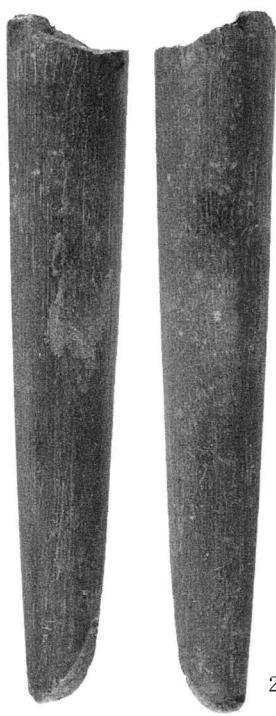
241



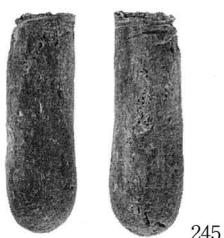
242



243



244



245



246

写真図版 37 石器 (7)、石製品

報告書抄録

ふりがな	こまいたさんいせきはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	駒板3遺跡発掘調査報告書							
副書名	中山間地域総合整備事業(大清水地区)関連遺跡発掘調査							
卷次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第563集							
編著者名	溜 浩二郎							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL(019) 638-9001							
発行年月日	2009年12月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積	調査原因
こまいたさんいせき 駒板3遺跡	いわてけんくのへぐん 岩手県九戸郡 かるまいまちおおざさんない 軽米町大字山内 だいいちらわりあごこまいた 第1地割字駒板 34-1ほか	市町村 03501	遺跡番号 IF92-1057	40度 17分 10秒	141度 24分 16秒	2008.09.01 ～ 2008.11.18	1,587 m ²	中山間地域総合 整備事業大清水 地区事業に伴う 緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
駒板3遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡	10棟	縄文土器・石器(後 期前葉～末葉中 心)、土製品(土偶 など)、石製品(石 棒など)、炭化種実 (オニグルミ・クリ)	縄文後期後葉～末葉の集落跡、住居跡 埋土から人面付香炉形土器・ヒスイ? 石製品出土。		
			炉跡	1基				
		古代	溝跡	1条	土師器甕	1点		
要約	今回の調査で駒板3遺跡は、縄文時代後期後葉を主体とする集落遺跡であることが明らかとなった。							

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 563 集
駒板 3 遺跡発掘調査報告書

中山間地域総合整備事業(大清水地区)関連遺跡発掘調査

印 刷 平成 21 年 12 月 21 日

発 行 平成 21 年 12 月 24 日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話(019)638-9001

発 行 岩手県二戸地方振興局農政部農村整備室
〒028-6103 岩手県二戸市石切所字荷渡 6-3
電話(0195)23-9207
(財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸 13 番 1 号
電話(019)654-2235

印 刷 第一印刷有限会社
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ四丁目 6-40
電話(019)646-6001

